

◆ コメントファイル目次 ◆

児童学科				※受講した学生の所属学科・科と、ファイルにおける分類が異なる場合があります。			
講義コード	科目名	教員名(コメント入力者)	ページ	講義コード	科目名	教員名(コメント入力者)	ページ
1035	キャリアデザイン<対象:大3児学AB前>	平野順子	3	1403	演劇表現<対象:大3育支C>	花輪充	58
1036	キャリアデザイン<対象:大3児学B後C>	平野順子	4	1404	育児支援研究<対象:大3育支AB前>	岩崎美智子	59
1170	保育方法論(情報機器の操作を含む)<対象:大3児学>	堀科	5	1405	育児支援研究<対象:大3育支B後C>	岩崎美智子	60
1171	児童学特別演習A<対象:大3児学A>	笹井邦彦	6	3612	保育内容演習(人間関係)<対象:大1児学A>	塚本美起子	61
1172	児童学特別演習A<対象:大3児学B>	笹井邦彦	7	3613	保育内容演習(人間関係)<対象:大1児学B>	塚本美起子	62
1173	児童学特別演習A<対象:大3児学C>	笹井邦彦	8	3614	保育内容演習(人間関係)<対象:大1児学C>	塚本美起子	63
1174	児童学特別演習B<対象:大3児学A>	小林由利子	9	3615	保育内容演習(環境)<対象:大1児学A>	佐藤康富	64
1175	児童学特別演習B<対象:大3児学B>	小林由利子	10	3616	保育内容演習(環境)<対象:大1児学B>	佐藤康富	65
1176	児童学特別演習B<対象:大3児学C>	小林由利子	11	3617	保育内容演習(環境)<対象:大1児学C>	佐藤康富	66
1177	児童学特別演習C<対象:大3児学A>	山本秀子	12	3620	子どもの保健<対象:大1児学>	木村美佳	67
1178	児童学特別演習C<対象:大3児学B>	山本秀子	13	3621	子ども家庭福祉<対象:大1児学>	岩崎美智子	68
1179	児童学特別演習C<対象:大3児学C>	山本秀子	14	3624	子どもの歌と伴奏<対象:大1児学>	西海聡子	69
1180	児童学特別演習D<対象:大3児学A>	石元みさと	15	3625	保育内容の理解と方法A(体育)<対象:大1児学A>	梅谷千代子	70
1181	児童学特別演習D<対象:大3児学B>	石元みさと	16	3626	保育内容の理解と方法A(体育)<対象:大1児学B>	梅谷千代子	71
1182	児童学特別演習D<対象:大3児学C>	石元みさと	17	3627	保育内容の理解と方法A(体育)<対象:大1児学C>	梅谷千代子	72
1185	教育・保育制度論<対象:大3児学AB前>	渡部晃正	18	3628	保育内容の理解と方法C(造形)<対象:大1児学A>	金山和彦	73
1186	教育・保育制度論<対象:大3児学B後C>	渡部晃正	19	3629	保育内容の理解と方法C(造形)<対象:大1児学B>	金山和彦	74
1188	保育の運動実技B<対象:大3児学>	梁川悦美	20	3630	保育内容の理解と方法C(造形)<対象:大1児学C>	金山和彦	75
1193	幼児と健康<対象:大3児学A>	鈴木隆	21	3631	保育内容の理解と方法D(言葉)<対象:大1児学A>	是澤優子	76
1194	幼児と健康<対象:大3児学B>	鈴木隆	22	3632	保育内容の理解と方法D(言葉)<対象:大1児学B>	是澤優子	77
1195	幼児と健康<対象:大3児学C>	鈴木隆	23	3633	保育内容の理解と方法D(言葉)<対象:大1児学C>	是澤優子	78
1205	保育内容「健康」の指導法<対象:大3児学A>	梁川悦美	24	3636	社会的養護Ⅱ<対象:大1児学A>	松本なるみ	79
1206	保育内容「健康」の指導法<対象:大3児学B>	梁川悦美	25	3637	社会的養護Ⅱ<対象:大1児学B>	松本なるみ	80
1207	保育内容「健康」の指導法<対象:大3児学C>	梁川悦美	26	3638	社会的養護Ⅱ<対象:大1児学C>	松本なるみ	81
1217	造形表現<対象:大3児学A>	川合沙弥香	27	3639	保育内容演習(表現)<対象:大1児学A>	花輪充	82
1218	造形表現<対象:大3児学B>	川合沙弥香	28	3640	保育内容演習(表現)<対象:大1児学B>	花輪充	83
1219	造形表現<対象:大3児学C>	川合沙弥香	29	3641	保育内容演習(表現)<対象:大1児学C>	花輪充	84
1220	演劇表現<対象:大3児学A>	花輪充	30	3642	保育の計画と評価<対象:大1児学AB前>	前田和代	85
1221	演劇表現<対象:大3児学B>	花輪充	31	3643	保育の計画と評価<対象:大1児学B後C>	前田和代	86
1222	演劇表現<対象:大3児学C>	花輪充	32	3665	子どもの栄養<対象:大2児学A>	高野貴子	87
1333	保育の楽器実技C<対象:大4児学/育支>	笹井邦彦	33	3666	子どもの栄養<対象:大2児学B>	高野貴子	88
1356	保育方法論(情報機器の操作を含む)<対象:大3育支>	堀科	34	3667	子どもの栄養<対象:大2児学C>	高野貴子	89
1357	育児支援特別演習A<対象:大3育支A>	渡部晃正	35	3668	障がい児保育演習<対象:大2児学A>	荒井庸子	90
1358	育児支援特別演習A<対象:大3育支B>	渡部晃正	36	3669	障がい児保育演習<対象:大2児学B>	荒井庸子	91
1359	育児支援特別演習A<対象:大3育支C>	渡部晃正	37	3670	障がい児保育演習<対象:大2児学C>	荒井庸子	92
1360	育児支援特別演習B<対象:大3育支AB前>	尾崎司	38	3671	児童学研究法<対象:大2児学A>	戸田雅美	93
1361	育児支援特別演習B<対象:大3育支B後C>	尾崎司	39	3672	児童学研究法<対象:大2児学B>	戸田雅美	94
1362	育児支援特別演習C<対象:大3育支A>	犬飼亜子	40	3673	児童学研究法<対象:大2児学C>	戸田雅美	95
1363	育児支援特別演習C<対象:大3育支B>	犬飼亜子	41	3679	保育内容の理解と方法B(音楽)<対象:大2児学A前B前C前>	西海聡子	96
1364	育児支援特別演習C<対象:大3育支C>	犬飼亜子	42	3680	保育内容の理解と方法B(音楽)<対象:大2児学A後B後C後>	西海聡子	97
1365	育児支援特別演習D<対象:大3育支>	木村美佳	43	3681	保育の造形実技A<対象:大2児学AB前>	金山和彦	98
1366	教育・保育制度論<対象:大3育支AB前>	渡部晃正	44	3682	保育の造形実技A<対象:大2児学B後C>	金山和彦	99
1367	教育・保育制度論<対象:大3育支B後C>	渡部晃正	45	3690	保育(遊び)指導論<対象:大2児学A>	戸田雅美	100
1369	保育の運動実技B<対象:大3育支>	梁川悦美	46	3691	保育(遊び)指導論<対象:大2児学B>	戸田雅美	101
1374	幼児と健康<対象:大3育支A>	梁川悦美	47	3692	保育(遊び)指導論<対象:大2児学C>	戸田雅美	102
1375	幼児と健康<対象:大3育支B>	梁川悦美	48	3693	子ども理解と援助<対象:大2児学A>	榎沢良彦	103
1376	幼児と健康<対象:大3育支C>	梁川悦美	49	3694	子ども理解と援助<対象:大2児学B>	榎沢良彦	104
1386	保育内容「健康」の指導法<対象:大3育支A>	梁川悦美	50	3695	子ども理解と援助<対象:大2児学C>	榎沢良彦	105
1387	保育内容「健康」の指導法<対象:大3育支B>	梁川悦美	51	3696	子ども家庭支援論<対象:大2児学AB前>	麻田萌	106
1388	保育内容「健康」の指導法<対象:大3育支C>	梁川悦美	52	3697	子ども家庭支援論<対象:大2児学B後C>	麻田萌	107
1398	造形表現<対象:大3育支A>	川合沙弥香	53	3700	子育て支援<対象:大2児学A>	勝山幸	108
1399	造形表現<対象:大3育支B>	川合沙弥香	54	3701	子育て支援<対象:大2児学B>	勝山幸	109
1400	造形表現<対象:大3育支C>	川合沙弥香	55	3702	子育て支援<対象:大2児学C>	勝山幸	110
1401	演劇表現<対象:大3育支A>	花輪充	56	3703	乳児保育Ⅱ<対象:大2児学A>	堀科	111
1402	演劇表現<対象:大3育支B>	花輪充	57	3704	乳児保育Ⅱ<対象:大2児学B>	堀科	112

児童学科

※受講した学生の所属学科・科と、ファイルにおける分類が異なる場合があります。

講義コード	科目名	教員名(コメント入力者)	ページ	講義コード	科目名	教員名(コメント入力者)	ページ
3705	乳児保育Ⅱ《対象:大2児学C》	堀科	113	3808	乳児保育Ⅱ《対象:大2育支B》	堀科	168
3706	保育内容演習(言葉)《対象:大2児学A》	鳥居希安	114	3809	乳児保育Ⅱ《対象:大2育支C》	堀科	169
3707	保育内容演習(言葉)《対象:大2児学B》	鳥居希安	115	3810	保育内容演習(言葉)《対象:大2育支A》	野見山直子	170
3708	保育内容演習(言葉)《対象:大2児学C》	鳥居希安	116	3811	保育内容演習(言葉)《対象:大2育支B》	野見山直子	171
3715	音楽表現《対象:大2児学A》	細田淳子	117	3812	保育内容演習(言葉)《対象:大2育支C》	野見山直子	172
3716	音楽表現《対象:大2児学B》	細田淳子	118	3819	音楽表現《対象:大2育支A》	細田淳子	173
3717	音楽表現《対象:大2児学C》	細田淳子	119	3820	音楽表現《対象:大2育支B》	細田淳子	174
3732	保育内容演習(人間関係)《対象:大1育支A》	尾崎司	120	3821	音楽表現《対象:大2育支C》	細田淳子	175
3733	保育内容演習(人間関係)《対象:大1育支B》	尾崎司	121				
3734	保育内容演習(人間関係)《対象:大1育支C》	尾崎司	122				
3735	保育内容演習(環境)《対象:大1育支A》	佐藤康富	123				
3736	保育内容演習(環境)《対象:大1育支B》	佐藤康富	124				
3737	保育内容演習(環境)《対象:大1育支C》	佐藤康富	125				
3740	子どもの保健《対象:大1育支》	木村美佳	126				
3741	子ども家庭福祉《対象:大1育支》	岩崎美智子	127				
3744	子どもの歌と伴奏《対象:大1育支》	細田淳子	128				
3745	保育内容の理解と方法A(体育)《対象:大1育支A》	梁川悦美	129				
3746	保育内容の理解と方法A(体育)《対象:大1育支B》	梁川悦美	130				
3747	保育内容の理解と方法A(体育)《対象:大1育支C》	梁川悦美	131				
3748	保育内容の理解と方法C(造形)《対象:大1育支A》	川合沙弥香	132				
3749	保育内容の理解と方法C(造形)《対象:大1育支B》	川合沙弥香	133				
3750	保育内容の理解と方法C(造形)《対象:大1育支C》	川合沙弥香	134				
3751	保育内容の理解と方法D(言葉)《対象:大1育支A》	柿沼芳枝	135				
3752	保育内容の理解と方法D(言葉)《対象:大1育支B》	柿沼芳枝	136				
3753	保育内容の理解と方法D(言葉)《対象:大1育支C》	柿沼芳枝	137				
3756	社会的養護Ⅱ《対象:大1育支A》	松本なるみ	138				
3757	社会的養護Ⅱ《対象:大1育支B》	松本なるみ	139				
3758	社会的養護Ⅱ《対象:大1育支C》	松本なるみ	140				
3759	保育内容演習(表現)《対象:大1育支A》	花輪充	141				
3760	保育内容演習(表現)《対象:大1育支B》	花輪充	142				
3761	保育内容演習(表現)《対象:大1育支C》	花輪充	143				
3762	保育の計画と評価《対象:大1育支AB前》	前田和代	144				
3763	保育の計画と評価《対象:大1育支B後C》	前田和代	145				
3772	障がい児保育演習《対象:大2育支A》	荒井庸子	146				
3773	障がい児保育演習《対象:大2育支B》	荒井庸子	147				
3774	障がい児保育演習《対象:大2育支C》	荒井庸子	148				
3775	児童学研究法《対象:大2育支A》	榎沢良彦	149				
3776	児童学研究法《対象:大2育支B》	榎沢良彦	150				
3777	児童学研究法《対象:大2育支C》	榎沢良彦	151				
3783	保育内容の理解と方法B(音楽)《対象:大2育支A前B前C前》	細田淳子	152				
3784	保育内容の理解と方法B(音楽)《対象:大2育支A後B後C後》	細田淳子	153				
3785	保育の造形実技A《対象:大2育支AB前》	金山和彦	154				
3786	保育の造形実技A《対象:大2育支B後C》	金山和彦	155				
3794	保育(遊び)指導論《対象:大2育支A》	塚本美起子	156				
3795	保育(遊び)指導論《対象:大2育支B》	塚本美起子	157				
3796	保育(遊び)指導論《対象:大2育支C》	塚本美起子	158				
3797	子ども理解と援助《対象:大2育支A》	八代陽子	159				
3798	子ども理解と援助《対象:大2育支B》	八代陽子	160				
3799	子ども理解と援助《対象:大2育支C》	八代陽子	161				
3800	子ども家庭支援論《対象:大2育支AB前》	武田洋子	162				
3801	子ども家庭支援論《対象:大2育支B後C》	武田洋子	163				
3804	子育て支援《対象:大2育支A》	鈴木彬子	164				
3805	子育て支援《対象:大2育支B》	鈴木彬子	165				
3806	子育て支援《対象:大2育支C》	鈴木彬子	166				
3807	乳児保育Ⅱ《対象:大2育支A》	堀科	167				

教員名	平野順子									
科目名	キャリアデザイン《対象:大3児学AB前》						履修者数	60	回答者数	26
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

①自分自身を理解し、自分の卒業後の生き方、とくに仕事との関わりについて考えを深め、生涯のキャリアについて一定の見通しを得ることができる。②卒業後に社会人となる女性として、働く意味や労働者の権利、ワークライフバランス等の持つておくとい知識を身に付ける。③自分の持つ興味や能力、長所について改めて気づき、将来へのモチベーションを高める。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		4人	実施形態(対面に一部メディア)		21人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	25.0%	F-15	担当教員に質問したか	4.8%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	3.7
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	3.0	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	9.5%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	33.3%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

本授業は、自分の卒業後の生き方をクリエイティブに考えること、社会に出るために知っておきたい知識を身ななに着けることを目的とした授業である。自分のキャリアに対する考えをより深めるにあたり、自己を振り返り将来を考えるプロセスにおいて、ペアワークやグループワーク等により価値観を共有したり自己の特徴をつかんだりすることが必要だと考えている。

自己の考え方、行動、価値観等を見つめるという内容が多くの時間を占めるため、学生たちに手と頭を動かしてもらいながら考えをまとめてもらった。今回のアンケートの自由記述で「将来について真剣に考えるきっかけとなった」「前向きな気持ちになれた」などのコメントが散見されたが、それは、学生たちが取り組みをよく頑張ったからだと感じている。授業を通して、自分のよい面をたくさん見つけてもらえたならば嬉しい。いろいろな意見があったので、それらを鑑み、授業改善を行っていきたい。

教員名	平野順子									
科目名	キャリアデザイン《対象:大3児学B後C》						履修者数	65	回答者数	53
曜日	金	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

①自分自身を理解し、自分の卒業後の生き方、とくに仕事との関わりについて考えを深め、生涯のキャリアについて一定の見通しを得ることができる。②卒業後に社会人となる女性として、働く意味や労働者の権利、ワークライフバランス等の持つておくべき知識を身に付ける。③自分の持つ興味や能力、長所について改めて気づき、将来へのモチベーションを高める。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		9人	実施形態(対面に一部メディア)		40人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	11.1%	F-15	担当教員に質問したか	2.5%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	3.7
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		4人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	2.5%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	30.0%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	25.0%	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

本授業は、自分の卒業後の生き方をクリエイティブに考えること、社会に出るために知っておきたい知識を身ななに着けることを目的とした授業である。自分のキャリアに対する考えをより深めるにあたり、自己を振り返り将来を考えるプロセスにおいて、ペアワークやグループワーク等により価値観を共有したり自己の特徴をつかんだりすることが必要だと考えている。

自己の考え方、行動、価値観等を見つめるという内容が多くの時間を占めるため、学生たちに手と頭を動かしてもらいながら考えをまとめてもらった。今回のアンケートの自由記述で「将来について真剣に考えるきっかけとなった」「前向きな気持ちになれた」などのコメントが散見されたが、それは、学生たちが取り組みをよく頑張ったからだと感じている。授業を通して、自分のよい面をたくさん見つけてもらえたならば嬉しい。いろいろな意見があったので、それらを鑑み、授業改善を行っていきたい。

教員名	堀科／渡部晃正									
科目名	保育方法論(情報機器の操作を含む)《対象:大3児学》					履修者数	120	回答者数	115	
曜日	木	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

①保育方法における歴史的な変遷を知ると共に、現代の様々な実践例とその目的について包括的に説明できる。(DP3, DP8) ②関係機関、保育者同士、保護者との連携を含めた総合的な保育方法のあり方について説明することができる。(DP3, DP5) ③情報機器を活用して教材を作成することができるとともに、子どもの情報活用能力の形成育む保育の工夫を考えることができる。(DP5, DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		6人	実施形態(対面に一部メディア)		105人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	16.7%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	3.1
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		4人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	3.8	F-18	学修時間	3.2
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	3.3	F-19	教員への発言機会	1.0%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	29.5%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

概ね興味や関心をもって授業に臨んでおられた様子が窺えました。授業の内容についてわかりやすいという評価が最も多く、満足度も高い結果となりました。メディア授業についても指示が明確であり、より理解を深められたとの意見がありました。一方、事前学修・事後学修については取り組みを指示しており、また多くの学生が実際に取り組んでいましたが、授業に向ける授業準備の値が低く、このことから授業準備と事前事後学修の目的に齟齬があったように思っています。

教員名	笹井邦彦									
科目名	児童学特別演習A《対象:大3児学A》						履修者数	39	回答者数	33
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

この授業は幼児と音楽を対象とし、とりわけ幼児の音楽にとって大変重要な「ことば、声、リズム、身体表現」をキーワードに授業を行う。到達目標は以下である。1、幼児の音楽的な発達が理解できる(DP3, 4) 2、幼児にとって必要な音楽的要素が理解できる(DP3, 4, 6) 3、学生自身が表現者として表現できる(Dp3, 5, 6) 4、幼児の音楽表現活動を仕組むことが出来る((DP3, 4, 5, 6, 7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		31人	実施形態(対面に一部メディア)		2人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	41.9%	F-15	担当教員に質問したか	100.0%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	2.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.0
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	100.0%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

この授業では、保育にある日常的な音楽表現ではなく、保育の世界に新たな活動を提供するために学生と共に探求する授業であるが、学生からのコメントにもあるように、当初の目的である新たな活動の探求について満足度は高いようである。今後はさらに子どもたちにとって新しい表現を学生と共に探求していきたい。

教員名	笹井邦彦								
科目名	児童学特別演習A《対象:大3児学B》					履修者数	39	回答者数	29
曜日	金	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

この授業は幼児と音楽を対象とし、とりわけ幼児の音楽にとって大変重要な「ことば、声、リズム、身体表現」をキーワードに授業を行う。到達目標は以下である。1、幼児の音楽的な発達が理解できる(DP3, 4) 2、幼児にとって必要な音楽的要素が理解できる(DP3, 4, 6) 3、学生自身が表現者として表現できる(Dp3, 5, 6) 4、幼児の音楽表現活動を仕組むことが出来る((DP3, 4, 5, 6, 7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		29人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	31.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	1.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

この授業では、保育にある日常的な音楽表現ではなく、保育の世界に新たな活動を提供するために学生と共に探求する授業であるが、学生からのコメントにもあるように、当初の目的である新たな活動の探求について満足度は高いようである。今後はさらに子どもたちにとって新しい表現を学生と共に探求していきたい。

教員名	笹井邦彦								
科目名	児童学特別演習A《対象:大3児学C》					履修者数	39	回答者数	26
曜日	金	時限	5限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

この授業は幼児と音楽を対象とし、とりわけ幼児の音楽にとって大変重要な「ことば、声、リズム、身体表現」をキーワードに授業を行う。到達目標は以下である。1、幼児の音楽的な発達が理解できる(DP3, 4) 2、幼児にとって必要な音楽的要素が理解できる(DP3, 4, 6) 3、学生自身が表現者として表現できる(Dp3, 5, 6) 4、幼児の音楽表現活動を仕組むことが出来る((DP3, 4, 5, 6, 7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.5	実施形態(すべて対面)		24人	実施形態(対面に一部メディア)		2人
A-2	復習をしたか	1.7	D-9	担当教員に質問したか	29.2%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	2.5
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	1.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	1.0
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	0.0%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

この授業では、保育にある日常的な音楽表現ではなく、保育の世界に新たな活動を提供するために学生と共に探求する授業であるが、学生からのコメントにもあるように、当初の目的である新たな活動の探求について満足度は高いようである。今後はさらに子どもたちにとって新しい表現を学生と共に探求していきたい。

教員名	小林由利子								
科目名	児童学特別演習B《対象:大3児学A》					履修者数	39	回答者数	26
曜日	月	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

(1)児童学が5分野からなることを理解し、児童文化財の重要性を理解できる。(DP1) (2)子どもの特性、特に「遊び」を理解し、子どもと一緒に遊ぶ意義を理解できる。(DP3、DP7) (3)子どもの「遊び」を読み取り、即座に援助と指導の手立てを導き出し、実践でき、次の保育につなげることの重要性を理解できる。(DP3、DP5、DP6、DP7) (4)さまざまなドラマ教育の理論と方法論を学び、グループで協働する重要性を理解できる。(DP8、DP9) (5)「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における5領域について理解できる。(DP1、DP2)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		7人	実施形態(対面に一部メディア)		19人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	14.3%	F-15	担当教員に質問したか	5.3%
B-3	わかりやすさ	3.3	D-10	学生の参加	3.1	F-16	学生の参加	3.6
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	2.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.9
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	5.3%
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	21.1%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

教員名	小林由利子									
科目名	児童学特別演習B《対象:大3児学B》						履修者数	42	回答者数	38
曜日	月	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 児童学が5分野からなることを理解し、児童文化財の重要性を理解できる。(DP1) (2) 子どもの特性、特に「遊び」を理解し、子どもと一緒に遊ぶ意義を理解できる。(DP3、DP7) (3) 子どもの「遊び」を読み取り、即座に援助と指導の手立てを導き出し、実践でき、次の保育につなげることの重要性を理解できる。(DP3、DP5、DP6、DP7) (4) さまざまなドラマ教育の理論と方法論を学び、グループで協働する重要性を理解できる。(DP8、DP9) (5) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における5領域について理解できる。(DP1、DP2)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		12人	実施形態(対面に一部メディア)		25人
A-2	復習をしたか	1.9	D-9	担当教員に質問したか	8.3%	F-15	担当教員に質問したか	12.0%
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	3.7
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.6
B-5	課題	2.9	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	2.9
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	8.0%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	40.0%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.4

教員コメント

教員名	小林由利子									
科目名	児童学特別演習B《対象:大3児学C》					履修者数	42	回答者数	31	
曜日	月	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)児童学が5分野からなることを理解し、児童文化財の重要性を理解できる。(DP1) (2)子どもの特性、特に「遊び」を理解し、子どもと一緒に遊ぶ意義を理解できる。(DP3、DP7) (3)子どもの「遊び」を読み取り、即座に援助と指導の手立てを導き出し、実践でき、次の保育につなげることの重要性を理解できる。(DP3、DP5、DP6、DP7) (4)さまざまなドラマ教育の理論と方法論を学び、グループで協働する重要性を理解できる。(DP8、DP9) (5)「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における5領域について理解できる。(DP1、DP2)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.5	実施形態(すべて対面)		7人	実施形態(対面に一部メディア)		24人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	12.5%
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	3.9
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	3.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.8
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	12.5%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	41.7%
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.3

教員コメント

教員名	山本秀子									
科目名	児童学特別演習C《対象:大3児学A》						履修者数	5	回答者数	4
曜日	土	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・子どもの主体的な遊びの充実に向けた遊び環境のデザインの実際に触れ実践の場に応用できる(DP4、DP5)・様々な視点での遊び環境のデザインを子どもの実態と関係づけて構想することができる(DP5、DP6)・様々な視点での遊び環境のデザインについて、カンファレンス(議論)することができる(DP5、DP6)・子ども理解に基づいたよりよい遊び環境のデザインの提案を具体的に述べるができる(DP8、DP9)・子ども理解に基づいて構想した遊び環境のデザインについて実践的に応用できる(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.8	実施形態(すべて対面)		1人	実施形態(対面に一部メディア)		3人
A-2	復習をしたか	2.8	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	33.3%
B-3	わかりやすさ	3.3	D-10	学生の参加	3.0	F-16	学生の参加	3.3
B-4	興味への工夫	3.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.3
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.3
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	33.3%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	66.7%
C-8	達成度	3.3	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.0

教員コメント

レポートの書き方説明を今後更にわかりやすくしていきたい。

乳児のおもちゃは他教科で学習済みの為今回は幼児に絞った。教育実習で各自が経験したことを取り込み、現場で活用できる作品になっていたことが心を打たれた。安全性を重視し、友達間でも発表を視聴するだけでなく実際に遊びながら案を出し学び合うことを大切にしたい。人前で伝えたいことを時間内で発表することも現場で役立てて欲しいポイントであった。

教員名	山本秀子									
科目名	児童学特別演習C《対象:大3児学B》						履修者数	38	回答者数	30
曜日	火	時限	5限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・子どもの主体的な遊びの充実に向けた遊び環境のデザインの実際に触れ実践の場に応用できる(DP4、DP5)・様々な視点での遊び環境のデザインを子どもの実態と関係づけて構想することができる(DP5、DP6)・様々な視点での遊び環境のデザインについて、カンファレンス(議論)することができる(DP5、DP6)・子ども理解に基づいたよりよい遊び環境のデザインの提案を具体的に述べるができる(DP8、DP9)・子ども理解に基づいて構想した遊び環境のデザインについて実践的に応用できる(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.0	実施形態(すべて対面)		14人	実施形態(対面に一部メディア)		15人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	21.4%	F-15	担当教員に質問したか	26.7%
B-3	わかりやすさ	3.0	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	3.2
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.1
B-5	課題	2.9	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	1.9
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	2.0	F-19	教員への発言機会	20.0%
B-7	満足度	3.4	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	26.7%
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

様々な感想を記入してもらい沢山の学びとなり感謝している。努力して製作した作品を今後にも経験を加えて付け加えて欲しい気持ちが強くなり、課題の指摘や誉める言葉が足りず申し訳なく思う。レポートや支持の不明慮、発表後の質問、時間厳守など出してもらった意見を今後の修正点に活かしていきたい。

教員名	山本秀子								
科目名	児童学特別演習C《対象:大3児学C》					履修者数	29	回答者数	24
曜日	土	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

・子どもの主体的な遊びの充実に向けた遊び環境のデザインの実際に触れ実践の場に応用できる(DP4、DP5)・様々な視点での遊び環境のデザインを子どもの実態と関係づけて構想することができる(DP5、DP6)・様々な視点での遊び環境のデザインについて、カンファレンス(議論)することができる(DP5、DP6)・子ども理解に基づいたよりよい遊び環境のデザインの提案を具体的に述べるができる(DP8、DP9)・子ども理解に基づいて構想した遊び環境のデザインについて実践的に応用できる(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.8	実施形態(すべて対面)		12人	実施形態(対面に一部メディア)		12人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	16.7%
B-3	わかりやすさ	3.2	D-10	学生の参加	3.4	F-16	学生の参加	3.4
B-4	興味への工夫	3.2	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.3
B-5	課題	2.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.0
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	33.3%
B-7	満足度	3.3	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	33.3%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

沢山の授業感想を読み、多くの学びに感謝したい。実習の中グループと個人発表の2つは大変と思ったが、人との意見共感や学び合い、人間関係も社会人として求められる為入れたことを頑張る姿が眩しかった。努力への誉めの言葉が少なく、次回の実習や就職で活かして欲しい気持ちが前に出た厳しい言葉やねぎらいが不足したことを反省し次に活かしたい。ぜひ自作したおもちゃを今後現場で活かして欲しい。

教員名	石元みさと									
科目名	児童学特別演習D《対象:大3児学A》						履修者数	38	回答者数	33
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・言語知識・言語文化への広い視点を持ち、知識を身につけることができる。(DP3) ・テキストを読み解くための方法を学び、自分なりの解釈を提示することができる。(DP4) ・他者の意見や解釈に注意深く耳を傾け、尊重して議論することができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.5	実施形態(すべて対面)		6人	実施形態(対面に一部メディア)		24人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	33.3%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.0	D-10	学生の参加	3.0	F-16	学生の参加	2.9
B-4	興味への工夫	2.9	実施形態(すべてメディア)		3人	F-17	指示の明確さ	3.4
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.1
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	3.3	F-19	教員への発言機会	4.2%
B-7	満足度	3.2	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	33.3%
C-8	達成度	3.3	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

今年度から学生同士のプレゼン・評価の内容を取り入れた。

学生たちが自分たちで作品を選んで解釈して発表し、質疑応答をし合うというものだが、個別のコメントを見ても双方向の関わり方ができたようなので、引き続きこのやり方を取り入れたいと思う。

教員名	石元みさと									
科目名	児童学特別演習D《対象:大3児学B》						履修者数	11	回答者数	8
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・言語知識・言語文化への広い視点を持ち、知識を身につけることができる。(DP3) ・テキストを読み解くための方法を学び、自分なりの解釈を提示することができる。(DP4) ・他者の意見や解釈に注意深く耳を傾け、尊重して議論することができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		2人	実施形態(対面に一部メディア)		6人
A-2	復習をしたか	1.9	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	16.7%
B-3	わかりやすさ	2.9	D-10	学生の参加	2.5	F-16	学生の参加	2.3
B-4	興味への工夫	2.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.5
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.4	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	16.7%
C-8	達成度	3.1	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

今年度から学生同士のプレゼン・評価の内容を取り入れた。

学生たちが自分たちで作品を選んで解釈して発表し、質疑応答をし合うというものだが、個別のコメントを見ても双方向の関わり方ができたようなので、引き続きこのやり方を取り入れたいと思う。

教員名	石元みさと										
科目名	児童学特別演習D《対象:大3児学C》					履修者数	21	回答者数	15		
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科				
授業形態	演習			必修／選択							

到達目標

・言語知識・言語文化への広い視点を持ち、知識を身につけることができる。(DP3) ・テキストを読み解くための方法を学び、自分なりの解釈を提示することができる。(DP4) ・他者の意見や解釈に注意深く耳を傾け、尊重して議論することができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		1人	実施形態(対面に一部メディア)		13人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	2.9	D-10	学生の参加	3.0	F-16	学生の参加	2.9
B-4	興味への工夫	2.5	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.4
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.3	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	7.7%
B-7	満足度	2.6	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	30.8%
C-8	達成度	2.8	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	2.8

教員コメント

今年度から学生同士のプレゼン・評価の内容を取り入れた。

学生たちが自分たちで作品を選んで解釈して発表し、質疑応答をし合うというものだが、個別のコメントを見ても双方向の関わり方ができたようなので、引き続きこのやり方を取り入れたいと思う。

教員名	渡部晃正										
科目名	教育・保育制度論≪対象:大3児学AB前≫					履修者数	61	回答者数	14		
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科				
授業形態	講義			必修／選択							

到達目標

現代公教育の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基本的な事項を学ぶとともに、そこに内在する課題を理解していきます。【到達目標】 ①公教育の原理・理念および公教育制度について理解している(DP1)(DP8)。②公教育制度を構成している教育関係法規について理解している。③教育・保育制度を支える教育・保育行政の理念と仕組みについて理解している。④学校(園)と地域(コミュニティ)との連携・協働と特色ある開かれて学校(園)づくりについて理解している(DP9)。⑤学校保健安全法に基づく危機管理を含む学校(園)の安全と実際の取り組みについて理解している。⑥現代の教育・保育問題について、制度の面から分析・理解し、例示・説明することができる(DP3)。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.7	実施形態(すべて対面)		0人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	—	F-15	担当教員に質問したか	—
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	—	F-16	学生の参加	—
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		14人	F-17	指示の明確さ	—
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	3.8	F-18	学修時間	—
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	3.5	F-19	教員への発言機会	—
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	—
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	—

教員コメント

●「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)：

今回も回収率は低く(23.0%)、得られたデータから学生の取り組み等の全体像について把握することは困難であると考え。ただし、授業はオンデマンドで実施されたので、設問E-11「メディア授業の学修に関する指示は明確でしたか」の3.79と設問E-12「メディア授業1回あたりの学修時間は全部でどのくらいでしたか」の3.50については、注目しておきたい。

●「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)：

授業は、すべてオンデマンド(動画、資料等を配信)で実施され、各人のペースで学修できたのではないかと考える。毎回、課題を課すとともに、単元ごとに小テストを実施した。加えて、オンライン期末試験を実施した。

●自由記述から読み取れること：

自由記述では、「全てオンデマンドでの授業だったので、空き時間に集中して取り組むことが出来た。また、動画だと分からないところや見逃したところを繰り返し見ることができる為、良かった。」「メディア授業だったため、難しい内容でも動画を見返せたり復習ができて、良い学習になった。」「提出するものや、授業の仕組みなどがわかりやすく説明がされており、日々の授業内容もわかりやすく理解しながら学習できました。実習などの配慮もうれしかったです。」など、授業の目的・方法を理解し、真摯に取り組んだ姿が読み取れ、とても前向きな意見が示されていた。

●次年度に向けた課題・その改善案：

引き続き、予習・復習に充てる時間を増やせるよう、課題の内容・回数を調整していきたいと考えている。

教員名	渡部晃正									
科目名	教育・保育制度論《対象:大3児学B後C》					履修者数	60	回答者数	16	
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

現代公教育の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基本的な事項を学ぶとともに、そこに内在する課題を理解していきます。【到達目標】 ①公教育の原理・理念および公教育制度について理解している(DP1)(DP8)。②公教育制度を構成している教育関係法規について理解している。③教育・保育制度を支える教育・保育行政の理念と仕組みについて理解している。④学校(園)と地域(コミュニティ)との連携・協働と特色ある開かれて学校(園)づくりについて理解している(DP9)。⑤学校保健安全法に基づく危機管理を含む学校(園)の安全と実際の取り組みについて理解している。⑥現代の教育・保育問題について、制度の面から分析・理解し、例示・説明することができる(DP3)。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		0人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	—	F-15	担当教員に質問したか	—
B-3	わかりやすさ	3.2	D-10	学生の参加	—	F-16	学生の参加	—
B-4	興味への工夫	3.2	実施形態(すべてメディア)		16人	F-17	指示の明確さ	—
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	3.6	F-18	学修時間	—
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	3.6	F-19	教員への発言機会	—
B-7	満足度	3.4	E-13	教員への発言機会	6.3%	F-20	学生どうしの意見交換	—
C-8	達成度	3.3	E-14	学生どうしの意見交換	12.5%	F-21	学修の効果	—

教員コメント

●「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)：

今回も回収率は低く(26.7%)、得られたデータから学生の取り組み等の全体像について把握することは困難であると考え。ただし、授業はオンデマンドで実施されたので、設問E-11「メディア授業の学修に関する指示は明確でしたか」の3. 63と設問E-12「メディア授業1回あたりの学修時間は全部でどのくらいでしたか」の3. 56(前年度：3. 29)については、注目しておきたい。

●「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)：

授業は、すべてオンデマンド(動画、資料等を配信)で実施され、各人のペースで学修できたのではないかと考える。毎回、課題を課すとともに、単元ごとに小テストを実施した。加えて、オンライン期末試験を実施した。

●自由記述から読み取れること：

自由記述では、「オンデマンドなため、何度も繰り返し学習することが出来、理解が深まった。」「メディアだったので小テストなどで復習しながら学ぶことができた。」「オンデマンドで自分の予定に合わせた学習ができる点良かった。保育制度について学べたと思う。」「オンデマンドだったので、集中して授業に取り組むことができて良かった。」など、授業の目的・方法を理解し、真摯に取り組んだ姿が読み取れ、とても前向きな意見が示されていた。

●次年度に向けた課題・その改善案：

引き続き、予習・復習に充てる時間を増やせるよう、課題の内容・回数を調整していきたいと考えている。

教員名	梁川悦美									
科目名	保育の運動実技B《対象:大3児学》						履修者数	14	回答者数	11
曜日	土	時限	4限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①幼稚園や保育所など、現場で実践できる運動会の企画や運営をすることが出来る。(DP3・DP5・DP9) ②幼児期に育まれる心の育ちや体力的要素を理解した上で、年齢に応じた運動会の種目を提案することが出来る。(DP3・DP5・DP6) ③幼児のためのフォークダンス・レクダンスについて、解説書から動きをおこし実施することが出来る。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		11人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	18.2%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.2	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

授業アンケートへ回答、ありがとうございました。少人数での授業ではありましたが、学生ひとり一人が、しっかりと目的意識を持って授業に取り組んでくれたので、最終的な目的に到達できたのではないかと感じています。みなさんの意識の高さと、課題に向かう姿勢が、大きな力になったのだと思います。

実際に現場に出た時、この授業での学びが少しでも生かすことが出来ればと願うばかりです。

次年度に向けて、今年度の皆さんの声を反映しながら、現場に繋がるような授業内容にしていきたいと思います。そのためには、学生の意見や思いを聞きながら、学生と教員と相互に連携しあえる雰囲気づくりを大事に、有意義な授業にしていきたいと考えています。

教員名	鈴木隆／梅谷千代子									
科目名	幼児と健康《対象：大3児学A》						履修者数	39	回答者数	11
曜日	月	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。(DP1) ・健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。(DP1) ・乳幼児の体の発達の特徴を説明できる。(DP2) ・乳幼児期の運動発達の特徴を説明できる。(DP2) ・幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。(DP2, DP4) ・日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。(DP2, DP3, DP4) ・乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。(DP1, DP4) ・幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。(DP1) ・幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。(DP2, DP3) ・危険に関しリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。(DP2, DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		3人	実施形態(対面に一部メディア)		7人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	14.3%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	2.7	F-16	学生の参加	2.4
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	2.6
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	14.3%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

集計結果、自由記述を見ると、一定程度の授業効果はあがったものと解釈する。

教員名	鈴木隆／梅谷千代子									
科目名	幼児と健康《対象:大3児学B》						履修者数	41	回答者数	18
曜日	月	時限	4限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。(DP1) ・健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。(DP1) ・乳幼児の体の発達の特徴を説明できる。(DP2) ・乳幼児期の運動発達の特徴を説明できる。(DP2) ・幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。(DP2, DP4) ・日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。(DP2, DP3, DP4) ・乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。(DP1, DP4) ・幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。(DP1) ・幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。(DP2, DP3) ・危険に関しリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。(DP2, DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)	1人	実施形態(対面に一部メディア)	16人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9 担当教員に質問したか	0.0%	F-15 担当教員に質問したか	18.8%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10 学生の参加	4.0	F-16 学生の参加	3.1
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)	1人	F-17 指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.9	E-11 指示の明確さ	4.0	F-18 学修時間	2.7
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12 学修時間	3.0	F-19 教員への発言機会	6.3%
B-7	満足度	3.9	E-13 教員への発言機会	0.0%	F-20 学生どうしの意見交換	43.8%
C-8	達成度	3.5	E-14 学生どうしの意見交換	100.0%	F-21 学修の効果	3.8

教員コメント

集計結果、自由記述を見ると、一定程度の授業効果はあがったものと解釈する。

教員名	鈴木隆／梅谷千代子									
科目名	幼児と健康《対象:大3児学C》						履修者数	42	回答者数	12
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。(DP1) ・健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。(DP1) ・乳幼児の体の発達の特徴を説明できる。(DP2) ・乳幼児期の運動発達の特徴を説明できる。(DP2) ・幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。(DP2, DP4) ・日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。(DP2, DP3, DP4) ・乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。(DP1, DP4) ・幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。(DP1) ・幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。(DP2, DP3) ・危険に関しリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。(DP2, DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.6	実施形態(すべて対面)	5人	実施形態(対面に一部メディア)	6人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9 担当教員に質問したか	0.0%	F-15 担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10 学生の参加	3.2	F-16 学生の参加	2.3
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)	1人	F-17 指示の明確さ	3.8
B-5	課題	3.8	E-11 指示の明確さ	4.0	F-18 学修時間	2.7
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12 学修時間	4.0	F-19 教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.5	E-13 教員への発言機会	100.0%	F-20 学生どうしの意見交換	0.0%
C-8	達成度	3.3	E-14 学生どうしの意見交換	100.0%	F-21 学修の効果	3.8

教員コメント

集計結果、自由記述を見ると、一定程度の授業効果はあがったものと解釈する。

教員名	梁川悦美									
科目名	保育内容「健康」の指導法《対象:大3児学A》					履修者数	40	回答者数	10	
曜日	金	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し、説明できる。(DP3) ②領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、説明できる。(DP3・DP5) ③幼稚園教育における評価の考え方を理解し、説明できる。(DP5) ④領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解し、説明できる。(DP3・DP5) ⑤幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解し、説明できる。(DP5) ⑥領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。(DP5) ⑦指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。(DP3・DP5) ⑧模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけ、視野を広げる事ができる。(DP3・DP5・DP7) ⑨領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。(DP3・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		1人	実施形態(対面に一部メディア)		9人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	3.9
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.1
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	66.7%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

授業アンケートへの回答、ありがとうございました。現場実習と重なっている学生にも考慮し、メディア授業と対面授業の組み合わせでしたが、それぞれの授業形態の良さが反映されたように感じています。それは、学生のみなさんが、高い意識を持って授業に取り組んでくれた結果だと受け止めています。オンとオフ、メリハリを持って受講する姿勢が、しっかりと身について実践できるようになった結果だと感じています。ひとりで取り組む時間、一方では、みんなと一緒に協力しあいながら創り上げて結果を出す時間、そして、互いに認め合ったり、新たな発見があったりと、7回の授業の中で存分にやり遂げたのではないかと感じています。

次年度に向けて、皆さんの声を参考にしながら、また新たな学生さんと、楽しい授業は勿論、それがきちんと現場で活かされていけるような内容を構築していきたいと考えています。

教員名	梁川悦美									
科目名	保育内容「健康」の指導法《対象:大3児学B》					履修者数	40	回答者数	14	
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し、説明できる。(DP3) ②領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、説明できる。(DP3・DP5) ③幼稚園教育における評価の考え方を理解し、説明できる。(DP5) ④領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解し、説明できる。(DP3・DP5) ⑤幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解し、説明できる。(DP5) ⑥領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。(DP5) ⑦指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。(DP3・DP5) ⑧模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけ、視野を広げる事ができる。(DP3・DP5・DP7) ⑨領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。(DP3・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		0人	実施形態(対面に一部メディア)		14人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	－	F-15	担当教員に質問したか	14.3%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	－	F-16	学生の参加	3.8
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.6	E-11	指示の明確さ	－	F-18	学修時間	2.6
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	－	F-19	教員への発言機会	35.7%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	－	F-20	学生どうしの意見交換	92.9%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	－	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

授業アンケートへの回答、ありがとうございました。現場実習と重なっている学生にも考慮し、メディア授業と対面授業の組み合わせでしたが、それぞれの授業形態の良さが反映されたように感じています。それは、学生のみなさんが、高い意識を持って授業に取り組んでくれた結果だと受け止めています。オンとオフ、メリハリを持って受講する姿勢が、しっかりと身について実践できるようになった結果だと感じています。ひとりで取り組む時間、一方では、みんなと一緒に協力しあいながら創り上げて結果を出す時間、そして、互いに認め合ったり、新たな発見があったりと、7回の授業の中で存分にやり遂げたのではないかと感じています。

次年度に向けて、皆さんの声を参考にしながら、また新たな学生さんと、楽しい授業は勿論、それがきちんと現場で活かされていけるような内容を構築していきたいと考えています。

教員名	梁川悦美										
科目名	保育内容「健康」の指導法《対象:大3児学C》					履修者数	42	回答者数	6		
曜日	金	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科				
授業形態	演習			必修／選択							

到達目標

①領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し、説明できる。(DP3) ②領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、説明できる。(DP3・DP5) ③幼稚園教育における評価の考え方を理解し、説明できる。(DP5) ④領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解し、説明できる。(DP3・DP5) ⑤幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解し、説明できる。(DP5) ⑥領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。(DP5) ⑦指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。(DP3・DP5) ⑧模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけ、視野を広げる事ができる。(DP3・DP5・DP7) ⑨領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。(DP3・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		0人	実施形態(対面に一部メディア)		6人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	－	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	－	F-16	学生の参加	3.7
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	－	F-18	学修時間	2.7
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	－	F-19	教員への発言機会	16.7%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	－	F-20	学生どうしの意見交換	50.0%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	－	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

授業アンケートへの回答、ありがとうございました。現場実習と重なっている学生にも考慮し、メディア授業と対面授業の組み合わせでしたが、それぞれの授業形態の良さが反映されたように感じています。それは、学生のみなさんが、高い意識を持って授業に取り組んでくれた結果だと受け止めています。オンとオフ、メリハリを持って受講する姿勢が、しっかりと身について実践できるようになった結果だと感じています。ひとりで取り組む時間、一方では、みんなと一緒に協力しあいながら創り上げて結果を出す時間、そして、互いに認め合ったり、新たな発見があったりと、7回の授業の中で存分にやり遂げたのではないかと感じています。

次年度に向けて、皆さんの声を参考にしながら、また新たな学生さんと、楽しい授業は勿論、それがきちんと現場で活かされていけるような内容を構築していきたいと考えています。

教員名	川合沙弥香									
科目名	造形表現≪対象:大3児学A≫						履修者数	40	回答者数	11
曜日	水	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①造形表現素材の適切な扱い方を知ることができる。(DP3) ②発達に応じた表現方法を知ることができる。(DP3) ③表現技法を活かした使い方ができる。(DP5) ④楽しい造形表現をするための環境構成ができる。(DP5) ⑤自らの考えを持ちながら、多様な他者の考えを受け入れる等、クラスの仲間(他者)の発表から学ぶことができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		2人	実施形態(対面に一部メディア)		9人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	22.2%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.0	F-16	学生の参加	3.6
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	2.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.9
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	11.1%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	22.2%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.6

教員コメント

自由記述のコメントより、多様な造形遊びを他者と協同して取り組めたことが保育実践に活きる学びとなったことが読み取れる。手袋人形の制作は裁縫が苦手な学生にとっては大変さがあったが、努力して制作した分愛着が湧いたという学生や、保育現場で活かせる教材を一から作り上げられたことに達成感、満足感を感じたという学生が多くいることから有意義な授業内容であったと考える。

最終授業1回をオンデマンド授業としたが、自分のペースで繰り返し見て学べた点良かったとの意見が多数あり、今後も全回対面ではなく、オンデマンドを活用していくことが必要だと感じた。ただし、授業アンケートもmanabaを通じての実施となってしまったため、アンケートの回答率が低くなってしまった。アンケートの実施方法や呼びかけの方法については改善していきたい。

教員名	川合沙弥香									
科目名	造形表現《対象:大3児学B》						履修者数	40	回答者数	14
曜日	土	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①造形表現素材の適切な扱い方を知ることができる。(DP3) ②発達に応じた表現方法を知ることができる。(DP3) ③表現技法を活かした使い方ができる。(DP5) ④楽しい造形表現をするための環境構成ができる。(DP5) ⑤自らの考えを持ちながら、多様な他者の考えを受け入れる等、クラスの仲間(他者)の発表から学ぶことができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		0人	実施形態(対面に一部メディア)		14人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	-	F-15	担当教員に質問したか	28.6%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	-	F-16	学生の参加	3.1
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.4	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.6
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	28.6%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	28.6%
C-8	達成度	3.3	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.9

教員コメント

自由記述のコメントより、多様な造形遊びを他者と協同して取り組めたことが保育実践に活きる学びとなったことが読み取れる。手袋人形の制作は裁縫が苦手な学生にとっては大変さがあったが、努力して制作した分愛着が湧いたという学生や、保育現場で活かせる教材を一から作り上げられたことに達成感、満足感を感じたという学生が多くいることから有意義な授業内容であったと考える。

最終授業1回をオンデマンド授業としたが、自分のペースで繰り返し見て学べた点良かったとの意見が多数あり、今後も全回対面ではなく、オンデマンドを活用していくことが必要だと感じた。ただし、授業アンケートもmanabaを通じての実施となってしまったため、アンケートの回答率が低くなってしまった。アンケートの実施方法や呼びかけの方法については改善していきたい。

教員名	川合沙弥香								
科目名	造形表現<<対象:大3児学C>>					履修者数	41	回答者数	9
曜日	土	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

①造形表現素材の適切な扱い方を知ることができる。(DP3) ②発達に応じた表現方法を知ることができる。(DP3) ③表現技法を活かした使い方ができる。(DP5) ④楽しい造形表現をするための環境構成ができる。(DP5) ⑤自らの考えを持ちながら、多様な他者の考えを受け入れる等、クラスの仲間(他者)の発表から学ぶことができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		1人	実施形態(対面に一部メディア)		8人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	100.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	3.5
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.3	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.5
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	62.5%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.8

教員コメント

自由記述のコメントより、多様な造形遊びを他者と協同して取り組めたことが保育実践に活きる学びとなったことが読み取れる。手袋人形の制作は裁縫が苦手な学生にとっては大変さがあったが、努力して制作した分愛着が湧いたという学生や、保育現場で活かせる教材を一から作り上げられたことに達成感、満足感を感じたという学生が多くいることから有意義な授業内容であったと考える。

最終授業1回をオンデマンド授業としたが、自分のペースで繰り返し見て学べた点良かったとの意見が多数あり、今後も全回対面ではなく、オンデマンドを活用していくことが必要だと感じた。ただし、授業アンケートもmanabaを通じての実施となってしまったため、アンケートの回答率が低くなってしまった。アンケートの実施方法や呼びかけの方法については改善していきたい。

教員名	花輪 充									
科目名	演劇表現<<対象:大3児学A>>						履修者数	39	回答者数	36
曜日	月	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)表現の自己目的性と伝達性について包括的に説明できる。(DP1) (2)クリエイティブ・ドラマと劇あそびについて理解できる。(DP7) (3)クリエイティブ・ドラマと劇あそびにおける指導者の役割を説明できる。(DP1) (4)クリエイティブ・ドラマと劇あそびの様々な方法について理解できる。(DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		36人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	11.1%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状について:予習や事前学修にかけた時間が1時間以上の学生が42%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が19%であった。また、各回の授業に関連する学習(復習)をした学生が47%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が11%であった。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状について:教員の説明について「わかりやすかった・まあわかりやすかった」と回答した学生が100%。授業内容に興味がわくように「工夫されていた・まあ工夫されていた」と回答した学生が100%。小テストやレポートなど授業内容に関する課題が「毎回またはほぼ毎回あった・ときどきあった」と回答した者が97%。授業内容はシラバスと合致していたかについては「合致していた・ほぼ合致していた」と回答した学生が97%。この授業に対して満足していると回答した学生が100%であった。

・自由記述から読み取れることについて:・アニメイムが面白かった。・演じることの楽しさを知ることができた。・いろいろな演劇を学べて楽しかった。・二年次にやったことをもう一回やることで新たな発見をすることが出来た。・ワークショップなどたくさんの人と関わることできてコミュニケーションの大切さを感じた。実際に表現遊びをいくつか行って、知らなかったものや日本ではあまり知られていない劇遊びなどをやってみて、楽しさや面白さを感じたので、現場に出た時にやってみたいと思いました。

・次年度に向けた課題・その改善案について:今後は、乳児から乳幼児にフォーカスをあてたワーク・プログラムも取り入れていきたいです。また、保育現場における劇活動の意義について深く掘り下げ、遊びのなかの表現を支えるコーチング・メソッドについてそれぞれが具体的なプランを立案できるよう、授業内容を改善していきたいです。

教員名	花輪 充									
科目名	演劇表現《対象:大3児学B》						履修者数	41	回答者数	40
曜日	月	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)表現の自己目的性と伝達性について包括的に説明できる。(DP1) (2)クリエイティブ・ドラマと劇あそびについて理解できる。(DP7) (3)クリエイティブ・ドラマと劇あそびにおける指導者の役割を説明できる。(DP1) (4)クリエイティブ・ドラマと劇あそびの様々な方法について理解できる。(DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		40人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	15.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状について:予習や事前学修にかけた時間が1時間以上の学生が35%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が13%であった。また、各回の授業に関連する学習(復習)をした学生が38%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が3%であった。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状について:教員の説明について「わかりやすかった・まあわかりやすかった」と回答した学生が100%。授業内容に興味がわくように「工夫されていた・まあ工夫されていた」と回答した学生が100%。小テストやレポートなど授業内容に関する課題が「毎回またはほぼ毎回あった・ときどきあった」と回答した者が100%。授業内容はシラバスと合致していたかについては「合致していた・ほぼ合致していた」と回答した学生が100%。この授業に対して満足していると回答した学生が100%であった。

・自由記述から読み取れることについて:・より実践的な表現活動について理解を深めることができた。・実際に体を動かしたり、表現したりすることの大切さを実感できました。・幼児教育における表現だけでなく、様々な芸術・芸能や身近な事例を取り上げて下さるので、とても面白かったです。・アニメイムなど自分も参加して学べるワークが多く、楽しく表現について学ぶことができた。・子どもが楽しく、心地よく表現活動ができるように、まずは自分自身が楽しむことを大切にしていきたいと思った。

・次年度に向けた課題・その改善案について:今後は、乳児から乳幼児にフォーカスをあてたワーク・プログラムも取り入れていきたいと思います。また、保育現場における劇活動の意義について深く掘り下げ、遊びのなかの表現を支えるコーチング・メソッドについてそれぞれが具体的なプランを立案できるよう、授業内容を改善していきたいと思います。

教員名	花輪 充									
科目名	演劇表現<<対象:大3児学C>>						履修者数	41	回答者数	37
曜日	月	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)表現の自己目的性と伝達性について包括的に説明できる。(DP1) (2)クリエイティブ・ドラマと劇あそびについて理解できる。(DP7) (3)クリエイティブ・ドラマと劇あそびにおける指導者の役割を説明できる。(DP1) (4)クリエイティブ・ドラマと劇あそびの様々な方法について理解できる。(DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.6	実施形態(すべて対面)		37人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	2.7%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状について:予習や事前学修にかけた時間が1時間以上の学生が16%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が51%であった。また、各回の授業に関連する学習(復習)をした学生が24%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が14%であった。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状について:教員の説明について「わかりやすかった・まあわかりやすかった」と回答した学生が100%。授業内容に興味がわくように「工夫されていた・まあ工夫されていた」と回答した学生が100%。小テストやレポートなど授業内容に関する課題が「毎回またはほぼ毎回あった・ときどきあった」と回答した者が100%。授業内容はシラバスと合致していたかについては「合致していた・ほぼ合致していた」と回答した学生が100%。この授業に対して満足していると回答した学生が100%であった。

・自由記述から読み取れることについて:・他の授業ではできない実践的なことを座学と合わせて楽しみながら学べて振り返りも自分自身で学びになることが多く良かったです。・今まで発表会のようなシナリオのある劇だけを劇だと認識していたが、遊びの延長のような活動が望ましいのだとわかった。・日本だけではなく世界の演劇表現についても知ることが出来て、私たちが今まで見たり経験してきたりした演劇だけではなく、世界に目を向ける必要があると思った。

・次年度に向けた課題・その改善案について:今後は、乳児から乳幼児にフォーカスをあてたワーク・プログラムも取り入れていきたいと思います。また、保育現場における劇活動の意義について深く掘り下げ、遊びのなかの表現を支えるコーチング・メソッドについてそれぞれが具体的なプランを立案できるよう、授業内容を改善していきたいと思います。

教員名	笹井邦彦						
科目名	保育の楽器実技C《対象:大4児学／育支》				履修者数	3	回答者数
曜日	木	時限	3限	開講学部	児童学部		
授業形態	実験実習実技			必修／選択	児童学科		

到達目標

この授業は、ピアノの学習をある程度経験していることが前提であり、様々なジャンルのより高度なテクニックを身に付けることが目的であるが、具体的には取り組むジャンルは以下から選択する。・クラシカルな譜面音楽への取り組んだ場合クラシカルな演奏技法の理解と技術の向上・ポピュラー音楽への取り組み音楽スタイルの理解と演奏技術の向上、また、リードシートによる演奏技術の向上・ジャズピアノ音楽への取り組みスイング感の獲得とジャズコード奏法の向上 DP.3.4.5.6.7.

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	-	実施形態(すべて対面)		-人	実施形態(対面に一部メディア)		-人
A-2	復習をしたか	-	D-9	担当教員に質問したか	-	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	-	D-10	学生の参加	-	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	-	実施形態(すべてメディア)		-人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	-	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	-	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	-	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	-	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

実質的には受講者は2名でしたので、個人レッスンが中心で学生とコミュニケーションを取りながら授業が出来たのではないかと思います。最後の授業が体調不良により私が欠席したため、アンケートが出来なかったが、学生2名からの聴取では個人レッスンだったので特にリクエストは内容であった。
この授業では受講者を増やすインフォが必要である。

教員名	堀科／渡部晃正									
科目名	保育方法論(情報機器の操作を含む)《対象:大3育支》					履修者数	109	回答者数	102	
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

①保育方法における歴史的な変遷を知ると共に、現代の様々な実践例とその目的について包括的に説明できる。(DP3, DP8) ②関係機関、保育者同士、保護者との連携を含めた総合的な保育方法のあり方について説明することができる。(DP3, DP5) ③情報機器を活用して教材を作成することができるとともに、子どもの情報活用能力の形成育む保育の工夫を考えることができる。(DP5, DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.6	実施形態(すべて対面)		8人	実施形態(対面に一部メディア)		90人
A-2	復習をしたか	2.7	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	2.2%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.0	F-16	学生の参加	2.8
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		4人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.2
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	3.3%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	20.0%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	25.0%	F-21	学修の効果	3.6

教員コメント

概ね興味や関心をもって授業に臨んでおられた様子が窺えました。授業の内容についてわかりやすいという評価が最も多く、満足度も高い結果となりました。メディア授業についても指示が明確であり、より理解を深められたとの意見がありました。一方、事前学修・事後学修については取り組みを指示しており、また多くの学生が実際に取り組んでいましたが、授業に向ける授業準備の値が低く、このことから授業準備と事前事後学修の目的に齟齬があったように思っています。

教員名	渡部晃正									
科目名	育児支援特別演習A《対象:大3育支A》					履修者数	25	回答者数	19	
曜日	金	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

グループワークを中心としますが、受講生一人ひとりが多文化共生社会へ向けた保育・教育の必要性について理解を深めます。各種文献・資料・データおよびフィールドワークをとおして支援の現状と方法について学ぶことにより、以下の3つの到達目標を達成していきます。【到達目標】①外国につながる子どもと保護者への支援の現状について理解している【現状の理解】(DP9)。②多文化共生社会へ向けた保育・教育における保育者の専門性と役割について理解している【保育者の役割】(DP4)。③諸外国の子育て支援の現状について理解している【諸外国の事例から学ぶ】(DP4)。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.8	実施形態(すべて対面)		5人	実施形態(対面に一部メディア)		14人
A-2	復習をしたか	2.8	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	7.1%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.2	F-16	学生の参加	3.4
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.3
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	7.1%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	57.1%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.9

教員コメント

●「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴):

設問A～Cについて、予習(A-1)と復習(A-2)を除くと、概ね3点台後半のスコアであった。とくに、授業満足度(B-7)について3.84、到達目標の達成度(C-8)に関して、3.79であったことには、注目しておきたい。

●「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴):

授業は、対面の演習形式で実施され(※幼稚園教育実習期間中の2回だけメディア授業で実施)、学外授業も1回実施した。グループワークを多く取り入れたため、受講生には、自主的・協働的な活動が求められた。加えて、外部講師の講演を実施するとともに、学期末レポートを課した。

●自由記述から読み取れること:

自由記述では、「グループ発表を通して、より深く多文化共生社会について学べた。」「一つの国をグループで取り上げて調べたことで、その国の子育て支援のことや現状を理解することができたり、多文化共生に向けての図書館や幼稚園などの支援を知ることができてよかった。」「これから外国から来た子どもを保育する機会があると思うので、多文化教育について学べてとても良かったと感じる。」など、この授業の目的を理解し、真摯に取り組んだ姿が読み取れる、とても前向きな意見のみが示されていた。

●次年度に向けた課題・その改善案:

次年度も引き続き、予習・復習に充てる時間を増やせるよう、課題の内容・回数を調整していきたいと考えている。

教員名	渡部晃正								
科目名	育児支援特別演習A《対象:大3育支B》					履修者数	26	回答者数	20
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

グループワークを中心としますが、受講生一人ひとりが多文化共生社会へ向けた保育・教育の必要性について理解を深めます。各種文献・資料・データおよびフィールドワークをとおして支援の現状と方法について学ぶことにより、以下の3つの到達目標を達成していきます。【到達目標】①外国につながる子どもと保護者への支援の現状について理解している【現状の理解】(DP9)。②多文化共生社会へ向けた保育・教育における保育者の専門性と役割について理解している【保育者の役割】(DP4)。③諸外国の子育て支援の現状について理解している【諸外国の事例から学ぶ】(DP4)。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		1人	実施形態(対面に一部メディア)		19人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	5.3%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.0	F-16	学生の参加	3.3
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	3.6	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.9
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	10.5%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	26.3%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

●「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴):

設問A～Cについて、予習(A-1)と復習(A-2)を除くと、概ね3点台後半のスコアであった。とくに、授業満足度(B-7)について3.75(前年度:3.67)、到達目標の達成度(C-8)に関して、3.55(前年度:3.33)であったことには、注目しておきたい。

●「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴):

授業は、対面の演習形式で実施され(※幼稚園教育実習期間中の2回だけメディア授業で実施)、学外授業も1回実施した。グループワークを多く取り入れたため、受講学生には、自主的・協働的な活動が求められた。加えて、外部講師の講演を実施するとともに、学期末レポートを課した。

●自由記述から読み取れること:

自由記述では、「外国にルーツを持つ子どもや保護者への保育者としての接し方対応の仕方がとても印象に残りました。また、様々な国の子育て支援の取り組みなどを学ぶことが出来ました。」「多文化共生について沢山知ることが出来て良かったし、様々な国の保育や補助金などについて知ることが出来たし、実際に大久保図書館や大久保幼稚園の先生にお話や取り組みを聞けて良かった。」「教材を使ってみようという課題があったり外に出て学習する機会があり、使ってみて行ってみて学べるものが多くあったのすごく良かった。」など、この授業の目的を理解し、真摯に取り組んだ姿が読み取れる、とても前向きな意見のみが示されていた。また、一部にメディア授業を取り入れたことに対して「実習期間はメディアでよかった。」との肯定的な意見があった。

●次年度に向けた課題・その改善案:

次年度も引き続き、予習・復習に充てる時間を増やせるよう、課題の内容・回数を調整していきたいと考えている。

教員名	渡部晃正										
科目名	育児支援特別演習A《対象:大3育支C》					履修者数	33	回答者数	21		
曜日	金	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科				
授業形態	演習			必修／選択							

到達目標

グループワークを中心としますが、受講生一人ひとりが多文化共生社会へ向けた保育・教育の必要性について理解を深めます。各種文献・資料・データおよびフィールドワークをとおして支援の現状と方法について学ぶことにより、以下の3つの到達目標を達成していきます。【到達目標】①外国につながる子どもと保護者への支援の現状について理解している【現状の理解】(DP9)。②多文化共生社会へ向けた保育・教育における保育者の専門性と役割について理解している【保育者の役割】(DP4)。③諸外国の子育て支援の現状について理解している【諸外国の事例から学ぶ】(DP4)。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		10人	実施形態(対面に一部メディア)		11人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	3.5
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.9
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	9.1%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	36.4%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.6

教員コメント

●「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴):

設問A～Cについて、予習(A-1)と復習(A-2)を除くと、概ね3点台後半のスコアであった。とくに、授業満足度(B-7)について3.71、到達目標の達成度(C-8)に関して、3.57(前年度:3.37)であったことには、注目しておきたい。

●「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴):

授業は、対面の演習形式で実施され(※幼稚園教育実習期間中の2回だけメディア授業で実施)、学外授業も1回実施した。グループワークを多く取り入れたため、受講生には、自主的・協働的な活動が求められた。加えて、外部講師の講演を実施するとともに、学期末レポートを課した。

●自由記述から読み取れること:

自由記述では、「授業やグループ発表、ゲストスピーカーの方のお話を通して多文化共生について深く理解することができました。」「異文化共生について理解することができました。また各国の子育て支援についても学べ日本との違いについて理解することができました。」「友達と発表し合うことで新たな刺激になって面白かったです。」など、この授業の目的を理解し、真摯に取り組んだ姿が読み取れる、とても前向きな意見のみが示されていた。また、一部にメディア授業を取り入れたことに対して「実習期間中の課題をメディア授業にしてくれたので、とても助かりました」など、肯定的な意見があった。

●次年度に向けた課題・その改善案:

次年度も引き続き、予習・復習に充てる時間を増やせるよう、課題の内容・回数を調整していきたいと考えている。

教員名	尾崎司									
科目名	育児支援特別演習B《対象:大3育支AB前》						履修者数	54	回答者数	30
曜日	木	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)人口減少社会における地域子育て支援の課題を明確化し、その内容について説明できる(DP3・DP8)。(2)企画を立案する上での基本的な知識・技能を理解し、企画内容を提案することができる(DP3・DP8)。(3)地域住民や行政、企業と協働することの必要性を理解することができる(DP8・DP9)。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.0	実施形態(すべて対面)		27人	実施形態(対面に一部メディア)		3人
A-2	復習をしたか	3.0	D-9	担当教員に質問したか	7.4%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	3.7
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.6	E-11	指示の明確さ	－	F-18	学修時間	3.3
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	－	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	－	F-20	学生どうしの意見交換	33.3%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	－	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

教員名	尾崎司									
科目名	育児支援特別演習B《対象:大3育支B後C》					履修者数	46	回答者数	13	
曜日	木	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)人口減少社会における地域子育て支援の課題を明確化し、その内容について説明できる(DP3・DP8)。(2)企画を立案する上での基本的な知識・技能を理解し、企画内容を提案することができる(DP3・DP8)。(3)地域住民や行政、企業と協働することの必要性を理解することができる(DP8・DP9)。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.7	実施形態(すべて対面)		13人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.7	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.1	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	犬飼亜子									
科目名	育児支援特別演習C≪対象:大3育支A≫						履修者数	27	回答者数	22
曜日	木	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①相談援助を行うために必要なカウンセリングの意義や基礎理論及び技法を理解し、自己理解や自他尊重をはじめ、他分野専門家や専門機関との連携・協働など、カウンセリング・マインドの姿勢と実践力を習得することができる。(DP3・DP9) ②よりよい子育て支援を実践する上で、大切な対人関係コミュニケーションの基礎理論及び技法を理解することができる。(DP3・DP9) ③子どもや家族が抱える諸課題について学びを深め、課題のサインに気づき、課題に関する情報を把握し、背景要因や発生メカニズムを多面的に分析したうえで、多様性に配慮した具体的な相談援助方法を考察し、適切に実施する心構えをもつことができる。(DP3・DP4・DP8) ④自分のありようを振り返り、子育て支援のスペシャリストとして、健康をはじめとする自己管理に努め、社会に貢献する自己イメージや職業観をもつことができる。(DP3・DP4・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.0	実施形態(すべて対面)	12人	実施形態(対面に一部メディア)	9人
A-2	復習をしたか	3.2	D-9 担当教員に質問したか	0.0%	F-15 担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10 学生の参加	3.3	F-16 学生の参加	2.7
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)	1人	F-17 指示の明確さ	3.2
B-5	課題	4.0	E-11 指示の明確さ	4.0	F-18 学修時間	3.6
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12 学修時間	4.0	F-19 教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.5	E-13 教員への発言機会	0.0%	F-20 学生どうしの意見交換	0.0%
C-8	達成度	3.5	E-14 学生どうしの意見交換	100.0%	F-21 学修の効果	3.4

教員コメント

本授業は、シラバスにも記してあるとおり、子育て支援のプロフェッショナルをめざす方にとり3年生後期開講の専門科目であり、支援に関する基本的知識の学修と実践力の育成をめざすやや高度な内容です。それに対し、ほとんどの方は、その点を理解し、しっかりと予復習をして授業に真剣に臨んでいましたが、一部の方は授業態度に課題がありその点が残念でした。

課題は、授業内容に関する予復習を前提に、さらなる支援の知識・情報の拡大及び実践力につながるよう、様々な内容や形式の課題を課しました。

その結果、多くの方が、授業内容と課題の関連性や各課題の狙いを正しく理解し、挑戦し、自己覚知につとめ、テーマについて深く考察したり調べ学習等した上で、良質かつオリジナルな内容を提出していたことは、子育て支援者としての将来の活躍に期待を持っていました。

加えて、授業でも触れましたが、支援現場において記録や報告書等の作成は重要な日常的業務であり、そのものが支援の質につながります。よって、決められたボリューム(字数等)内で、他者が読みやすい書式や理解しやすい表現を用い、情報収集の結果や自分の意見・考察等を、期限内にまとめ提出する力をつけておくことが重要になります。課題提出に苦労された方もいたかと思いますが、この作業を通して、きっとその力が伸張されたものと思います。

対人支援をする専門家は、まず自分の健康管理が重要になることは授業でも触れたとおりです。致し方ない事とは言え体調不良でお休みなさる方が多かったのは気になることでした。どうぞ残る1年間をかけて、ご自分にあう健康管理方法を見つけ習慣化し、体力をアップさせ、自信をもって社会人・専門家として羽ばたいてほしいと思います。期待しています。

教員名	犬飼亜子									
科目名	育児支援特別演習C《対象:大3育支B》						履修者数	36	回答者数	26
曜日	木	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①相談援助を行うために必要なカウンセリングの意義や基礎理論及び技法を理解し、自己理解や自他尊重をはじめ、他分野専門家や専門機関との連携・協働など、カウンセリング・マインドの姿勢と実践力を習得することができる。(DP3・DP9) ②よりよい子育て支援を実践する上で、大切な対人関係コミュニケーションの基礎理論及び技法を理解することができる。(DP3・DP9) ③子どもや家族が抱える諸課題について学びを深め、課題のサインに気づき、課題に関する情報を把握し、背景要因や発生メカニズムを多面的に分析したうえで、多様性に配慮した具体的な相談援助方法を考察し、適切に実施する心構えをもつことができる。(DP3・DP4・DP8) ④自分のありようを振り返り、子育て支援のスペシャリストとして、健康をはじめとする自己管理に努め、社会に貢献する自己イメージや職業観をもつことができる。(DP3・DP4・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		14人	実施形態(対面に一部メディア)		12人
A-2	復習をしたか	2.9	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	2.9	D-10	学生の参加	2.4	F-16	学生の参加	2.3
B-4	興味への工夫	2.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.1
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.3
B-6	シラバスとの合致	3.5	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	2.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	16.7%
C-8	達成度	3.1	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.0

教員コメント

本授業は、シラバスにも記してあるとおり、子育て支援のプロフェッショナルをめざす方にとり3年生後期開講の専門科目であり、支援に関する基本的知識の学修と実践力の育成をめざすやや高度な内容です。それに対し、ほとんどの方は、その点を理解し、しっかりと予復習をして授業に真剣に臨んでいましたが、一部の方は授業態度に課題がありその点が残念でした。

課題は、授業内容に関する予復習を前提に、さらなる支援の知識・情報の拡大及び実践力につながるよう、様々な内容や形式の課題を課しました。

その結果、多くの方が、授業内容と課題の関連性や各課題の狙いを正しく理解し、挑戦し、自己覚知につとめ、テーマについて深く考察したり調べ学習等した上で、良質かつオリジナルな内容を提出していたことは、子育て支援者としての将来の活躍に期待を持っていました。

加えて、授業でも触れましたが、支援現場において記録や報告書等の作成は重要な日常的業務であり、そのものが支援の質につながります。よって、決められたボリューム(字数等)内で、他者が読みやすい書式や理解しやすい表現を用い、情報収集の結果や自分の意見・考察等を、期限内にまとめ提出する力をつけておくことが重要になります。課題提出に苦労された方もいたかと思いますが、この作業を通して、きっとその力が伸張されたものと思います。

対人支援をする専門家は、まず自分の健康管理が重要になることは授業でも触れたとおりです。致し方ない事とは言え体調不良でお休みなさる方が多かったのは気になることでした。どうぞ残る1年間をかけて、ご自分にあう健康管理方法を見つけ習慣化し、体力をアップさせ、自信をもって社会人・専門家として羽ばたいてほしいと思います。期待しています。

教員名	犬飼亜子									
科目名	育児支援特別演習C《対象:大3育支C》						履修者数	38	回答者数	26
曜日	木	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①相談援助を行うために必要なカウンセリングの意義や基礎理論及び技法を理解し、自己理解や自他尊重をはじめ、他分野専門家や専門機関との連携・協働など、カウンセリング・マインドの姿勢と実践力を習得することができる。(DP3・DP9) ②よりよい子育て支援を実践する上で、大切な対人関係コミュニケーションの基礎理論及び技法を理解することができる。(DP3・DP9) ③子どもや家族が抱える諸課題について学びを深め、課題のサインに気づき、課題に関する情報を把握し、背景要因や発生メカニズムを多面的に分析したうえで、多様性に配慮した具体的な相談援助方法を考察し、適切に実施する心構えをもつことができる。(DP3・DP4・DP8) ④自分のありようを振り返り、子育て支援のスペシャリストとして、健康をはじめとする自己管理に努め、社会に貢献する自己イメージや職業観をもつことができる。(DP3・DP4・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		14人	実施形態(対面に一部メディア)		12人
A-2	復習をしたか	2.8	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	8.3%
B-3	わかりやすさ	3.1	D-10	学生の参加	2.9	F-16	学生の参加	2.8
B-4	興味への工夫	2.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.5
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	8.3%
B-7	満足度	3.2	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	25.0%
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

本授業は、シラバスにも記してあるとおり、子育て支援のプロフェッショナルをめざす方にとり3年生後期開講の専門科目であり、支援に関する基本的知識の学修と実践力の育成をめざすやや高度な内容です。それに対し、ほとんどの方は、その点を理解し、しっかりと予復習をして授業に真剣に臨んでいましたが、一部の方は授業態度に課題がありその点が残念でした。

課題は、授業内容に関する予復習を前提に、さらなる支援の知識・情報の拡大及び実践力につながるよう、様々な内容や形式の課題を課しました。

その結果、多くの方が、授業内容と課題の関連性や各課題の狙いを正しく理解し、挑戦し、自己覚知につとめ、テーマについて深く考察したり調べ学習等した上で、良質かつオリジナルな内容を提出していたことは、子育て支援者としての将来の活躍に期待を待ちました。

加えて、授業でも触れましたが、支援現場において記録や報告書等の作成は重要な日常的業務であり、そのものが支援の質につながります。よって、決められたボリューム(字数等)内で、他者が読みやすい書式や理解しやすい表現を用い、情報収集の結果や自分の意見・考察等を、期限内にまとめ提出する力をつけておくことが重要になります。課題提出に苦労された方もいたかと思いますが、この作業を通して、きっとその力が伸張されたものと思います。

対人支援をする専門家は、まず自分の健康管理が重要になることは授業でも触れたとおりです。致し方ない事とは言え体調不良でお休みなさる方が多かったのは気になることでした。どうぞ残る1年間をかけて、ご自分にあう健康管理方法を見つけ習慣化し、体力をアップさせ、自信をもって社会人・専門家として羽ばたいてほしいと思います。期待しています。

教員名	木村美佳									
科目名	育児支援特別演習D《対象:大3育支》						履修者数	61	回答者数	42
曜日	土	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

病気や体調不良等など健康上何らかの身体的問題のある子どもとその保護者・家族について理解を深め、病気のあ
る子どもや保護者・家族に対する保育について基礎的知識を習得する。 1. 病気の子どもの気持ちを理解し説明でき
る(Dp4) 2. 病気のある子どもの保護者・家族の気持ちを理解し説明できる(Dp4) 3. 病気のある子どもやその保
護者・家族への保育の役割や意義を説明できる(Dp6, Dp8, Dp9)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		32人	実施形態(対面に一部メディア)		10人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	9.4%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	3.3
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.6	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.2
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	30.0%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.3

教員コメント

○「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)に関して

AIに関しては、今年度初めてということもあり、どの程度の事前課題が適当かを把握することがやりにくかったため、次年度の課題としたい。また事後課題としてreflection機能も活用したが、短時間で終わるものだった。今後はバランスの良い、振り返りを行えるような準備をします。

○「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

学生さんの実力と聞き取る力、そしてそれを応用する力がとても優れているのだと思いました。毎回の授業で彼らの反応を見て次にどのような授業をするのかを考えていましたが、想像以上に学ぶ力が優れていたようです。

○自由記述から読み取れること: 皆さんが、とても良い言葉で記述してくれていることがとても嬉しかったので、さらに面白い授業を考えていきたいと思います。

自分の身の回りにいる見えない病気の子どものことをさらに考えることができる保育者に育てられるよう、私自身も学んでいきます。

○次年度に向けた課題・その改善案: 特に事前学習、事後学習の出し方がよくわからなかったため慣れるのに時間がかかりました。

来年度は取り組みのしやすい、皆さんが関心があるような体のこと、病気の子どもの日常をどのように過ごしているのか、また入院中の子供達がどのような過ごしているのかなどもさらに理解できるように、事例を活用した授業を展開し、見えないことを見えるような授業をしていこうと思います。

皆さん、ありがとうございました。とても素敵な授業評価を書いてくださり、とても感謝しています。もっと良い授業を作れるようにICTや現場の現状などを組み合わせ、授業に取り入れていきます。医療と保育は切り離せないものです。命を大切に学生自身と、そして子どもの理解につながるようにしていきます。

教員名	渡部晃正									
科目名	教育・保育制度論≪対象:大3育支AB前≫						履修者数	54	回答者数	9
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

現代公教育の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基本的な事項を学ぶとともに、そこに内在する課題を理解していきます。【到達目標】 ①公教育の原理・理念および公教育制度について理解している(DP1)(DP8)。②公教育制度を構成している教育関係法規について理解している。③教育・保育制度を支える教育・保育行政の理念と仕組みについて理解している。④学校(園)と地域(コミュニティ)との連携・協働と特色ある開かれて学校(園)づくりについて理解している(DP9)。⑤学校保健安全法に基づく危機管理を含む学校(園)の安全と実際の取り組みについて理解している。⑥現代の教育・保育問題について、制度の面から分析・理解し、例示・説明することができる(DP3)。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		0人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.8	D-9	担当教員に質問したか	—	F-15	担当教員に質問したか	—
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	—	F-16	学生の参加	—
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		9人	F-17	指示の明確さ	—
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	—
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	3.3	F-19	教員への発言機会	—
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	—
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	—

教員コメント

●「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴):

今回も回収率は低く(16.7%)、得られたデータから学生の取り組み等の全体像について把握することは困難であると考え。ただし、授業はオンデマンドで実施されたので、設問E-11「メディア授業の学修に関する指示は明確でしたか」の4.00と設問E-12「メディア授業1回あたりの学修時間は全部でどのくらいでしたか」の3.33(前年度:3.29)については、注目しておきたい。

●「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴):

授業は、すべてオンデマンド(動画、資料等を配信)で実施され、各人のペースで学修できたのではないかと考える。毎回、課題を課すとともに、単元ごとに小テストを実施した。加えて、オンライン期末試験を実施した。

●自由記述から読み取れること:

自由記述では、「好きな時間に授業を受けられたのが良かった。」「メディア授業を通して、自分のペースで学ぶことができた。」「指示も授業内容も分かりやすかった。」「この授業を受講したことにより、今までの授業でなんとなく理解していた保育の制度について理解することが出来た。」など、授業の目的・方法を理解し、真摯に取り組んだ姿が読み取れ、とても前向きな意見が示されていた。

●次年度に向けた課題・その改善案:

引き続き、予習・復習に充てる時間を増やせるよう、課題の内容・回数を調整していきたいと考えている。

教員名	渡部晃正										
科目名	教育・保育制度論≪対象:大3育支B後C≫					履修者数	55	回答者数	11		
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科				
授業形態	講義			必修／選択							

到達目標

現代公教育の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基本的な事項を学ぶとともに、そこに内在する課題を理解していきます。【到達目標】 ①公教育の原理・理念および公教育制度について理解している(DP1)(DP8)。②公教育制度を構成している教育関係法規について理解している。③教育・保育制度を支える教育・保育行政の理念と仕組みについて理解している。④学校(園)と地域(コミュニティ)との連携・協働と特色ある開かれて学校(園)づくりについて理解している(DP9)。⑤学校保健安全法に基づく危機管理を含む学校(園)の安全と実際の取り組みについて理解している。⑥現代の教育・保育問題について、制度の面から分析・理解し、例示・説明することができる(DP3)。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.9	実施形態(すべて対面)		1人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.8	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		10人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	3.4	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	-

教員コメント

●「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)：

今回も回収率は低く(20.0%)、得られたデータから学生の取り組み等の全体像について把握することは困難であると考え。ただし、授業はオンデマンドで実施されたので、設問E-11「メディア授業の学修に関する指示は明確でしたか」の4.0については注目しておきたい。

●「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)：

授業は、すべてオンデマンド(動画、資料等を配信)で実施され、各人のペースで学修できたのではないかと考える。毎回、課題を課すとともに、単元ごとに小テストを実施した。加えて、オンライン期末試験を実施した。

●自由記述から読み取れること：

自由記述では、「この授業で、保育に関する歴史や制度を改めて学ぶことができた。また、メディア授業の指示も明確で取り組みやすかった。」「オンデマンドなので繰り返し視聴できるところがよかった。」「毎回の課題が多かったため、負担が大きかったが、その分頭に入った。」「オンデマンドでも的確な指示によって、多くのことを学ぶことができました。」など、授業の目的・方法を理解し、真摯に取り組んだ姿が読み取れ、とても前向きな意見が示されていた。

●次年度に向けた課題・その改善案：

引き続き、予習・復習に充てる時間を増やせるよう、課題の内容・回数を調整していきたいと考えている。

教員名	梁川悦美						
科目名	保育の運動実技B《対象:大3育支》				履修者数	7	回答者数
曜日	土	時限	4限	開講学部	児童学部		
授業形態	演習			必修／選択	児童学科		
							1

到達目標

①幼稚園や保育所など、現場で実践できる運動会の企画や運営をすることが出来る。(DP3・DP5・DP9) ②幼児期に育まれる心の育ちや体力的要素を理解した上で、年齢に応じた運動会の種目を提案することが出来る。(DP3・DP5・DP6) ③幼児のためのフォークダンス・レクダンスについて、解説書から動きをおこし実施することが出来る。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		1人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	1.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	4.0	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

授業アンケートへ回答、ありがとうございました。少人数での授業ではありましたが、学生ひとり一人が、しっかりと目的意識を持って授業に取り組んでくれたので、最終的な目的に到達できたのではないかと感じています。みなさんの意識の高さと、課題に向かう姿勢が、大きな力になったのだと思います。

実際に現場に出た時、この授業での学びが少しでも生かすことが出来ればと願うばかりです。

次年度に向けて、今年度の皆さんの声を反映しながら、現場に繋がるような授業内容にしていきたいと思います。そのためには、学生の意見や思いを聞きながら、学生と教員と相互に連携しあえる雰囲気づくりを大事に、有意義な授業にしていきたいと考えています。

教員名	梁川悦美／高野貴子									
科目名	幼児と健康《対象：大3育支A》						履修者数	35	回答者数	34
曜日	月	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

- ①幼児期の運動発達の特徴を説明できる。(DP1) ②幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。(DP2) ③幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方が理解できる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.8	実施形態(すべて対面)		0人	実施形態(対面に一部メディア)		33人
A-2	復習をしたか	2.8	D-9	担当教員に質問したか	－	F-15	担当教員に質問したか	3.0%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	－	F-16	学生の参加	3.6
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.4
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	6.1%
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	54.5%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

授業アンケートへの回答、ありがとうございました。メディア授業と対面授業の組み合わせでしたが、それぞれの授業形態の良さが反映されたように感じています。それは、学生のみなさんが、高い意識を持って授業に取り組んでくれた結果だと受け止めています。オンとオフ、メリハリを持って受講する姿勢が、しっかりと身について実践できるようになった結果だと感じています。ひとりで取り組む時間、一方では、みんなと一緒に協力しあいながら創り上げて結果を出す時間、そして、互いに認め合ったり、新たな発見があったりと、7回の授業の中で存分にやり遂げたのではないかと感じています。次年度に向けて、皆さんの声を参考にしながら、また新たな学生さんと、楽しい授業は勿論、それがきちんと現場で活かされていけるような内容を構築していきたいと考えています。

教員名	梁川悦美／高野貴子								
科目名	幼児と健康《対象:大3育支B》					履修者数	40	回答者数	20
曜日	月	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

- ①幼児期の運動発達の特徴を説明できる。(DP1) ②幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。(DP2) ③幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方が理解できる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.5	実施形態(すべて対面)		3人	実施形態(対面に一部メディア)		16人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	6.3%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	3.3
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	3.0	F-18	学修時間	3.4
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	18.8%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.8

教員コメント

授業アンケートへの回答、ありがとうございました。メディア授業と対面授業の組み合わせでしたが、それぞれの授業形態の良さが反映されたように感じています。それは、学生みなさんが、高い意識を持って授業に取り組んでくれた結果だと受け止めています。オンとオフ、メリハリを持って受講する姿勢が、しっかりと身について実践できるようになった結果だと感じています。ひとりで取り組む時間、一方では、みんなと一緒に協力しながら創り上げて結果を出す時間、そして、互いに認め合ったり、新たな発見があったりと、7回の授業の中で存分にやり遂げたのではないかと感じています。次年度に向けて、皆さんの声を参考にしながら、また新たな学生さんと、楽しい授業は勿論、それがきちんと現場で活かされていけるような内容を構築していきたいと考えています。

教員名	梁川悦美／高野貴子								
科目名	幼児と健康《対象：大3育支C》					履修者数	37	回答者数	26
曜日	月	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

- ①幼児期の運動発達の特徴を説明できる。(DP1) ②幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。(DP2) ③幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方が理解できる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.6	実施形態(すべて対面)		2人	実施形態(対面に一部メディア)		23人
A-2	復習をしたか	2.7	D-9	担当教員に質問したか	50.0%	F-15	担当教員に質問したか	4.3%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	3.9
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.1
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	8.7%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	56.5%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.8

教員コメント

授業アンケートへの回答、ありがとうございました。メディア授業と対面授業の組み合わせでしたが、それぞれの授業形態の良さが反映されたように感じています。それは、学生のみなさんが、高い意識を持って授業に取り組んでくれた結果だと受け止めています。オンとオフ、メリハリを持って受講する姿勢が、しっかりと身について実践できるようになった結果だと感じています。ひとりで取り組む時間、一方では、みんなと一緒に協力しあいながら創り上げて結果を出す時間、そして、互いに認め合ったり、新たな発見があったりと、7回の授業の中で存分にやり遂げたのではないかと感じています。次年度に向けて、皆さんの声を参考にしながら、また新たな学生さんと、楽しい授業は勿論、それがきちんと現場で活かされていけるような内容を構築していきたいと考えています。

教員名	梁川悦美									
科目名	保育内容「健康」の指導法《対象:大3育支A》					履修者数	35	回答者数	12	
曜日	月	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し、説明できる。(DP3) ②領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、説明できる。(DP3・DP5) ③幼稚園教育における評価の考え方を理解し、説明できる。(DP5) ④領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解し、説明できる。(DP3・DP5) ⑤幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解し、説明できる。(DP5) ⑥領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。(DP5) ⑦指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。(DP3・DP5) ⑧模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけ、視野を広げる事ができる。(DP3・DP5・DP7) ⑨領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。(DP3・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.0	実施形態(すべて対面)		0人	実施形態(対面に一部メディア)		12人
A-2	復習をしたか	3.1	D-9	担当教員に質問したか	-	F-15	担当教員に質問したか	8.3%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	-	F-16	学生の参加	3.9
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.3
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	8.3%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	66.7%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.8

教員コメント

授業アンケートへの回答、ありがとうございました。現場実習と重なっている学生にも考慮し、メディア授業と対面授業の組み合わせでしたが、それぞれの授業形態の良さが反映されたように感じています。それは、学生のみなさんが、高い意識を持って授業に取り組んでくれた結果だと受け止めています。オンとオフ、メリハリを持って受講する姿勢が、しっかりと身について実践できるようになった結果だと感じています。ひとりで取り組む時間、一方では、みんなと一緒に協力しあいながら創り上げて結果を出す時間、そして、互いに認め合ったり、新たな発見があったりと、7回の授業の中で存分にやり遂げたのではないかと感じています。

次年度に向けて、皆さんの声を参考にしながら、また新たな学生さんと、楽しい授業は勿論、それがきちんと現場で活かされていけるような内容を構築していきたいと考えています。

教員名	梁川悦美									
科目名	保育内容「健康」の指導法《対象:大3育支B》					履修者数	40	回答者数	11	
曜日	月	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し、説明できる。(DP3) ②領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、説明できる。(DP3・DP5) ③幼稚園教育における評価の考え方を理解し、説明できる。(DP5) ④領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解し、説明できる。(DP3・DP5) ⑤幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解し、説明できる。(DP5) ⑥領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。(DP5) ⑦指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。(DP3・DP5) ⑧模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけ、視野を広げる事ができる。(DP3・DP5・DP7) ⑨領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。(DP3・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.7	実施形態(すべて対面)		1人	実施形態(対面に一部メディア)		10人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	20.0%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	3.6
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	80.0%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.8

教員コメント

授業アンケートへの回答、ありがとうございました。現場実習と重なっている学生にも考慮し、メディア授業と対面授業の組み合わせでしたが、それぞれの授業形態の良さが反映されたように感じています。それは、学生のみなさんが、高い意識を持って授業に取り組んでくれた結果だと受け止めています。オンとオフ、メリハリを持って受講する姿勢が、しっかりと身について実践できるようになった結果だと感じています。ひとりで取り組む時間、一方では、みんなと一緒に協力しあいながら創り上げて結果を出す時間、そして、互いに認め合ったり、新たな発見があったりと、7回の授業の中で存分にやり遂げたのではないかと感じています。

次年度に向けて、皆さんの声を参考にしながら、また新たな学生さんと、楽しい授業は勿論、それがきちんと現場で活かされていけるような内容を構築していきたいと考えています。

教員名	梁川悦美						
科目名	保育内容「健康」の指導法《対象：大3育支C》				履修者数	37	回答者数
曜日	月	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科
授業形態	演習		必修／選択				
							4

到達目標

①領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し、説明できる。(DP3) ②領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、説明できる。(DP3・DP5) ③幼稚園教育における評価の考え方を理解し、説明できる。(DP5) ④領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解し、説明できる。(DP3・DP5) ⑤幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解し、説明できる。(DP5) ⑥領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。(DP5) ⑦指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。(DP3・DP5) ⑧模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけ、視野を広げる事ができる。(DP3・DP5・DP7) ⑨領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。(DP3・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.8	実施形態(すべて対面)		0人	実施形態(対面に一部メディア)		4人
A-2	復習をしたか	2.8	D-9	担当教員に質問したか	－	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	－	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	－	F-18	学修時間	3.5
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	－	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	－	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	－	F-21	学修の効果	3.3

教員コメント

授業アンケートへの回答、ありがとうございました。現場実習と重なっている学生にも考慮し、メディア授業と対面授業の組み合わせでしたが、それぞれの授業形態の良さが反映されたように感じています。それは、学生のみなさんが、高い意識を持って授業に取り組んでくれた結果だと受け止めています。オンとオフ、メリハリを持って受講する姿勢が、しっかりと身について実践できるようになった結果だと感じています。ひとりで取り組む時間、一方では、みんなと一緒に協力しあいながら創り上げて結果を出す時間、そして、互いに認め合ったり、新たな発見があったりと、7回の授業の中で存分にやり遂げたのではないかと感じています。

次年度に向けて、皆さんの声を参考にしながら、また新たな学生さんと、楽しい授業は勿論、それがきちんと現場で活かされていけるような内容を構築していきたいと考えています。

教員名	川合沙弥香									
科目名	造形表現《対象:大3育支A》						履修者数	34	回答者数	15
曜日	木	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①造形表現素材の適切な扱い方を知ることができる。(DP3) ②発達に応じた表現方法を知ることができる。(DP3) ③表現技法を活かした使い方ができる。(DP5) ④楽しい造形表現をするための環境構成ができる。(DP5) ⑤自らの考えを持ちながら、多様な他者の考えを受け入れる等、クラスの仲間(他者)の発表から学ぶことができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.5	実施形態(すべて対面)		2人	実施形態(対面に一部メディア)		13人
A-2	復習をしたか	2.7	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	15.4%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	3.6
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	7.7%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	46.2%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

自由記述のコメントより、多様な造形遊びを他者と協同して取り組めたことが保育実践に活きる学びとなったことが読み取れる。手袋人形の制作は裁縫が苦手な学生にとっては大変さがあったが、努力して制作した分愛着が湧いたという学生や、保育現場で活かせる教材を一から作り上げられたことに達成感、満足感を感じたという学生が多くいることから有意義な授業内容であったと考える。

最終授業1回をオンデマンド授業としたが、自分のペースで繰り返し見て学べた点良かったとの意見が多数あり、今後も全回対面ではなく、オンデマンドを活用していくことが必要だと感じた。ただし、授業アンケートもmanabaを通じての実施となってしまったため、アンケートの回答率が低くなってしまった。アンケートの実施方法や呼びかけの方法については改善していきたい。

教員名	川合沙弥香									
科目名	造形表現<<対象:大3育支B>>						履修者数	36	回答者数	14
曜日	水	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①造形表現素材の適切な扱い方をすることができる。(DP3) ②発達に応じた表現方法を知ることができる。(DP3) ③表現技法を活かした使い方ができる。(DP5) ④楽しい造形表現をするための環境構成ができる。(DP5) ⑤自らの考えを持ちながら、多様な他者の考えを受け入れる等、クラスの仲間(他者)の発表から学ぶことができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		3人	実施形態(対面に一部メディア)		11人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	33.3%	F-15	担当教員に質問したか	27.3%
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.6
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	9.1%
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	18.2%
C-8	達成度	3.9	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.9

教員コメント

自由記述のコメントより、多様な造形遊びを他者と協同して取り組めたことが保育実践に活きる学びとなったことが読み取れる。手袋人形の制作は裁縫が苦手な学生にとっては大変さがあったが、努力して制作した分愛着が湧いたという学生や、保育現場で活かせる教材を一から作り上げられたことに達成感、満足感を感じたという学生が多くいることから有意義な授業内容であったと考える。

最終授業1回をオンデマンド授業としたが、自分のペースで繰り返し見て学べた点良かったとの意見が多数あり、今後も全回対面ではなく、オンデマンドを活用していくことが必要だと感じた。ただし、授業アンケートもmanabaを通じての実施となってしまったため、アンケートの回答率が低くなってしまった。アンケートの実施方法や呼びかけの方法については改善していきたい。

教員名	川合沙弥香									
科目名	造形表現《対象:大3育支C》						履修者数	37	回答者数	10
曜日	木	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①造形表現素材の適切な扱い方を知ることができる。(DP3) ②発達に応じた表現方法を知ることができる。(DP3) ③表現技法を活かした使い方ができる。(DP5) ④楽しい造形表現をするための環境構成ができる。(DP5) ⑤自らの考えを持ちながら、多様な他者の考えを受け入れる等、クラスの仲間(他者)の発表から学ぶことができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		2人	実施形態(対面に一部メディア)		8人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	50.0%	F-15	担当教員に質問したか	12.5%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.0	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.1	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	12.5%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	37.5%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.8

教員コメント

自由記述のコメントより、多様な造形遊びを他者と協同して取り組めたことが保育実践に活きる学びとなったことが読み取れる。手袋人形の制作は裁縫が苦手な学生にとっては大変さがあったが、努力して制作した分愛着が湧いたという学生や、保育現場で活かせる教材を一から作り上げられたことに達成感、満足感を感じたという学生が多くいることから有意義な授業内容であったと考える。

最終授業1回をオンデマンド授業としたが、自分のペースで繰り返し見て学べた点良かったとの意見が多数あり、今後も全回対面ではなく、オンデマンドを活用していくことが必要だと感じた。ただし、授業アンケートもmanabaを通じての実施となってしまったため、アンケートの回答率が低くなってしまった。アンケートの実施方法や呼びかけの方法については改善していきたい。

教員名	花輪 充									
科目名	演劇表現<<対象:大3育支A>>						履修者数	34	回答者数	32
曜日	火	時限	4限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)表現の自己目的性と伝達性について包括的に説明できる。(DP1) (2)クリエイティブ・ドラマと劇あそびについて理解できる。(DP7) (3)クリエイティブ・ドラマと劇あそびにおける指導者の役割を説明できる。(DP1) (4)クリエイティブ・ドラマと劇あそびの様々な方法について理解できる。(DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.8	実施形態(すべて対面)		32人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.9	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状について:予習や事前学修にかけた時間が1時間以上の学生が63%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が6%であった。また、各回の授業に関連する学習(復習)をした学生が72%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が3%であった。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状について:教員の説明について「わかりやすかった・まあわかりやすかった」と回答した学生が100%。授業内容に興味がわくように「工夫されていた・まあ工夫されていた」と回答した学生が100%。小テストやレポートなど授業内容に関する課題が「毎回またはほぼ毎回あった・ときどきあった」と回答した者が100%。授業内容はシラバスと合致していたかについては「合致していた・ほぼ合致していた」と回答した学生が100%。この授業に対して満足していると回答した学生が100%であった。

・自由記述から読み取れることについて:・花輪先生の授業で色々な表現の仕方を学ぶことができた。自分の幅が広がった。・実演を通して子どもの感じる世界と大人が感じる世界の違いを学んだり、子どもたちがどのようなことを楽しんでいる子どもの視点にたって考えることが出来た。・表現とは何か、劇とは何かについて自分の意見を明確にすることが出来ました。・これまで受けてきた表現の授業の中で演劇表現が特に面白くて楽しく受けられた。・花輪先生の授業が1番楽しみでした。

・次年度に向けた課題・その改善案について:今後は、乳児から乳幼児にフォーカスをあてたワーク・プログラムも取り入れていきたいと思います。また、保育現場における劇活動の意義について深く掘り下げ、遊びのなかの表現を支えるコーチング・メソッドについてそれぞれが具体的なプランを立案できるよう、授業内容を改善していきたいと思います。

教員名	花輪充									
科目名	演劇表現<<対象:大3育支B>>						履修者数	36	回答者数	30
曜日	月	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)表現の自己目的性と伝達性について包括的に説明できる。(DP1) (2)クリエイティブ・ドラマと劇あそびについて理解できる。(DP7) (3)クリエイティブ・ドラマと劇あそびにおける指導者の役割を説明できる。(DP1) (4)クリエイティブ・ドラマと劇あそびの様々な方法について理解できる。(DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		29人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	3.4%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	0.0%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状について：予習や事前学修にかけた時間が1時間以上の学生が33%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が3%であった。また、各回の授業に関連する学習(復習)をした学生が40%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が3%であった。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状について：教員の説明について「わかりやすかった・まあわかりやすかった」と回答した学生が96%。授業内容に興味がわくように「工夫されていた・まあ工夫されていた」と回答した学生が100%。小テストやレポートなど授業内容に関する課題が「毎回またはほぼ毎回あった・ときどきあった」と回答した者が100%。授業内容はシラバスと合致していたかについては「合致していた・ほぼ合致していた」と回答した学生が100%。この授業に対して満足していると回答した学生が100%であった。

・自由記述から読み取れることについて：「子どもたちの劇遊びや演劇表現について体験を通して学ぶことが出来て良かったです。・花輪先生の授業は7回ではなくて14回受けたい。・保育現場における演劇表現のあり方について深く考えることが出来たので良かったです。アニメムなどの表現方法を今後保育に取り入れられたいと思う。・園での発表会などに関する課題も知り、今後の現場での演劇がどう変化していくのか、どう自分が携われるのかを考えていきたいと思いました。

・次年度に向けた課題・その改善案について：今後は、乳児から乳幼児にフォーカスをあてたワーク・プログラムも取り入れていきたいと思います。また、保育現場における劇活動の意義について深く掘り下げ、遊びのなかの表現を支えるコーチング・メソッドについてそれぞれが具体的なプランを立案できるよう、授業内容を改善していきたいと思います。

教員名	花輪 充								
科目名	演劇表現《対象:大3育支C》					履修者数	37	回答者数	33
曜日	月	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

(1)表現の自己目的性と伝達性について包括的に説明できる。(DP1) (2)クリエイティブ・ドラマと劇あそびについて理解できる。(DP7) (3)クリエイティブ・ドラマと劇あそびにおける指導者の役割を説明できる。(DP1) (4)クリエイティブ・ドラマと劇あそびの様々な方法について理解できる。(DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		32人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	3.1%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	0.0%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状について：予習や事前学修にかけた時間が1時間以上の学生が30%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が18%であった。また、各回の授業に関連する学習(復習)をした学生が33%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が3%であった。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状について：教員の説明について「わかりやすかった・まあわかりやすかった」と回答した学生が97%。授業内容に興味がわくように「工夫されていた・まあ工夫されていた」と回答した学生が100%。小テストやレポートなど授業内容に関する課題が「毎回またはほぼ毎回あった・ときどきあった」と回答した者が87%。授業内容はシラバスと合致していたかについては「合致していた・ほぼ合致していた」と回答した学生が100%。この授業に対して満足していると回答した学生が100%であった。

・自由記述から読み取れることについて：「子どもが活動することを、まず最初は自分たちで体験をして、どのように感じるのかを毎回のワークショップを通して考えてから、子どもの活動として展開することが大事だと思った。」「子どもの考えに沿うことは難しいですが、それを体験できるような授業で表現に関する子ども理解の深め方を変えたいと感じました。」「子どもたちのこと、保育のこと、演劇表現のこと色んなことを学ぶことができ、毎回毎回心に残る授業だったと感じました。」

・次年度に向けた課題・その改善案について：今後は、乳児から乳幼児にフォーカスをあてたワーク・プログラムも取り入れていきたいと思います。また、保育現場における劇活動の意義について深く掘り下げ、遊びのなかの表現を支えるコーチング・メソッドについてそれぞれが具体的なプランを立案できるよう、授業内容を改善していきたいと思います。

教員名	岩崎美智子									
科目名	育児支援研究《対象:大3育支AB前》						履修者数	53	回答者数	40
曜日	金	時限	5限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

(1) 家族や親子関係の現状を、データや統計から客観的に把握することができる。(DP3) (2) 家族にはさまざまな形があることを知り、自分の場合とは異なる親子関係についても、否定せず認めることができる。(DP8) (3) 子どもの生き生きとした姿や、子どもと過ごすことの喜びについて他者に伝えることができる。(DP7) (4) 現代社会における育児支援の意義や役割について説明することができる。(DP4・DP9) (5) 支援者としての保育者の専門性について、他者に口頭や文章で説明することができる。(DP8・DP9)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.6	実施形態(すべて対面)		2人	実施形態(対面に一部メディア)		36人
A-2	復習をしたか	2.7	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	2.5	F-16	学生の参加	3.1
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		2人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.3
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	3.5	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	50.0%	F-20	学生どうしの意見交換	22.2%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

教員名	岩崎美智子									
科目名	育児支援研究《対象:大3育支B後C》						履修者数	61	回答者数	50
曜日	金	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

(1) 家族や親子関係の現状を、データや統計から客観的に把握することができる。(DP3) (2) 家族にはさまざまな形があることを知り、自分の場合とは異なる親子関係についても、否定せず認めることができる。(DP8) (3) 子どもの生き生きとした姿や、子どもと過ごすことの喜びについて他者に伝えることができる。(DP7) (4) 現代社会における育児支援の意義や役割について説明することができる。(DP4・DP9) (5) 支援者としての保育者の専門性について、他者に口頭や文章で説明することができる。(DP8・DP9)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		6人	実施形態(対面に一部メディア)		43人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	4.7%
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	3.0	F-16	学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.6
B-5	課題	3.4	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	4.7%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	27.9%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.4

教員コメント

教員名	塚本美起子／榎本眞実									
科目名	保育内容演習(人間関係)《対象:大1児学A》					履修者数	48	回答者数	39	
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を理解できる。(DP1・DP2) ・幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想することができる。(DP2・DP5・DP8・DP9)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		39人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	5.1%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.4	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	塚本美起子／榎本眞実									
科目名	保育内容演習(人間関係)《対象:大1児学B》					履修者数	49	回答者数	45	
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を理解できる。(DP1・DP2) ・幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想することができる。(DP2・DP5・DP8・DP9)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.1	実施形態(すべて対面)		44人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	2.3%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

教員名	塚本美起子／榎本眞実									
科目名	保育内容演習(人間関係)《対象:大1児学C》					履修者数	49	回答者数	44	
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を理解できる。(DP1・DP2) ・幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想することができる。(DP2・DP5・DP8・DP9)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		43人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	2.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.3	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	佐藤康富										
科目名	保育内容演習(環境)《対象:大1児学A》					履修者数	47	回答者数	41		
曜日	金	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科				
授業形態	演習			必修／選択							

到達目標

1、幼稚園教育要領の領域「環境」についてその基本的な考えを理解し説明することができる。(DP1・DP5・DP6) 2、子どもを取り巻く環境の重要性について理解し保育現場における実践方法を習得する。((DP3・DP6) 3、領域環境における保育者の役割について学び、そのかわり方について説明し実践できる。((DP1・DP2・DP5) 4、併せて環境教育を保育に取り入れることの意義について理解し、説明できる。(DP3・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.1	実施形態(すべて対面)		39人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	20.5%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	2.0
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	2.0
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	0.0%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.0

教員コメント

この科目では領域「環境」のねらいと内容について理解することが目的であった。学生自身はこの「環境」という内容についてよく理解し、保育構成者としての保育者の視点だけでなく、それを受ける子どもの視点からも理解を深めたことが伺える。くわえて、授業の中での体験内容と課題を往還することにより、さらに考えを深めていったように思われる。

授業担当者としては、どのような課題を適切に提示するのか、また、フィードバックするののかはとても重要である。くわえて、学生同士が協働して課題を追求する姿勢を育むことも重要であると考えます。

今後は、さらに学生自身が探究できるような内容構成、資料の提示、探究の仕方、それに対するフィードバックを効果的に組み合わせながら、学生自身の学修に対する意欲を喚起していきたい。

教員名	佐藤康富									
科目名	保育内容演習(環境)《対象:大1児学B》						履修者数	48	回答者数	43
曜日	水	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1、幼稚園教育要領の領域「環境」についてその基本的な考えを理解し説明することができる。(DP1・DP5・DP6) 2、子どもを取り巻く環境の重要性について理解し保育現場における実践方法を習得する。((DP3・DP6) 3、領域環境における保育者の役割について学び、そのかわり方について説明し実践できる。((DP1・DP2・DP5) 4、併せて環境教育を保育に取り入れることの意義について理解し、説明できる。(DP3・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		43人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	27.9%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.9	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

この科目では領域「環境」のねらいと内容について理解することが目的であった。学生自身はこの「環境」という内容についてよく理解し、保育構成者としての保育者の視点だけでなく、それを受ける子どもの視点からも理解を深めたことが伺える。くわえて、授業の中での体験内容と課題を往還することにより、さらに考えを深めていったように思われる。授業担当者としては、どのような課題を適切に提示するのか、また、フィードバックするののかはとても重要である。くわえて、学生同士が協働して課題を追求する姿勢を育むことも重要であると考え。今後は、さらに学生自身が探究できるような内容構成、資料の提示、探究の仕方、それに対するフィードバックを効果的に組み合わせながら、学生自身の学修に対する意欲を喚起していきたい。

教員名	佐藤康富									
科目名	保育内容演習(環境)《対象:大1児学C》						履修者数	45	回答者数	42
曜日	水	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1、幼稚園教育要領の領域「環境」についてその基本的な考えを理解し説明することができる。(DP1・DP5・DP6) 2、子どもを取り巻く環境の重要性について理解し保育現場における実践方法を習得する。(DP3・DP6) 3、領域環境における保育者の役割について学び、そのかわり方について説明し実践できる。(DP1・DP2・DP5) 4、併せて環境教育を保育に取り入れることの意義について理解し、説明できる。(DP3・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		42人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	16.7%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.9	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

この科目では領域「環境」のねらいと内容について理解することが目的であった。学生自身はこの「環境」という内容についてよく理解し、保育構成者としての保育者の視点だけでなく、それを受ける子どもの視点からも理解を深めたことが伺える。くわえて、授業の中での体験内容と課題を往還することにより、さらに考えを深めていったように思われる。授業担当者としては、どのような課題を適切に提示するのか、また、フィードバックするののかはとても重要である。くわえて、学生同士が協働して課題を追求する姿勢を育むことも重要であると考え。今後は、さらに学生自身が探究できるような内容構成、資料の提示、探究の仕方、それに対するフィードバックを効果的に組み合わせながら、学生自身の学修に対する意欲を喚起していきたい。

教員名	木村美佳									
科目名	子どもの保健<<対象:大1児学>>						履修者数	141	回答者数	127
曜日	月	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

子どもひとり一人の豊かな育ちを保障するために、以下の目標のもと、子どもの健康の保持・増進のための基礎的知識を習得する。(DP3, DP6)

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について説明できる。(DP1, DP2)
2. 子どもの身体的発育の特徴を説明できる。(DP1, DP2)
3. 子どもに多い症状とその対応について述べるができる。(DP1, DP2)
4. 小児期に多い疾病の特徴について述べるができる。(DP1, DP2)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		124人	実施形態(対面に一部メディア)		2人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	9.7%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	3.5
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	2.0
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)

事前課題、事後課題が少なかったと思われる。これはどの授業にも共通することであり、授業との関連でより授業の内容を深く考えて主体的に取り組めるようなものを考える必要があると思った。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

授業がわかりにくかったという学生もいるが、ほとんどの学生がとても楽しんでくれており、実際に学びを展開し、さらに自分自身の生活に影響があったということも書かれていた。今後もこの方法を続けて、さらにわかりやすいスライドや資料を作っていくことも課題としたい。

・自由記述から読み取れること

このクラスは特に命のことを深く学ぶことのできる学生が多くおり、子供の今を大切にすることに気づきがあったとも書かれている。グループワークでの学びをしっかりと自分の糧にしており、彼ら自身の力を感ずることが私自身もできた。

机間巡視がよかったと評価してくれる学生もいたので、ほとんど嫌がられるかと思っていたが、これは次年度も続けて、学生の直接の気持ちや意見を聞きたいと思った。今回、辛い思いになった学生もいたので、授業を受けても自分自身が辛くならないような癒しの方法も取り入れ、実際にやってみようと思う。

・次年度に向けた課題・その改善案

次年度は、学生が自分の心身を守る方法も教えていき、実際に授業で辛い内容を話すときには、先に辛くなったときにはどうするかを指導し、支援し、温かい授業をしていこうと思う。

教員名	岩崎美智子									
科目名	子ども家庭福祉《対象:大1児学》						履修者数	143	回答者数	127
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

(1)日本の子ども家庭福祉に関する法律・制度・政策について、基本的知識を習得する。(DP1) (2)子どもや家族をめぐる問題を、客観的に理解できる。(DP2・DP8) (3)子どもの最善の利益や権利保障について、自分自身の考えをもつことができる。(DP4・DP9)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		6人	実施形態(対面に一部メディア)		114人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	1.8%
B-3	わかりやすさ	3.0	D-10	学生の参加	2.7	F-16	学生の参加	2.5
B-4	興味への工夫	2.9	実施形態(すべてメディア)		7人	F-17	指示の明確さ	3.5
B-5	課題	3.1	E-11	指示の明確さ	3.6	F-18	学修時間	2.7
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	2.7	F-19	教員への発言機会	4.4%
B-7	満足度	3.2	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	20.2%
C-8	達成度	3.3	E-14	学生どうしの意見交換	28.6%	F-21	学修の効果	3.2

教員コメント

教員名	西海聡子／小田切舞美／蜷江春香／笹井邦彦／坂田すみれ／山本優子／清水千恵／篠崎智／鈴木順子／鈴木範之／高田有香子／古川和代／松本哲平／本山美和／森谷裕希子／和田靖子／渡辺かおり								
科目名	子どもの歌と伴奏《対象：大1児学》					履修者数	139	回答者数	123
曜日	金	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	実験実習実技			必修／選択					

到達目標

1. 楽譜（音高・リズム）を正確に読むことができる。（DP3） 2. 正しい音程でことばをはっきりと、子どもの歌が歌える。（DP3） 3. コードネームを理解し、コードを使って子どもの歌に伴奏を付けることができる（DP3） 4. コード伴奏で、歌を中心とした弾き歌いができる。（DP3・DP5） 5. 子どもの歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。（DP3・DP5）

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.3	実施形態（すべて対面）	122人	実施形態（対面に一部メディア）	0人
A-2	復習をしたか	3.1	D-9 担当教員に質問したか	79.5%	F-15 担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10 学生の参加	3.2	F-16 学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態（すべてメディア）	1人	F-17 指示の明確さ	-
B-5	課題	3.3	E-11 指示の明確さ	4.0	F-18 学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12 学修時間	4.0	F-19 教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13 教員への発言機会	100.0%	F-20 学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14 学生どうしの意見交換	100.0%	F-21 学修の効果	-

教員コメント

■「学生の取り組み・達成」に関するこの授業の現状

事前学修を50分以上と明示しているが、80%程度の学生がそれを達成出来ていた。実技授業に事前学修は大変重要で、全ての学生が達成できるよう授業内で声掛けや課題提示をしていきたい。

復習は、予習よりも時間をかけている学生が少なかった。すぐに復習することで、学習内容をより定着出来るため、復習に繋がる指導を充実させたい。

授業の達成度の自己評価は、達成できた、ほぼ達成できた、の回答が合わせて98%と高評価であった。教員の授業内容の工夫と、少人数の授業によるきめ細やかに指導できたことが、この結果に繋がっているのではないかと。

■「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状

説明のわかりやすさ、内容の工夫、シラバスとの合致、授業の満足度はいずれも高評価だが、授業内容に関する課題が少ないと感じた学生は20%程度いたことは反省点である。コードの確認やリズム練習課題など、学生が課題と認識してその達成のために取り組める声掛けが必要である。

■自由記述から読み取れること

ピアノ初心者でも1年間で弾き歌い出来るようになったと実感している学生が多い。

経験者もコード演奏や弾き歌いは未経験であり、多くの学びがあったと感じている。

この授業の経験が就職など自分の将来に役立つと実感している。

少人数の授業により、一人一人に的確なアドバイスができたことが、学生の達成感に繋がっている。

■次年度に向けた課題・その改善案

授業内容の復習の課題も設定し、復習の重要性を伝える。

より高い達成度を目指す。個々の苦手なことを把握し、その学生にあった課題や指導法を準備する。

左手の伴奏を考えるのが負担で、伴奏譜はあった方がいいと思う学生がいた。この授業で大切にしている点が理解されていないので、コード伴奏の利点を全ての学生が理解できる指導を行いたい。

教員名	梅谷千代子／梁川悦美									
科目名	保育内容の理解と方法A(体育)《対象:大1児学A》					履修者数	47	回答者数	39	
曜日	土	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①体を動かす遊びについて、他者(保育者や他の子ども)との関係や集団の中での育ちについて説明できる。(DP2) ②体を動かす遊びを子どもたちと共に展開したりする技術を発揮できる。(DP3・DP6) ③体を動かす遊びの中で、子どものイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成や援助、保育の展開を構想することができる。(DP5・DP6) ④遊びにおける様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解し、それらの活用や作成に必要な知識及び技術を発揮できる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.6	実施形態(すべて対面)		39人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	20.5%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.6	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	梅谷千代子／梁川悦美									
科目名	保育内容の理解と方法A(体育)《対象:大1児学B》					履修者数	49	回答者数	46	
曜日	土	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①体を動かす遊びについて、他者(保育者や他の子ども)との関係や集団の中での育ちについて説明できる。(DP2) ②体を動かす遊びを子どもたちと共に展開したりする技術を発揮できる。(DP3・DP6) ③体を動かす遊びの中で、子どものイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成や援助、保育の展開を構想することができる。(DP5・DP6) ④遊びにおける様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解し、それらの活用や作成に必要な知識及び技術を発揮できる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		46人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	32.6%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.4	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	梅谷千代子／梁川悦美									
科目名	保育内容の理解と方法A(体育)《対象:大1児学C》					履修者数	46	回答者数	46	
曜日	土	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①体を動かす遊びについて、他者(保育者や他の子ども)との関係や集団の中での育ちについて説明できる。(DP2) ②体を動かす遊びを子どもたちと共に展開したりする技術を発揮できる。(DP3・DP6) ③体を動かす遊びの中で、子どものイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成や援助、保育の展開を構想することができる。(DP5・DP6) ④遊びにおける様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解し、それらの活用や作成に必要な知識及び技術を発揮できる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		46人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	15.2%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.1	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.2	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	金山和彦									
科目名	保育内容の理解と方法C(造形)《対象:大1児学A》					履修者数	47	回答者数	36	
曜日	水	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

本演習では、幼児の造形行為から発達の姿を理解し、適切な支援ができることを目標とする。①領域「表現」のねらいとその内容についての確に把握できる。②様々な素材や方法を用いた造形体験を通して、表現方法を理解することができる。(DP3)(DP5)③保育者として、幼児の多様な表現を受容・共感するための基礎的姿勢と技術を備えることができる。(DP8)④造形原理を理解し、保育環境を構成することができる。(DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.3	実施形態(すべて対面)		36人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.3	D-9	担当教員に質問したか	30.6%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	1.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

授業内容への工夫、シラバスとの整合、満足度について6から7割の学生がポジティブな回答をしていることについては今後も継続していきたい。

・自由記述で「学生が制作した作品について教員の好みによって評価と声掛けが変わるところが不快だった」とあります。幼児造形における教師の関わり方とは、できていない学生に支援をする、一方で見通しを持てる学生、器用な学生についてはかかわりをしないタイミングもあります。「教員の好み」について。→好みにとどまらず、作品製作の理解の度合い、完成度という言い方もできますね。

教員名	金山和彦									
科目名	保育内容の理解と方法C(造形)《対象:大1児学B》					履修者数	48	回答者数	37	
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

本演習では、幼児の造形行為から発達の姿を理解し、適切な支援ができることを目標とする。①領域「表現」のねらいとその内容についての確に把握できる。②様々な素材や方法を用いた造形体験を通して、表現方法を理解することができる。(DP3)(DP5)③保育者として、幼児の多様な表現を受容・共感するための基礎的姿勢と技術を備えることができる。(DP8)④造形原理を理解し、保育環境を構成することができる。(DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.1	実施形態(すべて対面)		37人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.2	D-9	担当教員に質問したか	29.7%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.3	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

授業内容に関する満足度について7割の学生がポジティブな回答をしていることについては今後も継続していきたい。予習復習については、教材準備、振り返り、作品図録作成の時間をあてはめてほしいです。

・自由記述で「毎度、これは絶対にやっては行けない保育ですよと言われながらそれしかなかった」→教室における石油系エアゾール使用のことと思います。(これは、園行事等で特に大切なことですので、繰り返し伝えました)授業で紹介した造形活動における素材は、ほとんどが安全なものですが、一部、絵具の毒性、クレパスの添加物、絵画用具の洗浄方法、ホウシャ、PVAの危険性、粘土の誤飲についてなど、その都度示してきました。提示に方法について、再考します。

教員名	金山和彦									
科目名	保育内容の理解と方法C(造形)《対象:大1児学C》					履修者数	48	回答者数	37	
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

本演習では、幼児の造形行為から発達の姿を理解し、適切な支援ができることを目標とする。①領域「表現」のねらいとその内容についての確に把握できる。②様々な素材や方法を用いた造形体験を通して、表現方法を理解することができる。(DP3)(DP5)③保育者として、幼児の多様な表現を受容・共感するための基礎的姿勢と技術を備えることができる。(DP8)④造形原理を理解し、保育環境を構成することができる。(DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.2	実施形態(すべて対面)		37人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.3	D-9	担当教員に質問したか	29.7%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.2	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	1.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

「先生の授業の準備が不十分でスムーズに進まないことが多かったように感じた。」→48名分の絵具、多様な素材を扱う教材準備において授業進行がスムーズに進まなかったことは反省すべき点であると思います。何故、スムーズに進まないのか、各クラスによりプログラムのスピードが違うのかを今一度、相対的に考えていこうと思います。そして、上手くいく保育とは何かを学生の皆さんと今一度考えてみたいと思います。

授業内容に関する満足度について6割の学生がポジティブな回答をしていることについては今後も継続していきたい。予習復習については、教材準備、振り返り、作品図録作成の時間をあてはめてほしいです。

教員名	是澤優子									
科目名	保育内容の理解と方法D(言葉)《対象:大1児学A》					履修者数	47	回答者数	42	
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)乳幼児の言葉が育つ文化的環境について説明できる。(DP4・DP5) (2)言葉の発達にかかわる児童文化財に関する知識を、主体的に学ぶことができる。(DP5・DP8) (3)児童文化財の実践にかかわる基礎的技術を身に付けるために工夫して実演し、課題を省察できる。(DP3・DP5・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		3人	実施形態(対面に一部メディア)		38人
A-2	復習をしたか	1.9	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	5.3%
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	3.3	F-16	学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	2.9
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	7.9%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	39.5%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

「学生の取り組み」は項目A-1(予習・事前学習)、A-2(復習など)、F-18(メディア授業1回あたりの学修時間)とも3点に達しなかった。B-5(授業課題)が3.40となっているが、毎回授業内容に関する課題を課していても、授業外学修にかかる時間が予習復習を含めて1時間以内で済んでいたことが分かった。

教員の授業の仕方に関して、項目-3「わかりやすさ」4.00、B-4「工夫」3.93、B-5「課題」3.45、B-6「シラバスと合致」3.95、B-7「満足」3.93。メディア授業と対面授業の組み合わせに関して、項目F-17「メディア授業に関する指示の明確さ」3.92、F-21「学習の効果」3.68という結果であることから良好といえる。

自由記述でいただいた意見は貴重なものばかりであった。対面とメディアの組み合わせが効果的であったようだ。授業全体を通して、児童文化財の知識をより多く深く得ることができたようだ。対面授業とメディア授業の効果的な相互補完をさらに工夫したい。

次年度以降も授業内容を再構築しながら、保育を学ぶ学生たちの視野が広がり、言葉の育ちに関わる児童文化財について多様な視点から考えられるような授業内容・展開を心がけていきたい。

教員名	是澤優子									
科目名	保育内容の理解と方法D(言葉)《対象:大1児学B》					履修者数	48	回答者数	46	
曜日	土	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)乳幼児の言葉が育つ文化的環境について説明できる。(DP4・DP5) (2)言葉の発達にかかわる児童文化財に関する知識を、主体的に学ぶことができる。(DP5・DP8) (3)児童文化財の実践にかかわる基礎的技術を身に付けるために工夫して実演し、課題を省察できる。(DP3・DP5・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		3人	実施形態(対面に一部メディア)		42人
A-2	復習をしたか	1.9	D-9	担当教員に質問したか	33.3%	F-15	担当教員に質問したか	9.5%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	2.9
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.3	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	2.7
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	9.5%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	42.9%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.6

教員コメント

「学生の取り組み」は項目A-1(予習・事前学習)、A-2(復習など)、F-18(メディア授業1回あたりの学修時間)とも3点に達しなかった。B-5(授業課題)が3.26となっているが、毎回授業内容に関する課題を課していても、授業外学修にかかる時間が予習復習を含めて1時間以内で済んでいたことが分かった。

教員の授業の仕方に関して、項目-3「わかりやすさ」3.89、B-4「工夫」3.91、B-5「課題」3.26、B-6「シラバスと合致」3.85、B-7「満足」3.91。メディア授業と対面授業の組み合わせに関して、項目F-17「メディア授業に関する指示の明確さ」3.93、F-21「学習の効果」3.62という結果であることから良好といえる。

自由記述でいただいた意見は貴重なものばかりであった。対面とメディアの組み合わせが効果的であったようだ。授業全体を通して、児童文化財の知識をより多く深く得ることができたようだ。対面授業とメディア授業の効果的な相互補完をさらに工夫したい。

次年度以降も授業内容を再構築しながら、保育を学ぶ学生たちの視野が広がり、言葉の育ちに関わる児童文化財について多様な視点から考えられるような授業内容・展開を心がけていきたい。

教員名	是澤優子									
科目名	保育内容の理解と方法D(言葉)《対象:大1児学C》					履修者数	45	回答者数	44	
曜日	土	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)乳幼児の言葉が育つ文化的環境について説明できる。(DP4・DP5) (2)言葉の発達にかかわる児童文化財に関する知識を、主体的に学ぶことができる。(DP5・DP8) (3)児童文化財の実践にかかわる基礎的技術を身に付けるために工夫して実演し、課題を省察できる。(DP3・DP5・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		4人	実施形態(対面に一部メディア)		39人
A-2	復習をしたか	1.9	D-9	担当教員に質問したか	50.0%	F-15	担当教員に質問したか	7.7%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	2.7
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	2.0	F-19	教員への発言機会	5.1%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	30.8%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

「学生の取り組み」は項目A-1(予習・事前学習)、A-2(復習など)、F-18(メディア授業1回あたりの学修時間)とも3点に達しなかった。B-5(授業課題)が3.55となっているが、毎回授業内容に関する課題を課していても、授業外学修にかかる時間が予習復習を含めて1時間以内で済んでいたことが分かった。

教員の授業の仕方に関して、項目-3「わかりやすさ」3.89、B-4「工夫」3.93、B-5「課題」3.55、B-6「シラバスと合致」3.86、B-7「満足」3.86。メディア授業と対面授業の組み合わせに関して、項目F-17「メディア授業に関する指示の明確さ」3.87、F-21「学習の効果」3.72という結果であることから良好といえる。

自由記述でいただいた意見は貴重なものばかりであった。対面とメディアの組み合わせが効果的であったようだ。授業全体を通して、児童文化財の知識をより多く深く得ることができたようだ。対面授業とメディア授業の効果的な相互補完をさらに工夫したい。

次年度以降も授業内容を再構築しながら、保育を学ぶ学生たちの視野が広がり、言葉の育ちに関わる児童文化財について多様な視点から考えられるような授業内容・展開を心がけていきたい。

教員名	松本なるみ									
科目名	社会的養護Ⅱ《対象:大1児学A》						履修者数	47	回答者数	38
曜日	金	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)社会的養護を必要とする子どもの現状を理解し養護問題が発生する背景について指摘することができる。(DP4)(DP8) (2)家庭養護・施設養護の実際について学び、子どもとその家族への具体的な支援について述べるができる。(DP2)(DP4)(DP5) (3)社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解を深め議論することができる。(DP4)(DP8)(DP9) (4)児童の権利擁護と保育士の倫理・専門性を理解し説明できる。(DP4) (5)個々の子どもに必要な日常生活の支援・自立支援について学び、個別の支援計画演習課題において適用できる。(DP4)(DP5)(DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		7人	実施形態(対面に一部メディア)		30人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	3.3%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	2.9
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	2.9
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	6.7%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	20.0%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.6

教員コメント

金曜日の1限の授業でしたので、発言を求められる演習授業は、みなさんのエンジンがかかるまで少し時間を要した印象です。「他の人の意見や考えを聞くことができてよかった」とのご意見が多くあり、授業内での発言の機会が、学びを深めるきっかけとなったことを実感しています。また、「前期の社会的養護Ⅰの授業からさらに理解が深まった」という声からは、継続的な学びの効果も見えてきました。一方で、時には内容が難しく感じられたというご意見や、予習・復習に関する評価(2.29)については、今後の改善のヒントとして受け止めています。今後は、難しい内容をよりわかりやすく伝える工夫や、予習・復習の取り組みを自然に取り入れられるような授業設計をしていきたいと思っています。

教員名	松本なるみ						
科目名	社会的養護Ⅱ《対象：大1児学B》				履修者数	48	回答者数
曜日	金	時限	4限	開講学部	児童学部		
授業形態	演習			必修／選択	児童学科		
						44	

到達目標

(1)社会的養護を必要とする子どもの現状を理解し養護問題が発生する背景について指摘することができる。(DP4)(DP8) (2)家庭養護・施設養護の実際について学び、子どもとその家族への具体的な支援について述べるができる。(DP2)(DP4)(DP5) (3)社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解を深め議論することができる。(DP4)(DP8)(DP9) (4)児童の権利擁護と保育士の倫理・専門性を理解し説明できる。(DP4) (5)個々の子どもに必要な日常生活の支援・自立支援について学び、個別の支援計画演習課題において適用できる。(DP4)(DP5)(DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		14人	実施形態(対面に一部メディア)		28人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	21.4%	F-15	担当教員に質問したか	14.3%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	2.9	F-16	学生の参加	3.3
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		2人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	2.8
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	32.1%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	50.0%
C-8	達成度	3.9	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.8

教員コメント

今回の結果から、授業満足度および授業到達度(3.86)において、全体的に肯定的な評価をいただけたことを嬉しく思います。自由記述では「他者の意見や考えを聞くことができてよかった」とのご意見が多くあり、授業内での発言の機会が、学びを深めるきっかけとなったことを実感しています。また、「前期の授業からさらに理解が深まった」という声からは、継続的な学びの効果も見えてきました。一方で、時には内容が難しく感じられたというご意見や、予習・復習に関する評価(2.23)については、今後の改善のヒントとして受け止めています。今後は、難しい内容をよりわかりやすく伝える工夫や、予習・復習の取り組みを自然に取り入れられるような授業設計をしていきたいと思ひます。

教員名	松本なるみ									
科目名	社会的養護Ⅱ《対象:大1児学C》						履修者数	48	回答者数	42
曜日	水	時限	4限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)社会的養護を必要とする子どもの現状を理解し養護問題が発生する背景について指摘することができる。(DP4)(DP8) (2)家庭養護・施設養護の実際について学び、子どもとその家族への具体的な支援について述べるができる。(DP2)(DP4)(DP5) (3)社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解を深め議論することができる。(DP4)(DP8)(DP9) (4)児童の権利擁護と保育士の倫理・専門性を理解し説明できる。(DP4) (5)個々の子どもに必要な日常生活の支援・自立支援について学び、個別の支援計画演習課題において適用できる。(DP4)(DP5)(DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		30人	実施形態(対面に一部メディア)		11人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	3.3%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	3.3
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.6
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	2.7
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	36.4%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

今回のアンケート結果から、授業満足度(3.86)および授業到達度(3.79)において、全体的に肯定的な評価をいただけたと思います。自由記述では「ほかの人の意見を聞くことができてよかった」とのご意見が多くあり、授業内での発言の機会が、学びを深めるきっかけとなったことを実感しています。また、「前期の授業からさらに理解が深まった」という声からは、継続的な学びの効果も見えてきました。一方で、時には内容が難しく感じられたというご意見や、予習・復習に関する評価(2.16)については改善が必要です。今後は、難しい内容をよりわかりやすく伝える工夫や、予習・復習の取り組みを自然に取り入れられるようにしていきたいと思います。

教員名	花輪充／金山和彦／笹井邦彦									
科目名	保育内容演習(表現)《対象:大1児学A》					履修者数	47	回答者数	42	
曜日	土	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて包括的に説明できる。(DP3) (2) 幼児期の表現を生成する過程について理解できる。(DP3・DP7) (3) 幼児期における身体・造形・音楽表現について理解できる。(DP8) (4) 領域「表現」のねらいを踏まえた身体・造形・音楽表現の指導法について理解できる。(DP5・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		41人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	7.3%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.4	F-16	学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.0
B-5	課題	3.2	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	0.0%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.0

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状について：予習や事前学修にかけた時間が1時間以上の学生が26%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が33%であった。また、各回の授業に関連する学習(復習)をした学生が33%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が21%であった。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状について：教員の説明について「わかりやすかった・まあわかりやすかった」と回答した学生が100%。授業内容に興味がわくように「工夫されていた・まあ工夫されていた」と回答した学生が100%。小テストやレポートなど授業内容に関する課題が「毎回またはほぼ毎回あった・ときどきあった」と回答した者が100%。授業内容はシラバスと合致していたかについては「合致していた・ほぼ合致していた」と回答した学生が100%。この授業に対して満足していると回答した学生が100%であった。

・自由記述から読み取れることについて：「何かを作るだけではなく、身体を使って表現したりと様々なもので子どもとの関わり方があることを知りました。・子どもの表現について、遊びの面、音楽の面、造形の面という3つの違った視点で知ることができてよかった。・実践や自分の幼少期を振り返りながら表現について学ぶことができたので、より身についたしもっと学んでみたい。・実技が多く、音楽や身体表現、造形のそれぞれの表現について体験しながら学ぶことができました。

・次年度に向けた課題・その改善案について：本授業は2年次の「幼児と表現」「保育内容『表現』の指導法」に繋がる基礎授業ですので、1年生にとってわかりやすく、保育・幼児教育にいつそう興味関心を深められるような事例を紹介しながら、子どもたちの表現力の発達や保育者の役割について、具体性のある学びの機会を提供していきたいと考えています。

教員名	花輪充／金山和彦／笹井邦彦									
科目名	保育内容演習(表現)《対象:大1児学B》					履修者数	47	回答者数	46	
曜日	土	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて包括的に説明できる。(DP3) (2) 幼児期の表現を生成する過程について理解できる。(DP3・DP7) (3) 幼児期における身体・造形・音楽表現について理解できる。(DP8) (4) 領域「表現」のねらいを踏まえた身体・造形・音楽表現の指導法について理解できる。(DP5・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.6	実施形態(すべて対面)	44人	実施形態(対面に一部メディア)	2人
A-2	復習をしたか	1.9	D-9 担当教員に質問したか	15.9%	F-15 担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10 学生の参加	3.3	F-16 学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)	0人	F-17 指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.2	E-11 指示の明確さ	-	F-18 学修時間	3.5
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12 学修時間	-	F-19 教員への発言機会	50.0%
B-7	満足度	3.7	E-13 教員への発言機会	-	F-20 学生どうしの意見交換	50.0%
C-8	達成度	3.6	E-14 学生どうしの意見交換	-	F-21 学修の効果	4.0

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状について: 予習や事前学修にかけた時間が1時間以上の学生が11%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が50%であった。また、各回の授業に関連する学習(復習)をした学生が17%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が30%であった。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状について: 教員の説明について「わかりやすかった・まあわかりやすかった」と回答した学生が100%。授業内容に興味がわくように「工夫されていた・まあ工夫されていた」と回答した学生が100%。小テストやレポートなど授業内容に関する課題が「毎回またはほぼ毎回あった・ときどきあった」と回答した者が94%。授業内容はシラバスと合致していたかについては「合致していた・ほぼ合致していた」と回答した学生が100%。この授業に対して満足していると回答した学生が100%であった。

・自由記述から読み取れることについて: ・3つの分野において子どもの視点に立って考えた時に興味関心を誘うような内容だった。・笹井先生の音楽の表現の授業が面白かった。体を使って表現する授業が多く楽しかった。・音楽、芸術、表現に関して実演を交えながら、子どもの表現に対して理解を深めることができた。・音楽・造形・表現の3つの視点から子どもと関わる際に何がポイントになるのか。保育者の役割はなんなのかを理解し実践に繋がられる援助を学びました。

・次年度に向けた課題・その改善案について: 本授業は2年次の「幼児と表現」「保育内容『表現』の指導法」に繋がる基礎授業ですので、1年生にとってわかりやすく、保育・幼児教育にいつそう興味関心を深められるような事例を紹介しながら、子どもたちの表現力の発達や保育者の役割について、具体性のある学びの機会を提供していきたいと考えています。

教員名	花輪充／金山和彦／笹井邦彦									
科目名	保育内容演習(表現)《対象:大1児学C》					履修者数	45	回答者数	44	
曜日	土	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて包括的に説明できる。(DP3) (2) 幼児期の表現を生成する過程について理解できる。(DP3・DP7) (3) 幼児期における身体・造形・音楽表現について理解できる。(DP8) (4) 領域「表現」のねらいを踏まえた身体・造形・音楽表現の指導法について理解できる。(DP5・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		43人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	7.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.2	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状について:予習や事前学修にかけた時間が1時間以上の学生が25%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が36%であった。また、各回の授業に関連する学習(復習)をした学生が17%であったのに対して、ほとんどしなかった学生が32%であった。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状について:教員の説明について「わかりやすかった・まあわかりやすかった」と回答した学生が98%。授業内容に興味がわくように「工夫されていた・まあ工夫されていた」と回答した学生が98%。小テストやレポートなど授業内容に関する課題が「毎回またはほぼ毎回あった・ときどきあった」と回答した者が100%。授業内容はシラバスと合致していたかについては「合致していた・ほぼ合致していた」と回答した学生が100%。この授業に対して満足していると回答した学生が98%であった。

・自由記述から読み取れることについて:・表現を3つのテーマに大きく分けて、授業を行って、子どもの発想力・想像力を発達させるだけでなく、可能性を広がることにも繋がると感じた。全て身体を使ったものだったので表現と言うものは身体ありきのものだと思った。・笹井先生の授業で音楽に合わせてダンスを作り発表したことがとても印象に残っています。・保育者になる上で、子どもと一緒に自己表現できる機会が必要だと思った。・表現の授業では、先生の経験談をもとに表現の事について学べたのがよかった。

・次年度に向けた課題・その改善案について:本授業は2年次の「幼児と表現」「保育内容『表現』の指導法」に繋がる基礎授業ですので、1年生にとってわかりやすく、保育・幼児教育にいつそう興味関心を深められるような事例を紹介しながら、子どもたちの表現力の発達や保育者の役割について、具体性のある学びの機会を提供していきたいと考えています。

教員名	前田和代									
科目名	保育の計画と評価《対象:大1児学AB前》					履修者数	72	回答者数	67	
曜日	火	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

(1)乳幼児の発達を踏まえた保育の計画の全体構造を理解できる。DP5 (2)保育の計画を捉えた指導計画案作成の構想ができる。DP3 DP5 DP6 (3)保育の評価、記録の意味が理解できる。DP7

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.1	実施形態(すべて対面)		13人	実施形態(対面に一部メディア)		51人
A-2	復習をしたか	3.3	D-9	担当教員に質問したか	38.5%	F-15	担当教員に質問したか	19.6%
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	3.5
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		3人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	3.7	F-18	学修時間	3.5
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	2.7	F-19	教員への発言機会	17.6%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	49.0%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	33.3%	F-21	学修の効果	3.6

教員コメント

授業評価ありがとうございました。特に、初めての指導計画案の構想や作成にはたくさんの時間を使い苦労されたことが伝わりました。事前事後学修もしっかり取り組んでいたこともわかりました。一方、初めての指導計画案を完成させ達成感も味わったことも伝わりました。今後、実習や保育者になったときは子どもの姿を捉えて計画を構想するおもしろさをぜひ実感してください。計画の構想が保育者の意図にもつながります。

また、授業内での多くのグループワークは皆さんは大変積極的に参加されており、学びへの意欲を感じました。この経験を生かして、今後も仲間と学びを共有して皆さんの成長につなげてください。

課題の確認方法、提示、授業内のパワポや授業資料の扱い、試験問題などについては、みなさからいただいた具体的なご意見を参考に改善し、より良い授業になるよう努めてまいります。

教員名	前田和代									
科目名	保育の計画と評価《対象:大1児学B後C》					履修者数	71	回答者数	67	
曜日	金	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

(1)乳幼児の発達を踏まえた保育の計画の全体構造を理解できる。DP5 (2)保育の計画を捉えた指導計画案作成の構想ができる。DP3 DP5 DP6 (3)保育の評価、記録の意味が理解できる。DP7

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.8	実施形態(すべて対面)		25人	実施形態(対面に一部メディア)		38人
A-2	復習をしたか	2.8	D-9	担当教員に質問したか	12.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	3.5
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		4人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	3.6	E-11	指示の明確さ	3.8	F-18	学修時間	3.2
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	3.3	F-19	教員への発言機会	10.5%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	50.0%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	75.0%	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

授業評価ありがとうございました。特に、初めての指導計画案の構想や作成にはたくさんの時間を使い苦労されたことが伝わりました。事前事後学修もしっかり取り組んでいたこともわかりました。一方、初めての指導計画案を完成させ達成感も味わったことも伝わりました。今後、実習や保育者になったときは子どもの姿を捉えて計画を構想するおもしろさをぜひ実感してください。計画の構想が保育者の意図にもつながります。

また、授業内での多くのグループワークは皆さんは大変積極的に参加されており、学びへの意欲を感じました。この経験を生かして、今後も仲間と学びを共有して皆さんの成長につなげてください。

課題の確認方法、提示、授業内のパワポや授業資料の扱い、試験問題などについては、みなさからいただいた具体的なご意見を参考に改善し、より良い授業になるよう努めてまいります。

教員名	高野貴子									
科目名	子どもの栄養<対象:大2児学A>						履修者数	42	回答者数	34
曜日	木	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)乳幼児の成長や発達を栄養の面から評価できる。(DP1) (2)子どもの良好な発育を考えた食生活のあり方を述べる
ことができる。(DP2) (3)子どもの健康や疾病(病気)と、一人ひとりの成長と発達に配慮した支援ができる。(DP3) (4)子
どもの事故や疾病を予防し、その対処ができる。(DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.1	実施形態(すべて対面)		0人	実施形態(対面に一部メディア)		32人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	—	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	—	F-16	学生の参加	2.4
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)		2人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	2.8
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	3.1%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	50.0%	F-20	学生どうしの意見交換	15.6%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	50.0%	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

将来役に立つことを学べてよかったという記述が多く、理解が深まったことが読み取れました。
分かりやすさを心がけて授業をしたことが伝わって良かったです。
今後も研鑽を続けてほしいです。

教員名	高野貴子									
科目名	子どもの栄養<対象:大2児学B>						履修者数	42	回答者数	41
曜日	木	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)乳幼児の成長や発達を栄養の面から評価できる。(DP1) (2)子どもの良好な発育を考えた食生活のあり方を述べる
ことができる。(DP2) (3)子どもの健康や疾病(病気)と、一人ひとりの成長と発達に配慮した支援ができる。(DP3) (4)子
どもの事故や疾病を予防し、その対処ができる。(DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		0人	実施形態(対面に一部メディア)		40人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	—	F-15	担当教員に質問したか	5.0%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	—	F-16	学生の参加	2.3
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.3
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	5.0%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	2.5%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.8

教員コメント

将来役に立つことを学べてよかったという記述が多く、理解が深まったことが読み取れました。
対面とメディア授業との組み合わせが良かったようで、配信資料を工夫した甲斐がありました。
今後も研鑽を続けてほしいです。

教員名	高野貴子									
科目名	子どもの栄養<対象:大2児学C>						履修者数	41	回答者数	38
曜日	木	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)乳幼児の成長や発達を栄養の面から評価できる。(DP1) (2)子どもの良好な発育を考えた食生活のあり方を述べる
ことができる。(DP2) (3)子どもの健康や疾病(病気)と、一人ひとりの成長と発達に配慮した支援ができる。(DP3) (4)子
どもの事故や疾病を予防し、その対処ができる。(DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		1人	実施形態(対面に一部メディア)		37人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	2.0	F-16	学生の参加	2.0
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	3.6	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.9
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	2.7%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	2.7%
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

将来役に立つことを学べてよかったという記述が多く、理解が深まったことが読み取れました。
対面とメディア授業の組み合わせが効果があったようです。
今後も研鑽を続けてほしいです。

教員名	荒井庸子										
科目名	障がい児保育演習《対象:大2児学A》					履修者数	42	回答者数	26		
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科				
授業形態	演習			必修／選択							

到達目標

1. 障がい児保育の歴史と現状を理解した上で、今日的課題を述べることができる。(DP2・DP4) 2. 障がいの基礎知識を学び、発達と障がいの視点から子どもを理解することができる。(DP2) 3. 学習した成果をもとに、保育実践を展開する上での工夫点・留意点を指摘することができる。(DP5・DP6) 4. 家族支援や関係機関との連携について理解し、実際の保育場面と関連づけて考えることができる。(DP4・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.5	実施形態(すべて対面)		5人	実施形態(対面に一部メディア)		21人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	20.0%	F-15	担当教員に質問したか	14.3%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	3.7
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.1
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	4.8%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	33.3%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.9

教員コメント

＊「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)

学生の授業到達目標に対する達成度は3.4以上の数値がみられた。また、予習・復習を行った時間は「1時間以内」「1時間～2時間」とする学生が割合として高かった。「ほとんどしなかった」とする学生も若干名みられた。本授業では、次回の授業内容に関する事前課題や授業後の小テストを準備することで予習・復習を促していたが、学生が積極的に取り組めるような予習・復習のあり方を検討していく必要がある。

＊「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

教員の授業に関しては、全て3.8以上の評価であった。実践例や視覚教材を用いた授業を意識しており、教員の説明や授業内容の工夫についても一定の評価を得ることはできた。説明の分かりやすさや興味のわくような工夫など今年度の授業で意識した点を、今後も継続しつつ更に学生のニーズに応じた授業を心がけたい。

＊自由記述から読み取れること

実際の実践例を直接学生に伝えることで、障がいのある子どもへの関心や理解が広がったとの意見がみられた。また、学生同士で意見交換する機会は、子どもへの援助や保育の展開を思考する力にもつながると考える。今後も対話を通して深い学びが得られるよう、学生の声をもとに授業展開を工夫していきたい。

＊次年度に向けた課題・その改善案

各回の授業で伝える内容が多くなったり授業スピードが速くなりすぎないように、授業内容の焦点化や課題の整理・時間配分等を再検討していきたい。グループワークにおいて、学生が考えを伝え、相手の意見を聴く機会がより有意義なものになるよう工夫することが課題である。また、個々へのフィードバックの機会を充実させることも意識したい。さらに、興味を引き出す授業教材の再検討と同時に、学生が自ら考えを深めて達成感を得られるような授業展開を再考していくことが課題である。

教員名	荒井庸子									
科目名	障がい児保育演習《対象:大2児学B》						履修者数	41	回答者数	30
曜日	木	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 障がい児保育の歴史と現状を理解した上で、今日的課題を述べることができる。(DP2・DP4) 2. 障がいの基礎知識を学び、発達と障がいの視点から子どもを理解することができる。(DP2) 3. 学習した成果をもとに、保育実践を展開する上での工夫点・留意点を指摘することができる。(DP5・DP6) 4. 家族支援や関係機関との連携について理解し、実際の保育場面と関連づけて考えることができる。(DP4・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.6	実施形態(すべて対面)		5人	実施形態(対面に一部メディア)		24人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	20.0%	F-15	担当教員に質問したか	8.3%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	3.6
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.1
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	4.2%
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	12.5%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.8

教員コメント

＊「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)

学生の授業到達目標に対する達成度は3.7以上の数値がみられた。また、予習・復習を行った時間は「1時間以内」「1時間～2時間」とする学生が割合として高かった。「ほとんどしなかった」とする学生も若干名みられた。本授業では、次回の授業内容に関する事前課題や授業後の小テストを準備することで予習・復習を促していたが、学生が積極的に取り組めるような予習・復習のあり方を検討していく必要がある。

＊「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

教員の授業に関しては、全て3.9以上の評価であった。実践例や視覚教材を用いた授業を意識しており、教員の説明や授業内容の工夫についても一定の評価を得ることはできた。説明の分かりやすさや興味のわくような工夫など今年度の授業で意識した点を、今後も継続しつつ更に学生のニーズに応じた授業を心がけたい。

＊自由記述から読み取れること

実際の実践例を直接学生に伝えることで、障がいのある子どもへの関心や理解が広がったとの意見がみられた。また、学生同士で意見交換する機会は、子どもへの援助や保育の展開を思考する力にもつながると考える。今後も対話を通して深い学びが得られるよう、学生の声をもとに授業展開を工夫していきたい。

＊次年度に向けた課題・その改善案

各回の授業で伝える内容が多くなったり授業スピードが速くなりすぎないように、授業内容の焦点化や課題の整理・時間配分等を再検討していきたい。グループワークにおいて、学生が考えを伝え、相手の意見を聴く機会がより有意義なものになるよう工夫することが課題である。また、個々へのフィードバックの機会を充実させることも意識したい。さらに、興味を引き出す授業教材の再検討と同時に、学生が自ら考えを深めて達成感を得られるような授業展開を再考していくことが課題である。

教員名	荒井庸子										
科目名	障がい児保育演習《対象:大2児学C》					履修者数	40	回答者数	29		
曜日	金	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科				
授業形態	演習			必修／選択							

到達目標

1. 障がい児保育の歴史と現状を理解した上で、今日的課題を述べることができる。(DP2・DP4) 2. 障がいの基礎知識を学び、発達と障がいの視点から子どもを理解することができる。(DP2) 3. 学習した成果をもとに、保育実践を展開する上での工夫点・留意点を指摘することができる。(DP5・DP6) 4. 家族支援や関係機関との連携について理解し、実際の保育場面と関連づけて考えることができる。(DP4・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.6	実施形態(すべて対面)		10人	実施形態(対面に一部メディア)		19人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	10.5%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	3.7
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.9
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	26.3%
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.6

教員コメント

＊「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)

学生の授業到達目標に対する達成度は3.4以上の数値がみられた。予習・復習を行った時間は「1時間～2時間」「1時間以内」とする学生が割合として高かった。予習は「ほとんどしなかった」とする回答も若干名みられ、学生が積極的に取り組めるよう事前事後学修の内容を検討していきたい。また、到達目標の達成度が低い学生もあり、授業の改善を試みたい。

＊「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

教員の授業に関しては、全て3.5以上の評価であった。実践例や視覚教材を用いた授業を意識しており、教員の説明や授業内容の工夫についても一定の評価を得ることはできた。一方「説明の分かりやすさ」「興味がわく工夫」「満足度」等で低い評価もあり、評価を得た点は継続しつつ学生のニーズに応じた授業を心がけたい。

＊自由記述から読み取れること

実際の実践例を直接学生に伝えることで、障がいのある子どもへの関心や理解が広がったとの意見がみられた。また、学生同士で意見交換する機会は、子どもへの援助や保育の展開を思考する力にもつながると考える。同時に、授業の時間配分や課題量、スマートフォン使用等のルールに関するコメントもあり、自由記述の声を今後の授業改善につなげていきたい。

＊次年度に向けた課題・その改善案

各回の授業で伝える内容が多くなったり授業スピードが速くなりすぎないように、授業内容の焦点化や課題の整理・時間配分等を再検討していきたい。グループワークにおいて、学生が考えを伝え、相手の意見を聴く機会がより有意義なものになるよう工夫することが課題である。また、個々へのフィードバックの機会を充実させることも意識したい。さらに、興味を引き出す授業教材の再検討と同時に、学生が自ら考えを深めて達成感を得られるような授業展開を再考していくことが課題である。

教員名	戸田雅美									
科目名	児童学研究法《対象:大2児学A》						履修者数	41	回答者数	34
曜日	月	時限	4限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・児童学の5つの領域を理解した上で、児童学にかかわる「問い」をたてることができる。(DP1) ・児童学における研究の基本的な形式を理解し説明できる。(DP1) ・児童学における研究方法のいくつかについて理解し、説明することができる。(DP1) ・児童学における研究の成果が質の高い保育実践に寄与することを理解し、実践上の課題と結び付けて考えることができる。(DP1, DP3) ・子どもの健やかな育ちを保障し、促すための技法のいくつかを発揮することに、児童学の研究が寄与していることを理解し、両者を結び付けて簡単な論文形式のレポートをまとめることができる。(DP1, DP3) ・児童学に関連する著書と雑誌論文の文献検索ができる。(DP1) ・児童学の領域において、雑誌論文を読むことで、その内容についての自分の考えをまとめるとともに、論文の形式について説明することができる。(DP1) ・児童学の著書や論文を活用し、引用の仕方等を踏まえて、論文の形式に則った簡単なレポートをまとめることができる。(DP1)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.9	実施形態(すべて対面)		14人	実施形態(対面に一部メディア)		19人
A-2	復習をしたか	3.1	D-9	担当教員に質問したか	7.1%	F-15	担当教員に質問したか	15.8%
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	3.8
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.6
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.1
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	15.8%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	21.1%
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.6

教員コメント

これは、論文を書くために基礎の全てを学ぶ重要な授業です。文献の調べ方、論文の読み方、引用や論文の構成等、大学院の基礎にもなるような授業です。だから、教員が教えたこと理解するだけでは成立しません。一人一人が主体的に深く考えて書きあげることが求められます。大学生らしく、厳しい授業ですが、みなさん、本当に積極性とチーム力を発揮し頑張りました。自由記述に「グループワークや事前学習を通して、いろいろな考え方を身につけることができた。大変な授業でしたのに、クラスの仲間との仲も深めることができる良いきっかけになった」、「初めて論文を沢山読み、それをまとめたり、自分で作成するという経験をして、大変だったけれど、自分が気になる分野について深く知ることが出来て良かった」、「友だちとの意見交換が多く自分にはなかった視点を知ることができ有意義な時間となった。自分が発表を行っても、拍手があったり丁寧なコメントをつけて下さったりして発表しやすい環境が整っていた」という意見があり、読んでいて感動してしまいました。素晴らしい努力でした。最終課題の書き方は繰り返し確認できるように、メディア授業としましたが、良かったという意見も多く、上手に活用してくれました。学生さんが積極的に関与してくれてこそ充実感や達成感につながると実感しました。もちろん、大変だ、指示がわからない等の意見もありました。毎回必ず、グループで疑問点を確認し質問をできる機会を作っていたので、ぜひ、初歩的な質問でも積極的に質問をするということで、難関は学生全員と教員が共に乗り越えていきましょう。

教員名	戸田雅美								
科目名	児童学研究法《対象:大2児学B》					履修者数	43	回答者数	40
曜日	木	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

・児童学の5つの領域を理解した上で、児童学にかかわる「問い」をたてることができる。(DP1) ・児童学における研究の基本的な形式を理解し説明できる。(DP1) ・児童学における研究方法のいくつかについて理解し、説明することができる。(DP1) ・児童学における研究の成果が質の高い保育実践に寄与することを理解し、実践上の課題と結び付けて考えることができる。(DP1, DP3) ・子どもの健やかな育ちを保障し、促すための技法のいくつかを発揮することに、児童学の研究が寄与していることを理解し、両者を結び付けて簡単な論文形式のレポートをまとめることができる。(DP1, DP3) ・児童学に関連する著書と雑誌論文の文献検索ができる。(DP1) ・児童学の領域において、雑誌論文を読むことで、その内容についての自分の考えをまとめるとともに、論文の形式について説明することができる。(DP1) ・児童学の著書や論文を活用し、引用の仕方等を踏まえて、論文の形式に則った簡単なレポートをまとめることができる。(DP1)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.2	実施形態(すべて対面)		10人	実施形態(対面に一部メディア)		28人
A-2	復習をしたか	3.3	D-9	担当教員に質問したか	30.0%	F-15	担当教員に質問したか	21.4%
B-3	わかりやすさ	3.3	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	3.7
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		2人	F-17	指示の明確さ	3.6
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.3
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	21.4%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	28.6%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.6

教員コメント

これは、論文を書くために基礎の全てを学ぶ重要な授業です。文献の調べ方、論文の読み方、引用や論文の構成等、大学院の基礎にもなるような授業です。だから、教員が教えたこと理解するだけでは成立しません。一人一人が主体的に深く考えて書きあげることが求められます。大学生らしく、厳しい授業ですが、みなさん、本当に積極性とチーム力を発揮し頑張りました。自由記述に「グループワークで様々な人の意見を聞き、たくさんの視点から得ることが出来たり、自分も参考になるようなものが多くとても面白かったです」、「最終課題の取り組みは大変だったが、自分の興味のある分野についてさまざまな文献から学びを深めたり、グループワークを通して他の領域の研究についても知ることができ、充実した授業だった」、「初めて論文を沢山読み、それをまとめたり、自分で作成するという経験をして、大変だったけれど、自分が気になる分野について深く知ることが出来て良かった」という意見があり、読んでいて感動してしまいました。特に、B組の意見交換は、深いものになることが多く、私も圧倒されながら、わくわくドキドキの授業ができました。みなさんの考えの深さと素晴らしい努力心から拍手を贈ります。最終課題の書き方は繰り返し確認できるように、メディア授業としましたが、何度も確認できて良かったという意見も多く、みなさんが、上手に活用してくれました。学生さんが積極的に関与してくれてこそ充実感や達成感につながるのが授業だと改めて実感しました。一方で、パワーポイント資料を授業後すぐにUPしてほしかったという意見もあり、私としても、今後気を付けます。でも、それだけ、復習しようとする学生さんが多かったと思うと素晴らしいと思いました。今後も、重要かつ大変な授業や卒業研究などが待っていますが、これを自信にして、大学での学びを社会人になったときにも生かしていきたいと思います。

教員名	戸田雅美									
科目名	児童学研究法《対象:大2児学C》						履修者数	40	回答者数	37
曜日	金	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・児童学の5つの領域を理解した上で、児童学にかかわる「問い」をたてることができる。(DP1) ・児童学における研究の基本的な形式を理解し説明できる。(DP1) ・児童学における研究方法のいくつかについて理解し、説明することができる。(DP1) ・児童学における研究の成果が質の高い保育実践に寄与することを理解し、実践上の課題と結び付けて考えることができる。(DP1, DP3) ・子どもの健やかな育ちを保障し、促すための技法のいくつかを発揮することに、児童学の研究が寄与していることを理解し、両者を結び付けて簡単な論文形式のレポートをまとめることができる。(DP1, DP3) ・児童学に関連する著書と雑誌論文の文献検索ができる。(DP1) ・児童学の領域において、雑誌論文を読むことで、その内容についての自分の考えをまとめるとともに、論文の形式について説明することができる。(DP1) ・児童学の著書や論文を活用し、引用の仕方等を踏まえて、論文の形式に則った簡単なレポートをまとめることができる。(DP1)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.8	実施形態(すべて対面)		20人	実施形態(対面に一部メディア)		16人
A-2	復習をしたか	2.9	D-9	担当教員に質問したか	15.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.0	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	3.9
B-4	興味への工夫	3.2	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.3
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.1
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.4	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	25.0%
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.3

教員コメント

これは、論文を書くために基礎の全てを学ぶ重要な授業です。文献の調べ方、論文の読み方、引用や論文の構成等、大学院の基礎にもなるような授業です。だから、教員が教えたこと理解するだけでは成立しません。一人一人が主体的に深く考えて書きあげることが求められます。大学生らしく、厳しい授業ですが、みなさん、本当に積極性とチーム力を発揮し頑張りました。自由記述に「レポート5枚は今まで書いたことがなかったので、とても大変でしたが、自分の調べたいこと、やってみたいことを明確にすることができました。」「好きなことについて深く考えるのが好きなので、テーマが確定してから自分の好きなことを調べられて楽しかった。」「卒論に向けての予行練習のような授業で、いい経験になりました。この授業をいかしていけたらよいなと思いました」友だちとの意見交換が多く自分にはなかった視点を知ることができ有意義な時間となった」という意見があり、読んでいて感動してしまいました。素晴らしい努力でした。最終課題の書き方は繰り返し確認できるように、メディア授業としましたが、良かったという意見も多く、上手に活用してくれました。学生さんが積極的に関与してくれてこそ充実感や達成感につながると実感しました。「わかりやすい説明」という意見がある一方で、「課題が多い」、「難しかった」という意見もありました。この授業は、聞けばできる授業ではないため、学生さんの調べ、考え、書く努力が必要です。私も、より分かりやすい授業を心がけます。でも、わからない点は、毎回必ず、グループで疑問点を確認し質問をできる機会を作っていたので、ぜひ、初歩的な質問でも積極的に質問をして下さい。今後とも難しい課題は、学生同士、教員も一緒に乗り越えていきましょう。

教員名	西海聡子／笹井邦彦／山本優子／古川和代／本山美和／湯原千史									
科目名	保育内容の理解と方法B(音楽)《対象:大2児学A前B前C前》					履修者数	61	回答者数	51	
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 領域「表現」への理解を深め、乳幼児期の音楽表現について、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』『幼保連携型認定子ども園・保育要領』に沿った考え方ができる。(DP6) 2. 子どもの生活と遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養うための環境構成や保育において子どもの表現を育てるために必要な知識と技能を身につける。(DP3・DP5) 3. 領域「表現」のねらいをふまえ、音楽表現の指導法について理解し、音楽遊びを構想・実践できる。(DP5・DP6・DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		51人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	21.6%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.3	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

この授業を通して、皆さんが多くのことを学び、成長したことをとても嬉しく思います。あそび歌の実践を中心に、子どもたちの前での表現や伝え方を考えながら取り組んできました。アンケートからも、多くの学びを得たことや、実際の現場で活かせる技術が身についたことが伝わり、充実した時間だったと感じています。

最初は人前であそび歌を披露することに緊張した方もいたかもしれませんが、回を重ねるごとに表情が柔らかくなり、声の出し方や動きの工夫が見られるようになりました。最終発表では、皆さんが堂々とあそび歌を披露し、子どもたちに伝える表現ができるようになったことが印象的でした。努力の成果を実感できたのではないのでしょうか。

また、授業では創作あそび歌にも挑戦しました。初めての試みに難しさを感じた方もいたかもしれませんが、友達とアイディアを出し合いながら楽しく取り組めたことは、今後の実践に大いに役立つでしょう。既存の曲を覚えるだけでなく、自分なりのアレンジを加えることで、子どもたちに伝わるあそび歌を作る力も養えたと思います。

さらに、「導入・展開・まとめ」の流れを意識する大切さも学びました。あそび歌は、子どもの興味関心を促すための工夫が重要です。どのように導入するか、どんな展開にすれば楽しめるか、どのタイミングでまとめるかを考えながら実践することで、効果的な進め方を身につけられたのではないのでしょうか。

「楽しかった」「充実していた」という感想も多く、皆さんと一緒に学べたことを嬉しく思います。人前で歌うことが苦手だった方も自信を持って発表できるようになり、積極的に挑戦する姿勢が素晴らしかったです。この授業で得た経験は、実習や現場で必ず役立ちます。子どもたちが楽しめるあそび歌を積極的に取り入れ、自分なりの工夫を加えながら、魅力的な保育者を目指してください。皆さんの今後の活躍を心から応援しています。

教員名	西海聡子／笹井邦彦／山本優子／古川和代／本山美和／湯原千史								
科目名	保育内容の理解と方法B(音楽)《対象:大2児学A後B後C後》					履修者数	60	回答者数	55
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

1. 領域「表現」への理解を深め、乳幼児期の音楽表現について、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』『幼保連携型認定子ども園・保育要領』に沿った考え方ができる。(DP6) 2. 子どもの生活と遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養うための環境構成や保育において子どもの表現を育てるために必要な知識と技能を身につける。(DP3・DP5) 3. 領域「表現」のねらいをふまえ、音楽表現の指導法について理解し、音楽遊びを構想・実践できる。(DP5・DP6・DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.7	実施形態(すべて対面)		55人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	32.7%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.4	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

この授業を通して、多くのあそび歌に触れ、実践を重ねながら成長していく姿が印象的でした。最初は人前での発表に緊張したり、恥ずかしさを感じたりすることもありましたが、回を重ねるごとに表情や声の出し方、動きに工夫が見られ、堂々と発表できるようになりました。

実際の子どもの姿をイメージしながら、あそび歌をどう伝えれば理解しやすく、楽しんでもらえるかを考えることは、今後の実習や現場での指導に役立つでしょう。また、あそび歌を覚えるだけでなく、アレンジ方法や「導入・展開・まとめ」の流れを学んだことで、より実践的な力が養われたと感じています。

創作あそび歌にも挑戦しましたね。子どもたちが分かりやすく、楽しめる表現を試行錯誤することで、アレンジ力も向上したと思います。導入から展開、まとめまでをスムーズに進められるようになった方も多く、努力の成果が表れていました。授業を通じて、自分が楽しみながら取り組むことの大切さや、子どもたちの反応を見て柔軟に対応する力も養われたのではないのでしょうか。

授業では、毎回のアレンジや展開を考え、曲を覚えることに苦労したという声もありましたが、実践的な力がついたと感じる方も多かったようです。創作の課題も難しく感じたかもしれませんが、友達と一緒に考えることで、自分の引き出しを増やす機会になったと思います。実際に子どもたちの前であそび歌をする際には、単にあそび歌を披露するだけでなく、子どもたちが興味を持ち、参加できる工夫が求められます。この授業で学んだことを活かし、子どもたちの視点に立った指導を実践してください。

あそび歌を通じて、自分が楽しむことの大切さを実感した方も多かったと思います。人前での発表に自信がなかった方も、少しずつ積極的に取り組めるようになり、その姿がとても印象的でした。この授業で得た経験を大切に、今後の実習や現場でも生かしてください。

教員名	金山和彦										
科目名	保育の造形実技A《対象:大2児学AB前》					履修者数	52	回答者数	44		
曜日	土	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科				
授業形態	演習			必修／選択							

到達目標

本演習では以下の目標を設定し、受講生の習熟度を高める。 ①素材加工の安全な技法を習得する。(DP3)

②造形表現の楽しさに気づき、子どもの表現欲求を深く受容した上で活動を構想することができる。(DP2)(DP5)

③保育実践現場における多様な表現のあり方を受容し、連携活動を意欲的にこなうことができる。(DP8)(DP9)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.4	実施形態(すべて対面)		44人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.4	D-9	担当教員に質問したか	4.5%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.0	D-10	学生の参加	3.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	1.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.4	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

授業内容に関する満足度について7割の学生がおおよそポジティブな回答をしていることについては今後も継続していきたいです。予習復習については、教材準備、振り返り、作品図録作成の時間をあてはめてほしいです。

「この色は使ってはいけないと言われたり、製作するにあたって作らない方がいいものの説明をされたり、授業全体を通して否定的に聞こえてしまう説明が多かったように感じ少し悲しかったです。」→気をつけたいと思います。これまでの実習や園研修から、保育実践現場の生の声を届けています。加えて、造形原理、色彩原理を基本とした授業でありますので、ネガティブな事例もあげたのですが、改善します。「授業が思い付きかのように進んでいく」→毎回必ず、シラバスに沿って素材・教材を用意しています。この点は、教員側の演出もありますが、十分に気をつけたいと思います。

教員名	金山和彦									
科目名	保育の造形実技A《対象:大2児学B後C》						履修者数	33	回答者数	26
曜日	土	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

本演習では以下の目標を設定し、受講生の習熟度を高める。 ①素材加工の安全な技法を習得する。(DP3)

②造形表現の楽しさに気づき、子どもの表現欲求を深く受容した上で活動を構想することができる。(DP2)(DP5)

③保育実践現場における多様な表現のあり方を受容し、連携活動を意欲的にこなうことができる。(DP8)(DP9)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.7	実施形態(すべて対面)		26人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	3.8%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.3	D-10	学生の参加	3.2	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.2	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

授業内容に関する満足度について9割の学生がおおよそポジティブな回答をしていることについては今後も継続していきたいです。予習復習については、教材準備、振り返り、作品図録作成の時間をあてはめてほしいです。

「見通しを立てて製作に取り組むことができるよう、見本や工程を説明したプリントをいただくと完成図を想像しながら作ることができるので嬉しいです。」→わかりました。この点について、保育活動では説明図に沿った完成作品を求めないことから、配布をしていませんでした。口頭、OHCをもちいて視覚的にわかりやすくしていきます。これはとても大切な観点です。このことを共有することで「指導」と「遊び」について、保育で大切にしたい観点が浮き彫りになります。

教員名	戸田雅美									
科目名	保育(遊び)指導論≪対象:大2児学A≫						履修者数	40	回答者数	38
曜日	月	時限	4限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 人間にとっての「遊び」についての基礎的知識を身に付ける。(DP3) (2) 乳幼児における「遊び」の教育的意義や重要性について理解し、説明できる。(DP7) (3) 幼稚園教育要領の全体構造における「遊び」の位置づけについて理解し、説明できる。(DP5・DP7) (4) 「遊び」を通しての総合的な指導の環境構成、教材の活用等についての指導方法や指導上の留意点について理解し、説明できる。(DP6) (5) 幼児の「遊び」の姿から「遊び」を通して学ぶ幼児を深く理解し、その深い幼児理解が具体的学びへの評価となることを理解した上で、幼児理解と評価を行うことができる。(DP5・DP6) (6) 「遊び」を通じた保育を、具体的な幼児の姿に即した指導の案を構想しそれを説明することができる。(DP5・DP6) (7) 「遊び」を通じた指導の指導案の書き方について理解し、活用できる。(DP3・DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		18人	実施形態(対面に一部メディア)		19人
A-2	復習をしたか	2.9	D-9	担当教員に質問したか	16.7%	F-15	担当教員に質問したか	15.8%
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	3.9
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.6
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	10.5%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	36.8%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

これまで保育における「遊び」の重要性を学んできたが、この授業では、メディア授業の回で、そもそも人間にとって「遊び」とは、子どもにとって「遊び」とはという本質的な問題を考え、他の回は、「遊び」を通しての指導の実際をみなさんが実践する力を付けるために、具体例について「あなたが保育者であったなら」を深く考える授業でした。自由記述では、「メディアでも先生の解説動画がわかりやすく何度も聞いて学べた」、「プリントやスライドの事例事例やエピソードが面白くて興味深いものが多かったので考察したり感想を書くのがとても楽しかった。また、グループで意見を交換も楽しかった」、「授業内の様々な事例から、子どもたちの遊びの充実を促す声かけや、援助について学ぶことが出来た」、「自分たちが思った意見や質問を真摯に聞いてもらっている安心感があった」という回答がありました。私は、学生さんの新たな子どもへの理解に驚き、それを元にした援助の構想に感心することが多い授業でした。まさに、目標を十分に理解して学生さんたち自身で学びを深めてくれたことを高く評価したいと思います。課題が多くて大変という意見もありましたが、それを考えるのは面白く充実していたという意見も結構あったので、今後とも、みなさんが学びを深める面白さを感じられるものへと課題の内容を少しずつ見直したいと思っています。

教員名	戸田雅美									
科目名	保育(遊び)指導論≪対象:大2児学B≫						履修者数	42	回答者数	41
曜日	木	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 人間にとっての「遊び」についての基礎的知識を身に付ける。(DP3) (2) 乳幼児における「遊び」の教育的意義や重要性について理解し、説明できる。(DP7) (3) 幼稚園教育要領の全体構造における「遊び」の位置づけについて理解し、説明できる。(DP5・DP7) (4) 「遊び」を通しての総合的な指導の環境構成、教材の活用等についての指導方法や指導上の留意点について理解し、説明できる。(DP6) (5) 幼児の「遊び」の姿から「遊び」を通して学ぶ幼児を深く理解し、その深い幼児理解が具体的学びへの評価となることを理解した上で、幼児理解と評価を行うことができる。(DP5・DP6) (6) 「遊び」を通じた保育を、具体的な幼児の姿に即した指導の案を構想しそれを説明することができる。(DP5・DP6) (7) 「遊び」を通じた指導の指導案の書き方について理解し、活用できる。(DP3・DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.9	実施形態(すべて対面)		15人	実施形態(対面に一部メディア)		24人
A-2	復習をしたか	3.1	D-9	担当教員に質問したか	20.0%	F-15	担当教員に質問したか	12.5%
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	3.8
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		2人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	3.5	F-18	学修時間	3.3
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	8.3%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	16.7%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	50.0%	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

これまで保育における「遊び」の重要性を学んできましたが、この授業では、メディア授業の回で、そもそも人間にとって「遊び」とは、子どもにとって「遊び」とはという本質的な問題を考え、他の回は、「遊び」を通しての指導の実際をみなさんが実践する力を付けるために、具体例について「あなたが保育者であったなら」を深く考える授業でした。自由記述では、「メディア授業では、自分のタイミングで巻き戻したりしながら見ることができたので理論と子どもの姿を結び付けて考えられてよかった」、「対面授業では、他の学生と意見を交換することで、考えが深まった」、「プリントやスライドの事例事例やエピソードが面白くて興味深く、実際にあった事例を通しての授業はわかりやすく、保育者の必要な援助や遊びの対応について学びを深めることが出来た」、「授業内の様々な事例から、子どもたちの遊びの充実を促す声がけや、援助について学ぶことが出来た」、「事例を通して、保育の中で展開される遊びには保育者のどのような願いや思い、考えが込められているのか、また遊びの中で子どもたちの内面にどのような心の動きがあるのかについて理解を深めることができた」などの回答がありました。実際、B組の学生さんの考えや意見は深く考えられており、私は、学生さんの新たな子どもへの理解に驚き、それを元にした援助の構想に感心することが多かったです。まさに、目標を十分に理解して学生さんたち自身で学びを深めてくれたことを高く評価したいと思います。一方で、課題の文言がわかりにくいことがあったという意見もあったので、今後は、学生のみなさんが学びを深める面白さを感じられるものへと課題の内容をブラッシュアップしたいと思っています。また、最初にパワーポイント資料があればよかった」という意見もあったので、授業内容を考慮しつつ、タイミングよくパワーポイント資料を提示できるようにします。

教員名	戸田雅美									
科目名	保育(遊び)指導論≪対象:大2児学C≫						履修者数	41	回答者数	41
曜日	金	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 人間にとっての「遊び」についての基礎的知識を身に付ける。(DP3) (2) 乳幼児における「遊び」の教育的意義や重要性について理解し、説明できる。(DP7) (3) 幼稚園教育要領の全体構造における「遊び」の位置づけについて理解し、説明できる。(DP5・DP7) (4) 「遊び」を通しての総合的な指導の環境構成、教材の活用等についての指導方法や指導上の留意点について理解し、説明できる。(DP6) (5) 幼児の「遊び」の姿から「遊び」を通して学ぶ幼児を深く理解し、その深い幼児理解が具体的学びへの評価となることを理解した上で、幼児理解と評価を行うことができる。(DP5・DP6) (6) 「遊び」を通じた保育を、具体的な幼児の姿に即した指導の案を構想しそれを説明することができる。(DP5・DP6) (7) 「遊び」を通じた指導の指導案の書き方について理解し、活用できる。(DP3・DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		20人	実施形態(対面に一部メディア)		18人
A-2	復習をしたか	2.8	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	11.1%
B-3	わかりやすさ	3.2	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	3.9
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)		3人	F-17	指示の明確さ	3.3
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	3.7	F-18	学修時間	3.1
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	3.3	F-19	教員への発言機会	11.1%
B-7	満足度	3.3	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	33.3%
C-8	達成度	3.3	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.3

教員コメント

これまで保育における「遊び」の重要性を学んできたが、この授業では、メディア授業の回で、そもそも人間にとって「遊び」とは、子どもにとって「遊び」とはという本質的な問題を考え、他の回は、「遊び」を通しての指導の実際をみなさんが実践する力を付けるために、具体例について「あなたが保育者であったなら」を深く考える授業でした。自由記述では、「メディアは理論的かつ子どもの姿から考えるものだったので、何度も止めて聞いて学べた」、「プリントやスライドの事例実際にあった事例やエピソードが興味深いものが多かったので考察したり感想を書くのがとても楽しかったです。また、グループで意見を交換も楽しかった」、「この授業では、子どもにとって遊びは大切なものだ気づくことが出来た」、「私はこの授業での学びを生かし、遊びを大事にして保育園で働きたい」、「実際にシャボン玉で遊んだことが楽しかったです。授業内の様々な事例から、子どもたちの遊びの充実を促す声かけや、援助について学ぶことが出来た」という回答がありました。私は、学生さんたちの新たな子どもへの理解に驚き、それを元にした援助の構想に感心することが多い授業でした。まさに、目標を十分に理解して学生さんたち自身で学びを深めてくれたことを高く評価したいと思います。課題の文章がわかりにくいという意見が多かったと同時に、考えるのは面白く充実していたという意見もあったので、今後とも、みなさんが学びを深める面白さを感じられるものへと課題の内容をより一層改善したいと思っています。

教員名	榎沢良彦										
科目名	子ども理解と援助≪対象:大2児学A≫					履修者数	40	回答者数	38		
曜日	水	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科				
授業形態	演習			必修／選択							

到達目標

①保育において子どもを理解することの意味と意義を説明できる(DP3) ②子どもの発達と学びを理解するための基本的考え方を説明できる(DP3) ③子ども理解を深めるために必要な保育者の基本的姿勢を説明できる(DP3) ④子どもを理解するための観察と記録の必要性和具体的な方法について説明できる(DP3) ⑤保育において個の育ちと集団の育ちの関係とそれを理解する方法について説明できる(DP2) ⑥一人の子どもについて集団や環境を視野に入れて理解できる(DP2) ⑦保護者の気持ちを理解し支援する方法を説明できる(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		38人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

皆さん、積極的に授業に参加してくれてありがとうございました。授業者の立場としてとてもやりやすかったです。グループでの話し合いもよくできていました。子ども理解は絶対に正しい理解と言えるものはないので、共同で理解を深めるのが大事です。そのために、個人の考えをグループで共有し、グループの考えをクラスで共有するようにしました。それは良い結果に繋がったようですね。また、理解の難しさを実感してくれた人もいました。それも大事なことだと思います。子どもの気持ちを読み取ることの奥深さと難しさを感じてもらえたのであれば、この授業の意味があったと思います。毎回、PowerPointの資料には部分的に修正を加えていますが、あくまでも授業理解の補助として位置づけています。皆さんは、それに自分で考えたことなどを書き加えて、より充実したものにしてくれると良いと思います。オンデマンドでも良いのではないかとこの意見もありますが、オンデマンドは対面授業と同等ないしはそれいじょうの効果がある場合に認められています。この授業では、参加者の表情や反応をリアルに感じること、向き合って行うコミュニケーションを大事にしますので、今後も対面授業を大事にしていきたいと思います。

教員名	榎沢良彦								
科目名	子ども理解と援助≪対象:大2児学B≫					履修者数	42	回答者数	38
曜日	水	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

①保育において子どもを理解することの意味と意義を説明できる(DP3) ②子どもの発達と学びを理解するための基本的考え方を説明できる(DP3) ③子ども理解を深めるために必要な保育者の基本的姿勢を説明できる(DP3) ④子どもを理解するための観察と記録の必要性和具体的な方法について説明できる(DP3) ⑤保育において個の育ちと集団の育ちの関係とそれを理解する方法について説明できる(DP2) ⑥一人の子どもについて集団や環境を視野に入れて理解できる(DP2) ⑦保護者の気持ちを理解し支援する方法を説明できる(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.1	実施形態(すべて対面)		37人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	-

教員コメント

皆さん、積極的に授業に参加してくれてありがとうございました。授業者の立場としてとてもやりやすかったです。グループでの話し合いもよくできていました。子ども理解は絶対に正しい理解と言えるものはないので、共同で理解を深めるのが大事です。そのために、個人の考えをグループで共有し、グループの考えをクラスで共有するようにしました。それは良い結果に繋がったようですね。また、理解の難しさを実感してくれた人もいました。それも大事なことだと思います。子どもの気持ちを読み取ることの奥深さと難しさを感じてもらえたのであれば、この授業の意味があったと思います。毎回、PowerPointの資料には部分的に修正を加えていますが、あくまでも授業理解の補助として位置づけています。PowerPointに多くの情報を書くと、皆さんが書くことに夢中になり私の説明を聞けなくなってしまうます。ですから、PowerPointには要点だけを書いています。皆さんは、教科書を読んで、それにさらに詳しい情報や自分で考えたことなどを書き加えて、より充実したものにしてくれると良いと思います。来年度に向けては、再度内容を確認し、見やすいようにしたいと思います。

課題がわかりにくいものがあるとの意見がありました。そういう場合は遠慮せずに質問してください。小レポートについてであれば、manabaのコレクションで質問してくれば良いです。

レポートの提出期限が短いとの意見もありました。期限を長くするとレポート自体が貯まっていくこととなりますので、長くても1週間が適切と思います。また、小レポートの分量は、皆さんの負担を考えて少なめにしているつもりです。

教員名	榎沢良彦									
科目名	子ども理解と援助≪対象:大2児学C≫						履修者数	40	回答者数	38
曜日	月	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①保育において子どもを理解することの意味と意義を説明できる(DP3) ②子どもの発達と学びを理解するための基本的考え方を説明できる(DP3) ③子ども理解を深めるために必要な保育者の基本的姿勢を説明できる(DP3) ④子どもを理解するための観察と記録の必要性和具体的な方法について説明できる(DP3) ⑤保育において個の育ちと集団の育ちの関係とそれを理解する方法について説明できる(DP2) ⑥一人の子どもについて集団や環境を視野に入れて理解できる(DP2) ⑦保護者の気持ちを理解し支援する方法を説明できる(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.1	実施形態(すべて対面)		37人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.1	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	-

教員コメント

皆さん、積極的に授業に参加してくれたので、授業者の立場としてとてもやりやすかったです。グループでの話し合いもよくできていました。子ども理解は絶対に正しい理解と言えるものはないので、共同で理解を深めることが大事です。そのために、グループで話し合い、グループの考えをクラスで共有するようにしました。そのことの意義は皆さんも感じてくれたようで良かったです。また、理解の難しさを実感してくれた人も何人かいました。それも大事なことだと思います。グループで話し合うことで色々な捉え方ができることと子どもの気持ちを読み取ることの難しさを感じてもらえたのであれば、この授業の意味があったと思います。

PowerPointの資料はあくまでも授業理解の補助として位置づけています。PowerPointに多くの情報を書くと、皆さんが書くことに夢中になり私の説明を聞けなくなってしまうので、ですから、PowerPointには要点だけを書いています。それを参考にして、授業後に教科書を読んで、それにさらに詳しい情報や自分で考えたことなどを書き加えることでより授業内容の理解を深めてくれることを期待しています。そのように事後学修を行ってくれると良いと思います。来年度に向けては、再度PowerPointの内容を確認し、見やすいようにしたいと思います。

質問の意図がわからないときがあるとの意見がありました。そういう時は、授業中ですので、遠慮せずに質問してください。また、小レポートの課題についてであれば、manabaのコレクションで質問してくれば良いです。

教員名	麻田 萌									
科目名	子ども家庭支援論 ≪対象: 大2児学AB前≫						履修者数	63	回答者数	52
曜日	火	時限	4限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

本授業では、以下の4点を目標とする。1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。(DP8) 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。(DP3、DP4) 3. 子育て家庭に対する支援が社会でどのように行われているのか言葉にすることができる。(DP4、DP8) 4. 子育て家庭支援の現状の特徴や課題について、これまでの様相と比較しながら説明できる。(DP3、DP4、DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		7人	実施形態(対面に一部メディア)		44人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	3.5
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	2.9
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	9.1%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	43.2%
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

本アンケートで、学生の皆さん自身が授業の到達目標を、完全ではないまでも「達成できた」と実感してくださっていることが、本年度の形式で実施して良かったと最も感じられた結果でした。みなさんが「子ども家庭支援」をイメージするのに、具体的な体験が想像以上に必要で、有効であることを、自由記述からも痛感しました。途中調べ学習を取り入れ、その負担を懸念していましたが、授業外学習の時間は総じて少なかった評価が多く、安心しました。

自分で知りたい、調べたい内容を学べる、ということが、本当に大事なのだと考えさせられる結果でした。資格取得に関わる必修授業なのでどうしてもこちらからの話しが多くなる点ではありますが、学生のみなさんが吸収しやすい内容にできるよう、形式は踏襲し、話のコンテンツはより見直に感じられる工夫をしていこうと思いました。

教員名	麻田 萌									
科目名	子ども家庭支援論《対象:大2児学B後C》						履修者数	63	回答者数	55
曜日	火	時限	5限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

本授業では、以下の4点を目標とする。1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。(DP8) 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。(DP3、DP4) 3. 子育て家庭に対する支援が社会でどのように行われているのか言葉にすることができる。(DP4、DP8) 4. 子育て家庭支援の現状の特徴や課題について、これまでの様相と比較しながら説明できる。(DP3、DP4、DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		12人	実施形態(対面に一部メディア)		43人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	2.3%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.3	F-16	学生の参加	3.6
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.9
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	4.7%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	37.2%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

本アンケートで、学生の皆さん自身が授業の到達目標を、完全ではないまでも「達成できた」と実感してくださっていることが、本年度の形式で実施して良かったと最も感じられた結果でした。みなさんが「子ども家庭支援」をイメージするのに、具体的な体験が想像以上に必要で、有効であることを、自由記述からも痛感しました。また、どうしても講義主体になってしまう回は、オンデマンドの方が使い勝手が良いことも、よくわかりました。途中調べ学習を取り入れ、その負担を懸念していましたが、授業外学習の時間は総じて少なかった評価が多く、安心しました。

自分で知りたい、調べたい内容を学べる、ということが、本当に大事なのだと考えさせられる結果でした。資格取得に関わる必修授業なのでどうしてもこちらからの話しが多くなる点ではありますが、学生のみなさんが吸収しやすい内容にできるよう、形式は踏襲し、話のコンテンツはより見直に感じられる工夫をしていこうと思いました。

教員名	勝山幸								
科目名	子育て支援《対象:大2児学A》					履修者数	42	回答者数	24
曜日	月	時限	5限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

1. 保育者が行う子育て支援の対象とその必要性を説明できる(DP4) 2. 保育現場で行われる子育て支援を例示し、説明できる(DP3.6) 3. 保護者の多様な背景や考え方に思いを寄せ、子どもの成長を踏まえた保護者への働きかけについて考えることができる(DP3.4) 4. 園内外の様々な他者について知り、どのように連携・協働できるかについて説明できる(DP3.9)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		24人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.9	D-9	担当教員に質問したか	4.2%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.3	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

アンケートへの回答ありがとうございました。

＜授業への取り組み・達成＞

事後課題に1時間程度の復習を兼ねた学習を想定していましたので、概ね所要時間内に終わってくれていたようで良かったです。回答してくれたほぼ全ての方が授業の到達目標を達成できたと感じられたことも良かったです。期末レポートにも、子育て支援に関して私が伝えたかった核心を捉えた内容が多くあり、非常に嬉しかったです。

課題に効率よく取り組むことは就職した際にも役に立つと思います。今後も与えられた課題に対して、効率よく質の良いものに仕上げる工夫をしてみてください。

＜教員の授業の仕方について＞

授業内容に興味がわくような工夫についての点数がやや低かった点は、今後の授業の参考にします。自由記述を拝見すると、グループでの企画案の作成やディスカッションが楽しかったとの意見が多かったので、次年度はもっとグループワークを増やして、皆さんがより主体的に参加できるような工夫を増やしたいと思います。

＜次年度に向けた課題とその改善案＞

皆さんからの質問に授業中に直接応じる機会が少なく、結果的に他の学生(友人)に質問して対処してくれていた方が多かったように思います。この授業のみ担当しており、私に話しかけるきっかけが掴みづらかったのではと反省しています。授業の前後に世間話をするなどもう少し皆さんが気軽に話しかけられる雰囲気を作れるように取り組んでいきます。

教員名	勝山幸									
科目名	子育て支援《対象:大2児学B》						履修者数	41	回答者数	37
曜日	月	時限	4限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 保育者が行う子育て支援の対象とその必要性を説明できる(DP4) 2. 保育現場で行われる子育て支援を例示し、説明できる(DP3.6) 3. 保護者の多様な背景や考え方に思いを寄せ、子どもの成長を踏まえた保護者への働きかけについて考えることができる(DP3.4) 4. 園内外の様々な他者について知り、どのように連携・協働できるかについて説明できる(DP3.9)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.1	実施形態(すべて対面)		37人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	5.4%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

アンケートへの回答ありがとうございました。

<授業への取り組み・達成>

事後課題に1時間程度の復習を兼ねた学習を想定していましたので、概ね所要時間内に終わってくれていたようで良かったです。回答してくれたほぼ全ての方が授業の到達目標を達成できたと感じられたことも良かったです。期末レポートにも、子育て支援に関して私が伝えたかった核心を捉えた内容が多くあり、非常に嬉しかったです。

課題に効率よく取り組むことは就職した際にも役に立つと思います。今後も与えられた課題に対して、効率よく質の良いものに仕上げる工夫をしてみてください。

<教員の授業の仕方について>

授業内容に興味がわくような工夫についてあまり工夫されていなかったと感じられた方がいた点は、今後の授業の参考にします。自由記述を拝見すると、グループでの企画案の作成やディスカッションが楽しかったとの意見が多かったので、次年度はもっとグループワークを増やして、皆さんがより主体的に参加できるような工夫を増やしたいと思います。

<次年度に向けた課題とその改善案>

皆さんからの質問に授業中に直接応じる機会が少なく、結果的に他の学生(友人)に質問して対処してくれていた方が多かったように思います。この授業のみ担当しており、私に話しかけるきっかけが掴みづらかったのではと反省しています。授業の前後に世間話をするなどもう少し皆さんが気軽に話しかけられる雰囲気を作れるように取り組んでいきます。

教員名	勝山幸									
科目名	子育て支援《対象:大2児学C》						履修者数	41	回答者数	39
曜日	月	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 保育者が行う子育て支援の対象とその必要性を説明できる(DP4) 2. 保育現場で行われる子育て支援を例示し、説明できる(DP3.6) 3. 保護者の多様な背景や考え方に思いを寄せ、子どもの成長を踏まえた保護者への働きかけについて考えることができる(DP3.4) 4. 園内外の様々な他者について知り、どのように連携・協働できるかについて説明できる(DP3.9)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		39人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	2.6%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.1	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

アンケートへの回答ありがとうございました。

<授業への取り組み・達成>

事後課題に1時間程度の復習を兼ねた学習を想定していましたが、所要時間が人によりばらつきが出ていましたので、次回からは課題をより明確に伝えることで過不足なく復習してもらえるよう心掛けます。回答してくれたほぼ全ての方が授業の到達目標を達成できたと感じられたことも良かったです。期末レポートにも、子育て支援に関して私が伝えたかった核心を捉えた内容が多くあり、非常に嬉しかったです。

課題に効率よく取り組むことは就職した際にも役に立つと思います。今後も与えられた課題に対して、効率よく質の良いものに仕上げる工夫をしてみてください。

<教員の授業の仕方について>

自由記述を拝見すると、グループでの企画案の作成やディスカッションが楽しかったとの意見が多かったので、次年度はもっとグループワークを増やして、皆さんがより主体的に参加できるような工夫を増やしたいと思います。

<次年度に向けた課題とその改善案>

皆さんからの質問に授業中に直接応じる機会が少なく、結果的に他の学生(友人)に質問して対処してくれていた方が多かったように思います。この授業のみ担当しており、私に話しかけるきっかけが掴みづらかったのではと反省しています。授業の前後に世間話をするなどもう少し皆さんが気軽に話しかけられる雰囲気を作れるように取り組んでいきます。

教員名	堀科									
科目名	乳児保育Ⅱ ≪対象:大2児学A≫						履修者数	40	回答者数	37
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

3歳未満の子どもの発達について理解するとともに、保育者としての実践力を養う。そのための到達目標は以下の4つである。①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの重要性を述べることができる。(DP6 DP7) ②養護および教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法および環境について具体的に列挙することができる。(DP5 DP6) ③乳児保育における配慮の実際について、事例などを通して理解し、実践に結びつけることができる。(DP3) ④上記①から③を踏まえ、乳児保育における計画を作成し、指導案を立案することができる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		36人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	0.0%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

概ね興味や関心をもって授業に臨んでおられた様子が窺えました。授業の内容についてわかりやすいという評価が最も多く、満足度も高い結果となりました。一方、事前学修・事後学修については取り組みを指示しており、また多くの学生が実際に取り組んでいましたが、授業に向ける授業準備の値が低く、このことから授業準備と事前事後学修の目的に齟齬があったように思っています。その点は改善したいと思います。

自由記述においては、実技をやったよかったという意見が多く聞かれました。学生の皆さんが実践力をつけることを高く望んでいることが分かりました。

教員名	堀科									
科目名	乳児保育Ⅱ ≪対象:大2児学B≫						履修者数	44	回答者数	39
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

3歳未満の子どもの発達について理解するとともに、保育者としての実践力を養う。そのための到達目標は以下の4つである。①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの重要性を述べることができる。(DP6 DP7) ②養護および教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法および環境について具体的に列挙することができる。(DP5 DP6) ③乳児保育における配慮の実際について、事例などを通して理解し、実践に結びつけることができる。(DP3) ④上記①から③を踏まえ、乳児保育における計画を作成し、指導案を立案することができる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		37人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	10.8%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

概ね興味や関心をもって授業に臨んでおられた様子が窺えました。授業の内容についてわかりやすいという評価が最も多く、満足度も高い結果となりました。一方、事前学修・事後学修については取り組みを指示しており、また多くの学生が実際に取り組んでいましたが、授業に向ける授業準備の値が低く、このことから授業準備と事前事後学修の目的に齟齬があったように思っています。その点は改善したいと思います。

教員名	堀科									
科目名	乳児保育Ⅱ《対象:大2児学C》						履修者数	41	回答者数	36
曜日	金	時限	4限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

3歳未満の子どもの発達について理解するとともに、保育者としての実践力を養う。そのための到達目標は以下の4つである。①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの重要性を述べることができる。(DP6 DP7) ②養護および教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法および環境について具体的に列挙することができる。(DP5 DP6) ③乳児保育における配慮の実際について、事例などを通して理解し、実践に結びつけることができる。(DP3) ④上記①から③を踏まえ、乳児保育における計画を作成し、指導案を立案することができる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		35人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	2.9%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.4	F-16	学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	0.0%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

概ね興味や関心をもって授業に臨んでおられた様子が窺えました。授業の内容についてわかりやすいという評価が最も多く、満足度も高い結果となりました。一方、事前学修・事後学修については取り組みを指示しており、また多くの学生が実際に取り組んでいましたが、授業に向ける授業準備の値が低く、このことから授業準備と事前事後学修の目的に齟齬があったように思っています。その点は改善したいと思います。

教員名	鳥居希安									
科目名	保育内容演習(言葉)《対象:大2児学A》					履修者数	40	回答者数	39	
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を全体構造との関係の中で理解し、小学校教育における教科との関係も含めて理解し、説明できる。(DP5) ・保育所保育指針に示された乳児期における、領域「言葉」のねらい及び内容について理解し、説明できる。(DP5) ・領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が理解し、経験し身に付けていく内容と評価の仕方、実際の指導にあたっての指導上の留意点についての知識を活用できる。(DP5・DP6) ・乳幼児の言葉の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想に活用することができる。(DP5・DP6・DP7) ・乳幼児期の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を説明できる。(DP5・DP7) ・領域「言葉」の特性および幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材について理解し、保育構想に活用することができる。(DP5・DP6) ・指導案の構造を理解し、作成したうえで、模擬授業を行い、その振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。(DP5・DP8) ・領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。(DP5・DP6・DP7・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.1	実施形態(すべて対面)		39人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	5.1%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

初めての担当授業ということで不手際も多かったと感じる。だが、学生一人ひとりが授業に真摯に取り組んでくれた。自由記述にお礼の言葉もみられたのは大変嬉しかったが、一方で、説明がわかりにくいという意見は今後の課題として深く受け止めたい。また環境設備(マイクの音量)についての意見もあったことは次回から注意していきたい。教員として授業が始まる前に早く来てチェックをするようにしていたが、そのような意見が出たことは非常に残念である。最後のアンケートではなく、普段の授業でも気軽に意見が出るよう普段の授業の雰囲気も心がけたい。また事前事後学修の平均点が低かったのは今後課題にすべき点であると考え。

授業形態としてグループワークを多く取り入れてきたが、それは学生にとっても学びになっていることは、教員として嬉しい限りである。今後の授業を計画する上でも積極的にグループワークや指導案の検討を取り入れていきたいと考える。どのような内容であれば楽しみながら事前事後学修へと結びつけるのか、また事前事後学修の取り組みが、義務としてではなく、自らが学びたいような学生の主体的な取り組みになるような内容を検討していきたいと思う。

教員名	鳥居希安									
科目名	保育内容演習(言葉)《対象:大2児学B》						履修者数	42	回答者数	39
曜日	水	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を全体構造との関係の中で理解し、小学校教育における教科との関係も含めて理解し、説明できる。(DP5) ・保育所保育指針に示された乳児期における、領域「言葉」のねらい及び内容について理解し、説明できる。(DP5) ・領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が理解し、経験し身に付けていく内容と評価の仕方、実際の指導にあたっての指導上の留意点についての知識を活用できる。(DP5・DP6) ・乳幼児の言葉の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想に活用することができる。(DP5・DP6・DP7) ・乳幼児期の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を説明できる。(DP5・DP7) ・領域「言葉」の特性および幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材について理解し、保育構想に活用することができる。(DP5・DP6) ・指導案の構造を理解し、作成したうえで、模擬授業を行い、その振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。(DP5・DP8) ・領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。(DP5・DP6・DP7・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		38人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	10.5%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.0
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	0.0%
C-8	達成度	3.9	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.0

教員コメント

初めての担当授業ということで不手際も多かったと感じる。だが、学生一人ひとりが授業に真摯に取り組んでくれた。自由記述にお礼の言葉が多く大変嬉しかったが、私の方こそ、学生には感謝ばかりである。今回、授業を実施したことで、学生なくしては授業を成立することはできず、むしろ、学生から教わることが多いということを強く実感した。授業形態としてグループワークを多く取り入れてきたが、それは学生にとっても学びになっていることは、教員として嬉しい限りである。今後の授業を計画する上でも積極的にグループワークや実践事例を取り入れていきたいと考える。またクラスの雰囲気よかったことに甘えるのではなく、教員としても普段からよい雰囲気になるよう心がけたい。ただ、事前事後学修の平均点が低かったのは、次年度に向けた課題として受け止めたい。どのような内容であれば楽しみながら事前事後学修へと結びつけるのか、また事前事後学修の取り組みが、義務としてではなく、自らが学びたいような学生の主体的な取り組みになるような内容を検討していきたいと思う。

教員名	鳥居希安									
科目名	保育内容演習(言葉)《対象:大2児学C》					履修者数	40	回答者数	36	
曜日	水	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を全体構造との関係の中で理解し、小学校教育における教科との関係も含めて理解し、説明できる。(DP5) ・保育所保育指針に示された乳児期における、領域「言葉」のねらい及び内容について理解し、説明できる。(DP5) ・領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が理解し、経験し身に付けていく内容と評価の仕方、実際の指導にあたっての指導上の留意点についての知識を活用できる。(DP5・DP6) ・乳幼児の言葉の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想に活用することができる。(DP5・DP6・DP7) ・乳幼児期の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を説明できる。(DP5・DP7) ・領域「言葉」の特性および幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材について理解し、保育構想に活用することができる。(DP5・DP6) ・指導案の構造を理解し、作成したうえで、模擬授業を行い、その振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。(DP5・DP8) ・領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。(DP5・DP6・DP7・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		36人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	5.6%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.6	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

初めての担当授業ということで不手際も多かったと感じる。だが、学生一人ひとりが授業に真摯に取り組んでくれた。自由記述にお礼の言葉もみられたのは大変嬉しかったが、一方で、説明がわかりにくいという意見やグループワークの時間が長いという意見は今後の課題として深く受け止めた。

授業形態としてグループワークを多く取り入れてきたが、それは学生にとっても学びになっている意見が見られたことは、教員として嬉しい限りである。今後の授業を計画する上でも積極的にグループワークや指導案の検討を取り入れていきたいと考えるが、どの学生にとっても楽しい授業になるよう心がけたい。そして、どのような内容であれば楽しみながら事前事後学修へと結びつけるのか、また事前事後学修の取り組みが、義務としてではなく、自らが学びたいような学生の主体的な取り組みになるような内容を検討していきたいと思う。

教員名	細田 淳子								
科目名	音楽表現《対象:大2児学A》					履修者数	42	回答者数	34
曜日	金	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

音楽表現にかかわる演習科目であるため、以下を到達目標とする。1. 乳幼児期の音楽表現について、新幼稚園教育要領、新保育所保育指針等を理解し、さまざまな音楽表現ができる。(DP5) 2. 幼児の音楽表現活動(幼児の歌唱・幼児の楽器を使った表現活動)について理解でき、表現できる。(DP3) 3. 子どもが音や動きや声、そして楽器を使って自由に楽しんで表現することの意味を考え、様々な方法を体験しつつ学び、子どもの前で表現できる。(DP5) (DP6) 4. 歌唱教材をはじめ、合奏曲などの教材を自ら探したり、作り出したりできる。また表現あそびを考えだしたり、アレンジしたりできる。(DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.7	実施形態(すべて対面)		34人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	2.9%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.1	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

最終授業の最後でみなさんにお伝えしましたように、私、細田 淳子は、この授業をもって35年間の東京家政大学での授業を終えます。定年退職という日が目の前に来ても授業は毎回楽しく、それまでと同様に全力でやってきました。今回はみんな暖かなコメントばかりで、嬉しく思いました。

例えば

- ・オスティナートや指揮法など保育に活かせる方法を学ぶことができた。
- ・最後のわらべ歌の合奏がとても楽しかったです。中学以来の合奏で、みんなで合わせる楽しさを実感できました。
- ・怒鳴らせない歌い方、幼児の発声法、オスティナートをつかった合奏方法、や、わらべうたなど、初めて知ることも多く、とても楽しい授業でした。来年も先生に教えて頂きたかったです…。短い間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございました！」

等といろいろ書いて下さっていましたが、私が35年間ずっと大事にしてきた内容は2つあります。1つは「怒鳴らせない歌い方の幼児の発声法」です。

2つ目は、「オスティナートを重ねて行う合奏の作り方と指導法、つまり指揮法」です。すくってどうぞ、と回してキュー ですね！

保育者となったときに音楽表現の授業、特に上記二つの授業を思い出し、子どもたちと楽しい音楽の時間を過ごしてほしいと願っています。

教員最後のあなたたちのクラスが、明るく活気に満ちていて「うた・合奏」の中の新曲の振り付けと歌の発表も見えてとても楽しいものでした。私からも「ありがとう！」

素敵な保育者になってください。 細田 淳子

教員名	細田 淳子									
科目名	音楽表現《対象:大2児学B》						履修者数	41	回答者数	41
曜日	金	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

音楽表現にかかわる演習科目であるため、以下を到達目標とする。1. 乳幼児期の音楽表現について、新幼稚園教育要領、新保育所保育指針等を理解し、さまざまな音楽表現ができる。(DP5) 2. 幼児の音楽表現活動(幼児の歌唱・幼児の楽器を使った表現活動)について理解でき、表現できる。(DP3) 3. 子どもが音や動きや声、そして楽器を使って自由に楽しんで表現することの意味を考え、様々な方法を体験しつつ学び、子どもの前で表現できる。(DP5) (DP6) 4. 歌唱教材をはじめ、合奏曲などの教材を自ら探したり、作り出したりできる。また表現あそびを考えだしたり、アレンジしたりできる。(DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		41人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	22.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.4	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.9	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

最終授業の最後でみなさんにお伝えしましたように、私、細田 淳子は、この授業をもって35年間の東京家政大学での授業を終えます。定年退職という日が目の前に来ても授業は毎回楽しく、それまでと同様に全力でやってきました。今回はみんな暖かなコメントばかりで、嬉しく思いました。

例えば

- ・オスティナートや指揮法など保育に活かせる方法を学ぶことができた。
- ・最後のわらべ歌の合奏がとても楽しかったです。中学以来の合奏で、みんなで合わせる楽しさを実感できました。
- ・怒鳴らせない歌い方、幼児の発声法、オスティナートをつかった合奏方法、や、わらべうたなど、初めて知ることも多く、とても楽しい授業でした。来年も先生に教えて頂きたかったです…。短い間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございました！」

等といろいろ書いて下さっていましたが、私が35年間ずっと大事にしてきた内容は2つあります。1つは「怒鳴らせない歌い方の幼児の発声法」です。

2つ目は、「オスティナートを重ねて行う合奏の作り方と指導法、つまり指揮法」です。すくってどうぞ、と回してキュー ですね！

保育者となったときに音楽表現の授業、特に上記二つの授業を思い出し、子どもたちと楽しい音楽の時間を過ごしてほしいと願っています。

教員最後のあなたたちのクラスが、明るく活気に満ちていて「うた・合奏」の中の新曲の振り付けと歌の発表も見えてとても楽しいものでした。私からも「ありがとう！」

素敵な保育者になってください。 細田 淳子

教員名	細田 淳子									
科目名	音楽表現《対象:大2児学C》						履修者数	41	回答者数	37
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

音楽表現にかかわる演習科目であるため、以下を到達目標とする。1. 乳幼児期の音楽表現について、新幼稚園教育要領、新保育所保育指針等を理解し、さまざまな音楽表現ができる。(DP5) 2. 幼児の音楽表現活動(幼児の歌唱・幼児の楽器を使った表現活動)について理解でき、表現できる。(DP3) 3. 子どもが音や動きや声、そして楽器を使って自由に楽しんで表現することの意味を考え、様々な方法を体験しつつ学び、子どもの前で表現できる。(DP5) (DP6) 4. 歌唱教材をはじめ、合奏曲などの教材を自ら探したり、作り出したりできる。また表現あそびを考えだしたり、アレンジしたりできる。(DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		36人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.9	D-9	担当教員に質問したか	8.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.1	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	-

教員コメント

最終授業の最後でみなさんにお伝えしましたように、私、細田 淳子は、この授業をもって35年間の東京家政大学での授業を終えます。定年退職という日が目の前に来ても授業は毎回楽しく、それまでと同様に全力でやってきました。今回はみんな暖かなコメントばかりで、嬉しく思いました。

例えば

- ・オスティナートや指揮法など保育に活かせる方法を学ぶことができた。
- ・最後のわらべ歌の合奏がとても楽しかったです。中学以来の合奏で、みんなで合わせる楽しさを実感できました。
- ・怒鳴らせない歌い方、幼児の発声法、オスティナートをつかった合奏方法、や、わらべうたなど、初めて知ることも多く、とても楽しい授業でした。来年も先生に教えて頂きたかったです…。短い間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございました！」

等といろいろ書いて下さっていましたが、私が35年間ずっと大事にしてきた内容は2つあります。1つは「怒鳴らせない歌い方の幼児の発声法」です。

2つ目は、「オスティナートを重ねて行う合奏の作り方と指導法、つまり指揮法」です。すくってどうぞ、と回してキュー ですね！

保育者となったときに音楽表現の授業、特に上記二つの授業を思い出し、子どもたちと楽しい音楽の時間を過ごしてほしいと願っています。

教員最後のあなたたちのクラスが、明るく活気に満ちていて「うた・合奏」の中の新曲の振り付けと歌の発表も見えてとても楽しいものでした。私からも「ありがとう！」

素敵な保育者になってください。 細田 淳子

教員名	尾崎司									
科目名	保育内容演習(人間関係)《対象:大1育支A》					履修者数	28	回答者数	22	
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)保育所保育指針や幼稚園教育要領における領域「人間関係」の捉え方について理解し、その内容について説明できる(DP1・DP2)。(2)保育行為に応用し実践するために、事例をもとに子どもの人間関係の育ちを議論し、その内容を理解することができる(DP5・DP8・DP9)。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		22人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	9.1%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.2	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	尾崎司									
科目名	保育内容演習(人間関係)《対象:大1育支B》					履修者数	30	回答者数	25	
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 保育所保育指針や幼稚園教育要領における領域「人間関係」の捉え方について理解し、その内容について説明できる(DP1・DP2)。(2) 保育行為に応用し実践するために、事例をもとに子どもの人間関係の育ちを議論し、その内容を理解することができる(DP5・DP8・DP9)。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.7	実施形態(すべて対面)		25人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	4.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.4	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	尾崎司									
科目名	保育内容演習(人間関係)《対象:大1育支C》					履修者数	29	回答者数	25	
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 保育所保育指針や幼稚園教育要領における領域「人間関係」の捉え方について理解し、その内容について説明できる(DP1・DP2)。(2) 保育行為に応用し実践するために、事例をもとに子どもの人間関係の育ちを議論し、その内容を理解することができる(DP5・DP8・DP9)。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.7	実施形態(すべて対面)		25人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	8.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.1	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	佐藤康富									
科目名	保育内容演習(環境)《対象:大1育支A》						履修者数	28	回答者数	27
曜日	土	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1、幼稚園教育要領の領域「環境」についてその基本的な考えを理解し説明することができる。(DP1・DP5・DP6) 2、子どもを取り巻く環境の重要性について理解し保育現場における実践方法を習得する。((DP3・DP6) 3、領域環境における保育者の役割について学び、そのかわり方について説明し実践できる。((DP1・DP2・DP5) 4、併せて環境教育を保育に取り入れることの意義について理解し、説明できる。(DP3・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.7	実施形態(すべて対面)		27人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	37.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.9	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

この科目では領域「環境」のねらいと内容について理解することが目的であった。学生自身はこの「環境」という内容についてよく理解し、保育構成者としての保育者の視点だけでなく、それを受ける子どもの視点からも理解を深めたことが伺える。くわえて、授業の中での体験内容と課題を往還することにより、さらに考えを深めていったように思われる。授業担当者としては、どのような課題を適切に提示するのか、また、フィードバックするののかはとても重要である。くわえて、学生同士が協働して課題を追求する姿勢を育むことも重要であると考え。今後は、さらに学生自身が探究できるような内容構成、資料の提示、探究の仕方、それに対するフィードバックを効果的に組み合わせながら、学生自身の学修に対する意欲を喚起していきたい。

教員名	佐藤康富									
科目名	保育内容演習(環境)《対象:大1育支B》						履修者数	30	回答者数	27
曜日	土	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1、幼稚園教育要領の領域「環境」についてその基本的な考えを理解し説明することができる。(DP1・DP5・DP6) 2、子どもを取り巻く環境の重要性について理解し保育現場における実践方法を習得する。((DP3・DP6) 3、領域環境における保育者の役割について学び、そのかわり方について説明し実践できる。((DP1・DP2・DP5) 4、併せて環境教育を保育に取り入れることの意義について理解し、説明できる。(DP3・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		27人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	14.8%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.9	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

この科目では領域「環境」のねらいと内容について理解することが目的であった。学生自身はこの「環境」という内容についてよく理解し、保育構成者としての保育者の視点だけでなく、それを受ける子どもの視点からも理解を深めたことが伺える。くわえて、授業の中での体験内容と課題を往還することにより、さらに考えを深めていったように思われる。授業担当者としては、どのような課題を適切に提示するのか、また、フィードバックするののかはとても重要である。くわえて、学生同士が協働して課題を追求する姿勢を育むことも重要であると考えます。今後は、さらに学生自身が探究できるような内容構成、資料の提示、探究の仕方、それに対するフィードバックを効果的に組み合わせながら、学生自身の学修に対する意欲を喚起していきたい。

教員名	佐藤康富									
科目名	保育内容演習(環境)《対象:大1育支C》						履修者数	29	回答者数	25
曜日	土	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1、幼稚園教育要領の領域「環境」についてその基本的な考えを理解し説明することができる。(DP1・DP5・DP6) 2、子どもを取り巻く環境の重要性について理解し保育現場における実践方法を習得する。((DP3・DP6) 3、領域環境における保育者の役割について学び、そのかわり方について説明し実践できる。((DP1・DP2・DP5) 4、併せて環境教育を保育に取り入れることの意義について理解し、説明できる。(DP3・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		25人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	36.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.9	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

この科目では領域「環境」のねらいと内容について理解することが目的であった。学生自身はこの「環境」という内容についてよく理解し、保育構成者としての保育者の視点だけでなく、それを受ける子どもの視点からも理解を深めたことが伺える。くわえて、授業の中での体験内容と課題を往還することにより、さらに考えを深めていったように思われる。授業担当者としては、どのような課題を適切に提示するのか、また、フィードバックするののかはとても重要である。くわえて、学生同士が協働して課題を追求する姿勢を育むことも重要であると考え。今後は、さらに学生自身が探究できるような内容構成、資料の提示、探究の仕方、それに対するフィードバックを効果的に組み合わせながら、学生自身の学修に対する意欲を喚起していきたい。

教員名	木村美佳									
科目名	子どもの保健≪対象:大1育支≫						履修者数	89	回答者数	79
曜日	金	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

子どもひとり一人の豊かな育ちを保障するために、以下の目標のもと、子どもの健康の保持・増進のための基礎的知識を習得する。(DP3, DP6)

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について説明できる。(DP1, DP2)
2. 子どもの身体的発育の特徴を説明できる。(DP1, DP2)
3. 子どもに多い症状とその対応について述べるができる。(DP1, DP2)
4. 小児期に多い疾病の特徴について述べるができる。(DP1, DP2)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.7	実施形態(すべて対面)		79人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	10.1%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.4	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)

授業の事前課題や事後課題を出していくことに慣れなかったため、より良い授業前課題を出すことができなかった。もっと勉強して貰えばよかったと思っている。特に医療系の授業にとっても興味がある学生さんだったため、考えやすい課題を提供していこうと思う。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

授業に対する反応がとてもよく、実際に質問や、声を出しての反応がとてもよかったクラスだと思う。難しい内容のカテゴリを説明するのには、事前課題をやってもらうことで更なる理解につながったと思われる。

・自由記述から読み取れること

本当に楽しんでもらえてよかったと思う。皆さんにとって有意義な授業になっていたのかと心配になるが、自分のことや病気の子供のことだけでなく、未来の考え方などをさらに深めている学生が多く、今後も自分自身で学びを展開できる人が多いのではないと思う。

・次年度に向けた課題・その改善案

やはり、次年度に向けた課題は、事前課題と事後課題だと思う。事後の課題は必ずリフレクションをしてもらう。タイムキーパーを最初から作っておけば、事後の課題も出しやすいのかと思われる。

教員名	岩崎美智子								
科目名	子ども家庭福祉《対象:大1育支》					履修者数	93	回答者数	83
曜日	月	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	講義			必修／選択					

到達目標

(1)日本の子ども家庭福祉に関する法律・制度・政策について、基本的知識を習得する。(DP1) (2)子どもや家族をめぐる問題を、客観的に理解できる。(DP2・DP8) (3)子どもの最善の利益や権利保障について、自分自身の考えをもつことができる。(DP4・DP9)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		5人	実施形態(対面に一部メディア)		69人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	20.0%	F-15	担当教員に質問したか	5.8%
B-3	わかりやすさ	3.3	D-10	学生の参加	2.8	F-16	学生の参加	2.2
B-4	興味への工夫	3.1	実施形態(すべてメディア)		9人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	3.3	E-11	指示の明確さ	3.7	F-18	学修時間	2.9
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	2.4	F-19	教員への発言機会	7.2%
B-7	満足度	3.3	E-13	教員への発言機会	11.1%	F-20	学生どうしの意見交換	18.8%
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	22.2%	F-21	学修の効果	3.4

教員コメント

教員名	細田淳子／小田切舞美／蜷江春香／坂田すみれ／山本優子／清水千恵／篠崎智／鈴木順子／鈴木範之／高田有香子／丹下聡子／古川和代／松本哲平／本山美和／森谷裕希子／和田靖子／渡辺かおり								
科目名	子どもの歌と伴奏《対象：大1育支》					履修者数	87	回答者数	75
曜日	金	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	実験実習実技			必修／選択					

到達目標

1. 楽譜（音高・リズム）を正確に読むことができる。（DP3） 2. 正しい音程でことばをはっきりと、子どもの歌が歌える。（DP3） 3. コードネームを理解し、コードを使って子どもの歌に伴奏を付けることができる（DP3） 4. コード伴奏で、歌を中心とした弾き歌いができる。（DP3・DP5） 5. 子どもの歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。（DP3・DP5）

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.4	実施形態（すべて対面）		75人	実施形態（対面に一部メディア）		0人
A-2	復習をしたか	3.4	D-9	担当教員に質問したか	89.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態（すべてメディア）		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.4	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

「A この授業へのあなた自身の取組みについて」に関して、予習・復習にかけた時間は「2時間以上」と回答した方が半数以上、「ほとんどしなかった」と回答した方はいませんでした。各回の授業に対して、学生のみなさんが予習や復習に時間を十分にかけ、熱心に取り組んでいたことが伝わってきました。

「B この授業について」に関する質問では、教員の説明や、授業の工夫、授業内容とシラバスとの合致、満足度、いずれも「わかりやすかった」と回答した方が93%以上でした。ほとんどの方がこの授業に対して、また教員の授業の進め方に対して、満足している結果が得られました。

それらの結果として、「C 授業の到達目標の達成度」に関する質問では、到達目標に対する自己評価として「達成できた」「ほぼ達成できた」が合わせて98.7%でした。ほとんどの方が授業の到達目標に対し達成感や満足感を得られたことがわかりました。

自由記述では、「ピアノ初心者で不安だったが、個人のレベルに合わせて授業を進めてくださった」「無理なく前向きに取り組むことができた」「ピアノも歌も大きく成長することができた」「日々の練習の積み重ねがとても大切なのだと実感した」などといった記述がありました。自身の成長につながったという実感ができたことや、日々の練習の積み重ねの大切さに気付けたことが、この授業の満足度の数値にも表れていると思われます。

一方で、「授業を受けるのが怖い」と感じたという意見も一部見られました。ピアノを弾きながら歌うという高度な技術を要する科目の性質上、特にピアノの経験が浅い方にとっては、授業の予習・復習に苦労された方も多かったのではないかと思います。課題の内容や分量について見直したり、教員間でも授業方法などの情報を共有しながら、より良い授業が展開できるよう努め、今後も学生のみなさんのサポート体制を充実させていきたいと考えています。

教員名	梁川悦美／梅谷千代子									
科目名	保育内容の理解と方法A(体育)《対象:大1育支A》					履修者数	29	回答者数	27	
曜日	土	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①体を動かす遊びについて、他者(保育者や他の子ども)との関係や集団の中での育ちについて説明できる。(DP2) ②体を動かす遊びを子どもたちと共に展開したりする技術を発揮できる。(DP3・DP6) ③体を動かす遊びの中で、子どものイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成や援助、保育の展開を構想することができる。(DP5・DP6) ④遊びにおける様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解し、それらの活用や作成に必要な知識及び技術を発揮できる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		27人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	29.6%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.4	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

授業アンケートへの回答、ありがとうございました。7回の授業を2人の教員が担当しましたが、それぞれの授業内容について、しっかりと身に着けることが出来たのではないかと感じています。子どもの運動遊びは、保育者の関わりがとても大事になります。学生のみなさんが、体を動かすのが好き、子どもたちと目いっぱい遊びを楽しみたい…という思いが、子どもを成長させる大事な存在であり、役割だと思います。授業では、皆さんが笑顔で、色々な遊びを通して楽しむ姿は勿論、厳しい課題にも最後まで諦めずに取り組む姿勢は、これからの自分の自信と力になっていくと願っています。みんなと一緒にやると楽しいという思い、色々なアイデアが出てきて新たな発見や学びが沢山出来たのではないかと思います。現場で実践できることを願ってやみません。

次年度に向けて、学生の声聞きながら、学生と教員が互いに力を合わせて、子どもたちの育ちに必要な運動遊びを構築していきたいと考えています。

教員名	梁川悦美／梅谷千代子									
科目名	保育内容の理解と方法A(体育)《対象:大1育支B》					履修者数	33	回答者数	28	
曜日	土	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

①体を動かす遊びについて、他者(保育者や他の子ども)との関係や集団の中での育ちについて説明できる。(DP2) ②体を動かす遊びを子どもたちと共に展開したりする技術を発揮できる。(DP3・DP6) ③体を動かす遊びの中で、子どものイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成や援助、保育の展開を構想することができる。(DP5・DP6) ④遊びにおける様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解し、それらの活用や作成に必要な知識及び技術を発揮できる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.1	実施形態(すべて対面)		28人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	10.7%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.1	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.1	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.5	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

授業アンケートへの回答、ありがとうございました。7回の授業を2人の教員が担当しましたが、それぞれの授業内容について、しっかりと身に着けることが出来たのではないかと感じています。子どもの運動遊びは、保育者の関わりがとても大事になります。学生のみなさんが、体を動かすのが好き、子どもたちと目いっぱい遊びを楽しみたい…という思いが、子どもを成長させる大事な存在であり、役割だと思います。授業では、皆さんが笑顔で、色々な遊びを通して楽しむ姿は勿論、厳しい課題にも最後まで諦めずに取り組む姿勢は、これからの自分の自信と力になっていくと願っています。みんなと一緒にやると楽しいという思い、色々なアイデアが出てきて新たな発見や学びが沢山出来たのではないかと思います。現場で実践できることを願ってやみません。

次年度に向けて、学生の声聞きながら、学生と教員が互いに力を合わせて、子どもたちの育ちに必要な運動遊びを構築していきたいと考えています。

教員名	梁川悦美／梅谷千代子							
科目名	保育内容の理解と方法A(体育)《対象:大1育支C》				履修者数	29	回答者数	24
曜日	土	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科	
授業形態	演習			必修／選択				

到達目標

①体を動かす遊びについて、他者(保育者や他の子ども)との関係や集団の中での育ちについて説明できる。(DP2) ②体を動かす遊びを子どもたちと共に展開したりする技術を発揮できる。(DP3・DP6) ③体を動かす遊びの中で、子どものイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成や援助、保育の展開を構想することができる。(DP5・DP6) ④遊びにおける様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解し、それらの活用や作成に必要な知識及び技術を発揮できる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.1	実施形態(すべて対面)		24人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	12.5%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

授業アンケートへの回答、ありがとうございました。7回の授業を2人の教員が担当しましたが、それぞれの授業内容について、しっかりと身に着けることが出来たのではないかと感じています。子どもの運動遊びは、保育者の関わりがとても大事になります。学生のみなさんが、体を動かすのが好き、子どもたちと目いっぱい遊びを楽しみたい…という思いが、子どもを成長させる大事な存在であり、役割だと思います。授業では、皆さんが笑顔で、色々な遊びを通して楽しむ姿は勿論、厳しい課題にも最後まで諦めずに取り組む姿勢は、これからの自分の自信と力になっていくと願っています。みんなと一緒にやると楽しいという思い、色々なアイデアが出てきて新たな発見や学びが沢山出来たのではないかと思います。現場で実践できることを願ってやみません。

次年度に向けて、学生の声聞きながら、学生と教員が互いに力を合わせて、子どもたちの育ちに必要な運動遊びを構築していきたいと考えています。

教員名	川合沙弥香									
科目名	保育内容の理解と方法C(造形)《対象:大1育支A》					履修者数	29	回答者数	27	
曜日	火	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

- ①乳幼児の心身の発達を学び、一人ひとりの成長を促す造形表現活動を考え、素材、場所、時期、用具、留意点、言葉かけ等を意識し、実践できる。(DP2) ②乳幼児の表現と、その表現がより豊かになるための具体的な計画・実践を理解できる。(DP5) ③乳幼児に適した系統的な指導および指導の在り方についての知識や考え方を具体化できる。(DP1) ④材料、用具、扱い方等の基礎知識を習得し、安全に扱える。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.6	実施形態(すべて対面)		1人	実施形態(対面に一部メディア)		26人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	15.4%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	3.7
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	23.1%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	57.7%
C-8	達成度	3.9	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.8

教員コメント

自由記述では、遊びの中の造形表現の捉え方や、乳幼児の表現の受け止め方等について、実践的に学ぶことができたとするコメントが多く見られた。知識の習得をメインとする授業内容においてはオンデマンド授業としたが、自分のペースで学べた等ポジティブな意見が多く、今後もオンデマンドを活用していくことが必要だと感じた。

教員名	川合沙弥香									
科目名	保育内容の理解と方法C(造形)《対象:大1育支B》					履修者数	31	回答者数	30	
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

- ①乳幼児の心身の発達を学び、一人ひとりの成長を促す造形表現活動を考え、素材、場所、時期、用具、留意点、言葉かけ等を意識し、実践できる。(DP2) ②乳幼児の表現と、その表現がより豊かになるための具体的な計画・実践を理解できる。(DP5) ③乳幼児に適した系統的な指導および指導の在り方についての知識や考え方を具体化できる。(DP1) ④材料、用具、扱い方等の基礎知識を習得し、安全に扱える。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.1	実施形態(すべて対面)		1人	実施形態(対面に一部メディア)		28人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	3.4
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.1
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	14.3%
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	64.3%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.8

教員コメント

自由記述では、遊びの中の造形表現の捉え方や、乳幼児の表現の受け止め方等について、実践的に学ぶことができたとするコメントが多く見られた。知識の習得をメインとする授業内容においてはオンデマンド授業としたが、自分のペースで学べた等ポジティブな意見が多く、今後もオンデマンドを活用していくことが必要だと感じた。

教員名	川合沙弥香									
科目名	保育内容の理解と方法C(造形)《対象:大1育支C》					履修者数	29	回答者数	28	
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

- ①乳幼児の心身の発達を学び、一人ひとりの成長を促す造形表現活動を考え、素材、場所、時期、用具、留意点、言葉かけ等を意識し、実践できる。(DP2) ②乳幼児の表現と、その表現がより豊かになるための具体的な計画・実践を理解できる。(DP5) ③乳幼児に適した系統的な指導および指導の在り方についての知識や考え方を具体化できる。(DP1) ④材料、用具、扱い方等の基礎知識を習得し、安全に扱える。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.0	実施形態(すべて対面)		0人	実施形態(対面に一部メディア)		28人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	－	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	－	F-16	学生の参加	3.6
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	－	F-18	学修時間	3.1
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	－	F-19	教員への発言機会	7.1%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	－	F-20	学生どうしの意見交換	39.3%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	－	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

自由記述では、遊びの中の造形表現の捉え方や、乳幼児の表現の受け止め方等について、実践的に学ぶことができたとするコメントが多く見られた。知識の習得をメインとする授業内容においてはオンデマンド授業としたが、自分のペースで学べた等ポジティブな意見が多く、今後もオンデマンドを活用していくことが必要だと感じた。

教員名	柿沼芳枝									
科目名	保育内容の理解と方法D(言葉)《対象:大1育支A》					履修者数	28	回答者数	26	
曜日	火	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

本授業においては、以下の3点を到達目標とする。 1. さまざまな児童文化財の魅力と特性を学び、それらを整理して述べることができる。(DP1・DP3) 2. 保育に必要な知識・技術を習得し、実演することができる。(DP3・DP7) 3. 児童文化財の意義について説明することができる。(DP1・DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		26人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	23.1%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

毎回、児童文化財の実演を主としたテーマを設定して、事前の準備と事後の演習に取り組んでももらいました。授業アンケートでは事前事後学修の時間は1時間以内との回答が多い結果でしたが、全員、毎回の事前準備や事後学修に取り組んでいました。最終まとめとして行なった実演発表の際も、事前準備をしっかりと行って臨んでいました。授業の「わかりやすさ」、「興味がわく工夫」、「課題」、「満足度」等について3以上の高い数値が得られ、受講者が意欲的な姿勢で学んだことを改めて実感しました。

自由記述では、実際に演じることを通して児童文化財への理解が深まったとの感想が多くありました。今まで触れることがなかったさまざまな児童文化財を演じたことは保育実践につながるよい経験、実習に必要なことを学べたことが有意義、などの意見がありました。「みんなの前で発表は抵抗があったけど、これから慣れていきたい」、「難しさもあったけど楽しかった」などと前向きに取り組み、実演を通して自信をつけてくれたことを感じます。

児童文化財自体は、多くの学生が子ども時代に触れているものの、保育者として伝える側に立つ意識で体験することに意義があると捉え、今後も、保育実践のイメージをもって学べる内容にしていきたいと思います。

教員名	柿沼芳枝									
科目名	保育内容の理解と方法D(言葉)《対象:大1育支B》					履修者数	29	回答者数	27	
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

本授業においては、以下の3点を到達目標とする。 1. さまざまな児童文化財の魅力と特性を学び、それらを整理して述べることができる。(DP1・DP3) 2. 保育に必要な知識・技術を習得し、実演することができる。(DP3・DP7) 3. 児童文化財の意義について説明することができる。(DP1・DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.9	実施形態(すべて対面)		27人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	22.2%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

毎回、児童文化財の実演を主としたテーマを設定して、事前の準備と事後の演習に取り組んでももらいました。授業アンケートの結果では、事前事後学修の時間量に個人差がみられましたが、全員が毎回、事前・事後学修に取り組みました。最終まとめとして行なった実演発表の際も、事前準備をしっかりと行って臨んでいました。授業の「わかりやすさ」、「興味がわく工夫」、「課題」、「満足度」等について3以上の高い数値が得られ、受講者が意欲的な姿勢で学んだことを改めて実感しました。

自由記述には、保育の専門知識を学べてうれしかった、実践の機会は少ないので授業で学べてよかった、実践的に学べて新しい発見や知識を得ることができてよかった、などの感想があり、保育実践につながる内容として意欲的に学んだことがわかりました。将来を見据え、保育者としての視点で取り組んだことを感じ、授業担当者として嬉しく思います。今後も、実践のイメージをもって意欲的に取り組める授業を心がけていきます。

教員名	柿沼芳枝									
科目名	保育内容の理解と方法D(言葉)《対象:大1育支C》					履修者数	29	回答者数	24	
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

本授業においては、以下の3点を到達目標とする。 1. さまざまな児童文化財の魅力と特性を学び、それらを整理して述べることができる。(DP1・DP3) 2. 保育に必要な知識・技術を習得し、実演することができる。(DP3・DP7) 3. 児童文化財の意義について説明することができる。(DP1・DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)	24人	実施形態(対面に一部メディア)	0人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9 担当教員に質問したか	4.2%	F-15 担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.2	D-10 学生の参加	3.5	F-16 学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)	0人	F-17 指示の明確さ	-
B-5	課題	3.6	E-11 指示の明確さ	-	F-18 学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12 学修時間	-	F-19 教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.4	E-13 教員への発言機会	-	F-20 学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14 学生どうしの意見交換	-	F-21 学修の効果	-

教員コメント

毎回、児童文化財の実演を主としたテーマを設定して、事前の準備と事後の演習に取り組んでももらいました。授業アンケートでは事前事後学修の時間は1時間以内との回答が多い結果でしたが、全員、毎回の事前準備や事後学修に取り組んでいました。最終まとめとして行なった実演発表の際も、事前準備をしっかりと行って臨んでいました。

授業の「わかりやすさ」、「興味がわく工夫」、「課題」、「満足度」等について3以上の高い数値が得られ、受講者が意欲的な姿勢で学んだことを改めて実感しました。

自由記述から、児童文化財に触れる経験に個人差がある中でも、演習を通して理解を深め、魅力を感じ取ってくれたことが読み取れました。少人数グループでの演習やゲストスピーカーの講義を通して理解が深まり、技術が身についたとの感想もありました。また、クラスの友達の前で実演したり発表を見たりすることがよい経験になった、との感想もあり、自信につながったように思います。

今後も、子どもの姿を思い描きながら実践をイメージして取り組める授業にしていきます。

教員名	松本なるみ									
科目名	社会的養護Ⅱ《対象:大1育支A》						履修者数	28	回答者数	25
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)社会的養護を必要とする子どもの現状を理解し養護問題が発生する背景について指摘することができる。(DP4)(DP8) (2)家庭養護・施設養護の実際について学び、子どもとその家族への具体的な支援について述べるができる。(DP2)(DP4)(DP5) (3)社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解を深め議論することができる。(DP4)(DP8)(DP9) (4)児童の権利擁護と保育士の倫理・専門性を理解し説明できる。(DP4) (5)個々の子どもに必要な日常生活の支援・自立支援について学び、個別の支援計画演習課題において適用できる。(DP4)(DP5)(DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)	6人	実施形態(対面に一部メディア)	14人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9 担当教員に質問したか	0.0%	F-15 担当教員に質問したか	7.1%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10 学生の参加	3.2	F-16 学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)	5人	F-17 指示の明確さ	3.7
B-5	課題	3.7	E-11 指示の明確さ	4.0	F-18 学修時間	2.6
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12 学修時間	2.2	F-19 教員への発言機会	7.1%
B-7	満足度	3.8	E-13 教員への発言機会	20.0%	F-20 学生どうしの意見交換	21.4%
C-8	達成度	3.8	E-14 学生どうしの意見交換	40.0%	F-21 学修の効果	3.6

教員コメント

アンケート結果から、授業満足度、および授業到達度(3.84)において、全体的に肯定的な評価をいただけたと思います。自由記述では「ほかの人の意見を聞くことができてよかった」とのご意見が多くあり、授業内での発言の機会が、学びを深めるきっかけとなったことを実感しています。また、「前期の授業からさらに理解が深まった」という声からは、継続的な学びの効果も見えてきました。一方で、時には内容が難しく感じられたというご意見や、予習・復習に関する評価(2.16)については改善が必要です。今後は、難しい内容をよりわかりやすく伝える工夫や、予習・復習の取り組みを自然に取り入れられるようにしていきたいと思っています。

教員名	松本なるみ									
科目名	社会的養護Ⅱ《対象:大1育支B》						履修者数	30	回答者数	11
曜日	月	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)社会的養護を必要とする子どもの現状を理解し養護問題が発生する背景について指摘することができる。(DP4)(DP8) (2)家庭養護・施設養護の実際について学び、子どもとその家族への具体的な支援について述べるができる。(DP2)(DP4)(DP5) (3)社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解を深め議論することができる。(DP4)(DP8)(DP9) (4)児童の権利擁護と保育士の倫理・専門性を理解し説明できる。(DP4) (5)個々の子どもに必要な日常生活の支援・自立支援について学び、個別の支援計画演習課題において適用できる。(DP4)(DP5)(DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.5	実施形態(すべて対面)		3人	実施形態(対面に一部メディア)		8人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	2.7	F-16	学生の参加	2.9
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.6
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	25.0%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	50.0%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.6

教員コメント

授業満足度、および授業到達度(3.73)において、全体的に肯定的な評価をいただけたと思います。自由記述では「友達の考えを聞くことができてよかった」とのご意見が多くあり、授業内での発言の機会が、学びを深めるきっかけとなったことを実感しています。また、「前期の授業からさらに理解が深まった」という声からは、継続的な学びの効果も見えてきました。一方で、時には内容が難しく感じられたというご意見や、予習・復習に関する評価(2.36)については、今後の改善のヒントとして受け止めています。今後は、難しい内容をよりわかりやすく伝える工夫や、予習・復習の取り組みを自然に取り入れられるようにしていきたいと思います。

教員名	松本なるみ									
科目名	社会的養護Ⅱ《対象:大1育支C》						履修者数	29	回答者数	25
曜日	水	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)社会的養護を必要とする子どもの現状を理解し養護問題が発生する背景について指摘することができる。(DP4)(DP8) (2)家庭養護・施設養護の実際について学び、子どもとその家族への具体的な支援について述べるができる。(DP2)(DP4)(DP5) (3)社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解を深め議論することができる。(DP4)(DP8)(DP9) (4)児童の権利擁護と保育士の倫理・専門性を理解し説明できる。(DP4) (5)個々の子どもに必要な日常生活の支援・自立支援について学び、個別の支援計画演習課題において適用できる。(DP4)(DP5)(DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		23人	実施形態(対面に一部メディア)		2人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	13.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.3	F-16	学生の参加	3.5
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	4.0
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	0.0%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

今回の結果から、授業満足度(3.84)および授業到達度(3.72)において、全体的に肯定的な評価をいただけたことを嬉しく思います。自由記述では「他者の意見や考えを聞くことができてよかった」とのご意見が多くあり、授業内での発言の機会が、学びを深めるきっかけとなったことを実感しています。また、「前期の授業からさらに理解が深まった」という声からは、継続的な学びの効果も見えてきました。一方で、時には内容が難しく感じられたというご意見や、予習・復習に関する評価(2.32)については、今後の改善のヒントとして受け止めています。今後は、難しい内容をよりわかりやすく伝える工夫や、予習・復習の取り組みを自然に取り入れられるような授業設計をしていきたいと思っています。

教員名	花輪充／金山和彦／細田淳子								
科目名	保育内容演習(表現)《対象:大1育支A》					履修者数	28	回答者数	19
曜日	水	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

(1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて包括的に説明できる。(DP3) (2) 幼児期の表現を生成する過程について理解できる。(DP3・DP7) (3) 幼児期における身体・造形・音楽表現について理解できる。(DP8) (4) 領域「表現」のねらいを踏まえた身体・造形・音楽表現の指導法について理解できる。(DP5・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.6	実施形態(すべて対面)		19人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	21.1%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.3	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・B-7およびC-8の「授業内容に関する満足度・目標達成度」について9割の学生がA・Bの評価をしている。一方で、A-1、A-2の「事前・事後学修」について、学生は十分な時間をかけることができていない。これについては、課題内容の工夫をはじめ、学生の理解として「授業に関する教材準備、振り返りシート、ポートフォリオ作成等の作業時間」を課外学習にあてることについて指導をしていく。

・自由記述において「それぞれの表現は別なものに見えて全て繋がっていて、表現とはとても大切なものだと感じた」「保育者になった時、子どもたちに伝えられたらと思いました」という感想がみられた。学生が授業内容をポジティブにとらえている成果については、今後も担当者間で連携し、教育の質の維持に努めたいと考える。

教員名	花輪充／金山和彦／細田淳子									
科目名	保育内容演習(表現)《対象:大1育支B》						履修者数	33	回答者数	31
曜日	水	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて包括的に説明できる。(DP3) (2) 幼児期の表現を生成する過程について理解できる。(DP3・DP7) (3) 幼児期における身体・造形・音楽表現について理解できる。(DP8) (4) 領域「表現」のねらいを踏まえた身体・造形・音楽表現の指導法について理解できる。(DP5・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.5	実施形態(すべて対面)		31人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.9	D-9	担当教員に質問したか	9.7%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.1	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・B-3「教員の説明」、B-4「授業内容の工夫」およびB-7「授業内容に関する満足度」について、9割の学生がA評価をしている。一方で、A-1、A-2の「事前・事後学修」について、学生は十分な時間をかけることができていない。これについては、課題内容の工夫をはじめ、学生の理解として「授業に関する教材準備、振り返りシート、ポートフォリオ作成等の作業時間」を課外学習にあてることについて指導をしていく。

・自由記述において「自分の全てを出せるような授業でとても楽しかったです」「自分の考えを持つことが大切だと最も感じた」「わかりやすい説明がすごく勉強になりました」という感想がみられた。学生が授業内容をポジティブにとらえ、自己表現ができている成果については、今後も担当者間で連携し、教育の質の維持に努めたいと考える。

教員名	花輪充／金山和彦／細田淳子									
科目名	保育内容演習(表現)《対象:大1育支C》					履修者数	29	回答者数	26	
曜日	土	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて包括的に説明できる。(DP3) (2) 幼児期の表現を生成する過程について理解できる。(DP3・DP7) (3) 幼児期における身体・造形・音楽表現について理解できる。(DP8) (4) 領域「表現」のねらいを踏まえた身体・造形・音楽表現の指導法について理解できる。(DP5・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		26人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	15.4%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.4	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・B-3「教員の説明」、B-4「授業内容の工夫」およびB-7「授業内容に関する満足度」について、8割の学生がA評価をしている。一方で、A-1、A-2の「事前・事後学修」について、学生は十分な時間をかけることができていない。これについては、課題内容の工夫をはじめ、学生の理解として「授業に関する教材準備、振り返りシート、ポートフォリオ作成等の作業時間」を課外学習にあてることについて指導をしていく。

・自由記述において「保育の中での具体的な実践方法や具体的なエピソードを混じえたお話がたくさんあり、自分が保育者になったときどのように言ったらいいのかわかるのか、関わっていくのがよいのか考えることができました」「3人の先生によってそれぞれ学んだことをこれからの実習などで活かして行きたい」という感想がみられた。学生が学びの内容を実習等で積極的に活用しようとする成果については、今後も担当者間で連携し、教育の質の維持に努めたいと考える。

教員名	前田和代／大井美緒									
科目名	保育の計画と評価《対象:大1育支AB前》						履修者数	43	回答者数	42
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

(1)乳幼児の発達を踏まえた保育の計画の全体構造を理解できる。DP5 (2)保育の計画を捉えた指導計画案作成の構想ができる。DP3 DP5 DP6 (3)保育の評価、記録の意味が理解できる。DP7

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.1	実施形態(すべて対面)		14人	実施形態(対面に一部メディア)		27人
A-2	復習をしたか	3.1	D-9	担当教員に質問したか	7.1%	F-15	担当教員に質問したか	11.1%
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.2	F-16	学生の参加	3.5
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	3.6	E-11	指示の明確さ	3.0	F-18	学修時間	3.2
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	48.1%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

授業評価ありがとうございました。特に、初めての指導計画案の構想や作成にはたくさんの時間を使い苦労されたことが伝わりました。事前事後学修もしっかり取り組んでいたこともわかりました。一方、初めての指導計画案を完成させ達成感も味わったことも伝わりました。今後、実習や保育者になったときは子どもの姿を捉えて計画を構想するおもしろさをぜひ実感してください。計画の構想が保育者の意図にもつながります。

また、授業内での多くのグループワークは皆さんは大変積極的に参加されており、学びへの意欲を感じました。この経験を生かして、今後も仲間と学びを共有して皆さんの成長につなげてください。

課題の確認方法、提示、授業内のパワポや授業資料の扱い、試験問題などについては、みなさからいただいた具体的なご意見を参考に改善し、より良い授業になるよう努めてまいります。

教員名	前田和代／大井美緒									
科目名	保育の計画と評価《対象:大1育支B後C》						履修者数	44	回答者数	40
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

(1)乳幼児の発達を踏まえた保育の計画の全体構造を理解できる。DP5 (2)保育の計画を捉えた指導計画案作成の構想ができる。DP3 DP5 DP6 (3)保育の評価、記録の意味が理解できる。DP7

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.6	実施形態(すべて対面)		9人	実施形態(対面に一部メディア)		30人
A-2	復習をしたか	3.1	D-9	担当教員に質問したか	11.1%	F-15	担当教員に質問したか	20.0%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.4	F-16	学生の参加	3.3
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.2
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	10.0%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	60.0%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

授業評価ありがとうございました。特に、初めての指導計画案の構想や作成にはたくさんの時間を使い苦労されたことが伝わりました。事前事後学修もしっかり取り組んでいたこともわかりました。一方、初めての指導計画案を完成させ達成感も味わったことも伝わりました。今後、実習や保育者になったときは子どもの姿を捉えて計画を構想するおもしろさをぜひ実感してください。計画の構想が保育者の意図にもつながります。

また、授業内での多くのグループワークは皆さんは大変積極的に参加されており、学びへの意欲を感じました。この経験を生かして、今後も仲間と学びを共有して皆さんの成長につなげてください。

課題の確認方法、提示、授業内のパワポや授業資料の扱い、試験問題などについては、みなさからいただいた具体的なご意見を参考に改善し、より良い授業になるよう努めてまいります。

教員名	荒井庸子									
科目名	障がい児保育演習《対象:大2育支A》						履修者数	38	回答者数	32
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 障がい児保育の歴史と現状を理解した上で、今日的課題を述べることができる。(DP2・DP4) 2. 障がいの基礎知識を学び、発達と障がいの視点から子どもを理解することができる。(DP2・DP3) 3. 学習した成果をもとに、保育実践を展開する上での工夫点・留意点を指摘することができる。(DP5・DP6) 4. 家族支援や関係機関との連携について理解し、実際の保育場面と関連づけて考えることができる。(DP4・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.6	実施形態(すべて対面)		16人	実施形態(対面に一部メディア)		15人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	6.3%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	3.9
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	6.7%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	40.0%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.7

教員コメント

＊「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)

学生の授業到達目標に対する達成度は3.5の数値がみられた。また、予習・復習を行った時間は「1時間～2時間」「1時間以内」とする学生が割合として高かった。予習は「ほとんどしなかった」とする学生も若干名みられた。本授業では、次の授業内容に関する事前課題や授業後の小テストを準備することで予習・復習を促していたが、学生が積極的に取り組めるような予習・復習のあり方を検討していく必要がある。

＊「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

教員の授業に関しては、全て3.6以上の評価であった。実践例や視覚教材を用いた授業を意識しており、教員の説明や授業内容の工夫についても一定の評価を得ることはできた。説明の分かりやすさでは「あまり分かりやすくなかった」との回答もあるため、評価を得た点は継続しつつ更に学生のニーズに応じた授業を心がけたい。

＊自由記述から読み取れること

実際の実践例を直接学生に伝えることで、障がいのある子どもへの関心や理解が広がったとの意見がみられた。また、学生同士で意見交換する機会は、子どもへの援助や保育の展開を思考する力にもつながると考える。今後も対話を通して深い学びが得られるよう、学生の声をもとに授業展開を工夫していきたい。

＊次年度に向けた課題・その改善案

各回の授業で伝える内容が多くなったり授業スピードが速くなりすぎないように、授業内容の焦点化や課題の整理・時間配分等を再検討していきたい。グループワークにおいて、学生が考えを伝え、相手の意見を聴く機会がより有意義なものになるよう工夫することが課題である。また、個々へのフィードバックの機会を充実させることも意識したい。さらに、興味を引き出す授業教材の再検討と同時に、学生が自ら考えを深めて達成感を得られるような授業展開を再考していくことが課題である。

教員名	荒井庸子									
科目名	障がい児保育演習《対象:大2育支B》						履修者数	37	回答者数	26
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 障がい児保育の歴史と現状を理解した上で、今日的課題を述べることができる。(DP2・DP4) 2. 障がいの基礎知識を学び、発達と障がいの視点から子どもを理解することができる。(DP2・DP3) 3. 学習した成果をもとに、保育実践を展開する上での工夫点・留意点を指摘することができる。(DP5・DP6) 4. 家族支援や関係機関との連携について理解し、実際の保育場面と関連づけて考えることができる。(DP4・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		9人	実施形態(対面に一部メディア)		15人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	11.1%	F-15	担当教員に質問したか	13.3%
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	3.4
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		2人	F-17	指示の明確さ	3.5
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	3.0	F-18	学修時間	2.5
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	2.5	F-19	教員への発言機会	6.7%
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	33.3%
C-8	達成度	3.3	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.3

教員コメント

＊「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)

学生の授業到達目標に対する達成度は3.3以上の数値がみられた。予習・復習を行った時間は「1時間以内」とする学生が割合として高かった。「ほとんどしなかった」とする回答も若干名みられ、学生が積極的に取り組めるよう事前事後学修の内容を検討していきたい。また、到達目標の達成度が低い学生もあり、授業の改善を試みたい。

＊「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

教員の授業に関しては、全て3.4以上の評価であった。実践例や視覚教材を用いた授業を意識しており、教員の説明や授業内容の工夫についても一定の評価を得ることはできた。一方「説明の分かりやすさ」「興味がわく工夫」「満足度」等で低い評価もあり、評価を得た点は継続しつつ学生のニーズに応じた授業を心がけたい。

＊自由記述から読み取れること

実際の実践例を直接学生に伝えることで、障がいのある子どもへの関心や理解が広がったとの意見がみられた。また、学生同士で意見交換する機会は、子どもへの援助や保育の展開を思考する力にもつながると考える。同時に、意見交換に対するフィードバックのあり方に関する記述もみられた。学生の関心や意欲を高められるよう、自由記述の声を今後の授業改善につなげていきたい。

＊次年度に向けた課題・その改善案

各回の授業で伝える内容が多くなったり授業スピードが速くなりすぎないように、授業内容の焦点化や課題の整理・時間配分等を再検討していきたい。グループワークにおいて、学生が考えを伝え、相手の意見を聴く機会がより有意義なものになるよう工夫することが課題である。そのためにも、個々への丁寧なフィードバックの機会を充実させることも意識したい。さらに、興味を引き出す授業教材の再検討と同時に、学生が自ら考えを深めて達成感を得られるような授業展開を再考していくことが課題である。

教員名	荒井庸子									
科目名	障がい児保育演習《対象:大2育支C》						履修者数	36	回答者数	33
曜日	金	時限	4限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 障がい児保育の歴史と現状を理解した上で、今日的課題を述べることができる。(DP2・DP4) 2. 障がいの基礎知識を学び、発達と障がいの視点から子どもを理解することができる。(DP2・DP3) 3. 学習した成果をもとに、保育実践を展開する上での工夫点・留意点を指摘することができる。(DP5・DP6) 4. 家族支援や関係機関との連携について理解し、実際の保育場面と関連づけて考えることができる。(DP4・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		6人	実施形態(対面に一部メディア)		25人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	16.7%	F-15	担当教員に質問したか	8.0%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		2人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	3.5	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	3.5	F-19	教員への発言機会	12.0%
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	36.0%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.8

教員コメント

＊「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)

学生の授業到達目標に対する達成度は3.5以上の数値がみられた。また、予習・復習を行った時間は「1時間以内」とする学生が割合として高かった。「ほとんどしなかった」とする学生も若干名みられた。本授業では、次回の授業内容に関する事前課題や授業後の小テストを準備することで予習・復習を促していたが、学生が積極的に取り組めるような予習・復習のあり方を検討していく必要がある。

＊「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

教員の授業に関しては、全て3.8以上の評価であった。実践例や視覚教材を用いた授業を意識しており、教員の説明や授業内容の工夫についても一定の評価を得ることはできた。説明の分かりやすさや興味のわくような工夫など今年度の授業で意識した点を、今後も継続しつつ更に学生のニーズに応じた授業を心がけたい。

＊自由記述から読み取れること

実際の実践例を直接学生に伝えることで、障がいのある子どもへの関心や理解が広がったとの意見がみられた。また、学生同士で意見交換する機会は、子どもへの援助や保育の展開を思考する力にもつながると考える。今後も対話を通して深い学びが得られるよう、学生の声をもとに授業展開を工夫していきたい。

＊次年度に向けた課題・その改善案

各回の授業で伝える内容が多くなったり授業スピードが速くなりすぎないように、授業内容の焦点化や課題の整理・時間配分等を再検討していきたい。グループワークにおいて、学生が考えを伝え、相手の意見を聴く機会がより有意義なものになるよう工夫することが課題である。また、個々へのフィードバックの機会を充実させることも意識したい。さらに、興味を引き出す授業教材の再検討と同時に、学生が自ら考えを深めて達成感を得られるような授業展開を再考していくことが課題である。

教員名	榎沢良彦								
科目名	児童学研究法《対象:大2育支A》					履修者数	37	回答者数	36
曜日	水	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

・児童学の5つの領域を理解した上で、児童学にかかわる「問い」をたてることができる。(DP1) ・児童学における研究の基本的な形式を理解し説明できる。(DP1) ・児童学における研究方法のいくつかについて理解し、説明することができる。(DP1) ・児童学における研究の成果が質の高い保育実践に寄与することを理解し、実践上の課題と結び付けて考えることができる。(DP1, DP3) ・子どもの健やかな育ちを保障し、促すための技法のいくつかを発揮することに、児童学の研究が寄与していることを理解し、両者を結び付けて簡単な論文形式のレポートをまとめることができる。(DP1, DP3) ・児童学に関連する著書と雑誌論文の文献検索ができる。(DP1) ・児童学の領域において、雑誌論文を読むことで、その内容についての自分の考えをまとめるとともに、論文の形式について説明することができる。(DP1) ・児童学の著書や論文を活用し、引用の仕方等を踏まえて、論文の形式に則った簡単なレポートをまとめることができる。(DP1)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.0	実施形態(すべて対面)		19人	実施形態(対面に一部メディア)		14人
A-2	復習をしたか	2.9	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.0	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	3.9
B-4	興味への工夫	3.1	実施形態(すべてメディア)		3人	F-17	指示の明確さ	3.3
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	3.7	F-18	学修時間	3.4
B-6	シラバスとの合致	3.5	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	7.1%
B-7	満足度	3.4	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	42.9%
C-8	達成度	3.2	E-14	学生どうしの意見交換	33.3%	F-21	学修の効果	3.3

教員コメント

この授業は、皆さんが大学に入り始めて直面する論文を読んだり、自分で論文を書くための準備をするものです。ですから、難しい内容であることは承知しています。できるだけその壁を低くするために、オンデマンドにして繰り返し学修できるようにしたり、グループで話し合う時間を多くしたりしています。わかりにくい点があれば、遠慮せずに質問してください。具体的にわかりにくい点を指摘してくれば、改善することができるので、是非、質問してほしいと思います。授業内で質問できないときは、manabaのコレクションで質問してください。

皆さんの授業や課題への取り組みに関しては、とても頑張ったと思います。多少難しいことにも取り組むことは、達成感もあり、当然、力も付くので、とても重要なことだと思います。不安だった卒論が書けそうな気になったという人もいます。頑張った成果ですね。

皆さんの感じる壁を少しでも低くするために、同じことを繰り返し話すことも必要かなと思っています。

教員名	榎沢良彦								
科目名	児童学研究法《対象:大2育支B》					履修者数	40	回答者数	32
曜日	木	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

・児童学の5つの領域を理解した上で、児童学にかかわる「問い」をたてることができる。(DP1) ・児童学における研究の基本的な形式を理解し説明できる。(DP1) ・児童学における研究方法のいくつかについて理解し、説明することができる。(DP1) ・児童学における研究の成果が質の高い保育実践に寄与することを理解し、実践上の課題と結び付けて考えることができる。(DP1, DP3) ・子どもの健やかな育ちを保障し、促すための技法のいくつかを発揮することに、児童学の研究が寄与していることを理解し、両者を結び付けて簡単な論文形式のレポートをまとめることができる。(DP1, DP3) ・児童学に関連する著書と雑誌論文の文献検索ができる。(DP1) ・児童学の領域において、雑誌論文を読むことで、その内容についての自分の考えをまとめるとともに、論文の形式について説明することができる。(DP1) ・児童学の著書や論文を活用し、引用の仕方等を踏まえて、論文の形式に則った簡単なレポートをまとめることができる。(DP1)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.7	実施形態(すべて対面)		11人	実施形態(対面に一部メディア)		20人
A-2	復習をしたか	2.7	D-9	担当教員に質問したか	18.2%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.2	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	3.7
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.2
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	15.0%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	35.0%
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

楽しかったという人もいれば、難しかったという人もいますね。この授業は、皆さんが大学に入り始めて直面する論文を読んだり、自分で論文を書くための準備をするものです。ですから、難しい内容であることは承知しています。できるだけその壁を低くするために、オンデマンドにして繰り返し学修できるようにしたり、グループで話し合う時間を多くしたりしています。それでもわかりにくいことはあるでしょう。わかりにくい点があれば、遠慮せずに質問してください。具体的にわかりにくい点を言ってくれば、改善することができるので、是非、質問してほしいと思います。授業内で質問してくれると他の人にも共有できるので、是非、授業中に質問してほしいと思います。

皆さんの授業や課題への取り組みに関しては、とても頑張ったと思います。論文の調べ方や書き方がわかったと言う人も多いです。1つのことを探究することの面白さを実感された人もいます。色々な点で皆さんが成長できたようで良かったと思います。多少難しいことにも取り組むことは、達成感もあり、当然、力も付くので、とても重要なことです。皆で考えることが壁を低くすることに繋がるので、発表の時間を多くしたいと思います。また、壁を少しでも低くするために、同じことを繰り返し話すことも必要かなと思っています。

教員名	榎沢良彦									
科目名	児童学研究法《対象:大2育支C》						履修者数	37	回答者数	31
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・児童学の5つの領域を理解した上で、児童学にかかわる「問い」をたてることができる。(DP1) ・児童学における研究の基本的な形式を理解し説明できる。(DP1) ・児童学における研究方法のいくつかについて理解し、説明することができる。(DP1) ・児童学における研究の成果が質の高い保育実践に寄与することを理解し、実践上の課題と結び付けて考えることができる。(DP1, DP3) ・子どもの健やかな育ちを保障し、促すための技法のいくつかを発揮することに、児童学の研究が寄与していることを理解し、両者を結び付けて簡単な論文形式のレポートをまとめることができる。(DP1, DP3) ・児童学に関連する著書と雑誌論文の文献検索ができる。(DP1) ・児童学の領域において、雑誌論文を読むことで、その内容についての自分の考えをまとめるとともに、論文の形式について説明することができる。(DP1) ・児童学の著書や論文を活用し、引用の仕方等を踏まえて、論文の形式に則った簡単なレポートをまとめることができる。(DP1)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.1	実施形態(すべて対面)		9人	実施形態(対面に一部メディア)		21人
A-2	復習をしたか	2.9	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	4.8%
B-3	わかりやすさ	3.0	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	3.9
B-4	興味への工夫	2.9	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.2
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	9.5%
B-7	満足度	3.3	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	33.3%
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.4

教員コメント

色々学べて良かったという人もいれば、難しかったという人もいますね。この授業は、皆さんが大学に入り始めて直面する論文を読んだり、自分で論文を書くための準備をするものです。ですから、難しい内容であることは承知しています。できるだけその壁を低くするために、オンデマンドにして繰り返し学修できるようにしたり、グループで話し合う時間を多くしたりしています。説明が良くわからないなど、わかりにくい点があれば、そのときに遠慮せずに質問してください。具体的にわかりにくい点を言ってくれば、改善することができますし、他の人にも共有できるので、是非、授業中に質問してほしいと思います。

皆さんの授業や課題への取り組みに関しては、とても頑張ったと思います。資料の調べ方や論文の書き方がわかったと言う人もいますし、学びたいことを探究することの面白さを実感された人もいます。概ね、この授業で皆さんに理解してほしいこと、体験してほしいことを皆さんが理解し体験してくれたようです。皆さんが頑張った成果だと思います。多少難しいことにも取り組むことは、達成感もあり、当然、力も付くので、とても重要なことです。全員が発表する時間がなかったことを指摘してくれた人がいますが、確かに私も反省点と思っています。毎年、前年度の結果を踏まえて、発表時間を検討しています。それでもそのときの状況により、時間が足らなくなることが起きてしまいます。皆で考えることが壁を低くすることに繋がるので、発表の時間に付いては検討したいと思っています。また、壁を少しでも低くするために、同じことを繰り返し話すことも必要かなと思っています。

教員名	細田淳子／山本優子／鈴木順子／古川和代／本山美和／湯原千史							
科目名	保育内容の理解と方法B(音楽)《対象:大2育支A前B前C前》				履修者数	55	回答者数	53
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科	
授業形態	演習			必修／選択				

到達目標

1. 領域「表現」への理解を深め、乳幼児期の音楽表現について、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』『幼保連携型認定子ども園・保育要領』に沿った考え方ができる。(DP6) 2. 子どもの生活と遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養うための環境構成や保育において子どもの表現を育てるために必要な知識と技能を身につける。(DP3・DP5) 3. 領域「表現」のねらいをふまえ、音楽表現の指導法について理解し、音楽遊びを構想・実践できる。(DP5・DP6・DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.8	実施形態(すべて対面)		53人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	43.4%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

この授業を通して、それぞれの課題をクリアし成長されたことをとても嬉しく思います。

授業では、「手あそびうた」「わらべうた」「集団あそびうた」「創作あそびうた」の実演と「導入、展開、まとめ」を意識する大事さを学びました。

自由記述に「グループで楽しみながら学べた」「実演の力がついた」とあるように、人前に立つことが苦手な人は、毎回の努力により最終的には、表情豊かに言葉も明瞭に表現できるようになり、得意な人は、更にコミュニケーションをとる中で遊びを発展できるようになっていきました。又、友達のアイデアに感化され互いに成長し合う姿もあり向上心を持って取り組めていました。

一方で、4割弱の皆さんが予習や事前学習にかけた時間が1時間以内、5割強の皆さんが各回の授業後に復習などを行う時間が1時間以内という結果でした。リズムや音程を正しく歌うためには時間が必要ですので、録音などして自分の歌を客観的に聴きながら練習することを今後もお勧めします。

保育現場で日々子どもたちの言葉や動きからあそび歌を展開して、それぞれオリジナルの楽しい空間が作り出せると良いですね。

みなさんのこれからを心より応援しています。

教員名	細田淳子／山本優子／鈴木順子／古川和代／本山美和／湯原千史								
科目名	保育内容の理解と方法B(音楽)《対象:大2育支A後B後C後》					履修者数	54	回答者数	45
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

1. 領域「表現」への理解を深め、乳幼児期の音楽表現について、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』『幼保連携型認定子ども園・保育要領』に沿った考え方ができる。(DP6) 2. 子どもの生活と遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養うための環境構成や保育において子どもの表現を育てるために必要な知識と技能を身につける。(DP3・DP5) 3. 領域「表現」のねらいをふまえ、音楽表現の指導法について理解し、音楽遊びを構想・実践できる。(DP5・DP6・DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.5	実施形態(すべて対面)		45人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	31.1%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.6	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

この授業を通して、それぞれの課題をクリアし、成長されたことをとても嬉しく思います。

授業では、「手あそびうた」「わらべうた」「集団あそびうた」「創作あそびうた」の実演と「導入、展開、まとめ」を意識する大事さを学びました。

自由記述にもあるように「人前に立つことに慣れた」「他の人のアイデアから学べた」等、人前に立つことが苦手な人は、毎回の努力により最終的には、表情豊かに言葉も明瞭に表現できるようになり、得意な人は、更にコミュニケーションをとる中で遊びを発展できるようになっていきました。友達のアイディアに感化され互いに成長し合う姿もあり向上心を持って取り組めていました。

一方で、5割強の皆さんが予習や事前学習にかけた時間が1時間以内、6割強の皆さんが各回の授業後に復習などを行う時間が1時間以内という結果でした。リズムや音程を正しく歌うためには時間が必要ですので、録音などして自分の歌を客観的に聴きながら練習することを今後もお勧めします。

保育現場で日々子どもたちの言葉や動きからあそび歌を展開して、それぞれオリジナルの楽しい空間が作り出せると良いですね。

みなさんのこれからを心より応援しています。

教員名	金山和彦										
科目名	保育の造形実技A《対象:大2育支AB前》					履修者数	31	回答者数	26		
曜日	月	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科				
授業形態	演習			必修／選択							

到達目標

本演習では以下の目標を設定し、受講生の習熟度を高める。 ①素材加工の安全な技法を習得する。(DP3)
 ②造形表現の楽しさに気づき、子どもの多様な生活から生まれた表現欲求を受容した上で活動を構想することができる。(DP1)(DP2)(DP5) ③保育実践現場における多様な表現のあり方を受容し、連携活動を意欲的にこなすことができる。(DP8)(DP9)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.7	実施形態(すべて対面)		26人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	26.9%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.5	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

授業内容に関する満足度について9割の学生がおおよそポジティブな回答をしていることについては今後も継続していきたいです。予習復習については、教材準備、振り返り、作品図録作成の時間をあてはめてほしいです。「みんなと同じテーブルで作品をつくることができたのでわからなかったことなどを話し合いながらできました。」→わからなかったことについてはこちらで反省します。その部分を学生同士で補っていたことも理解できました。「ちょっとほのぼのしすぎてたかなと反省しました」→私の方で気を付けます。ほのぼのした空間で、子どもたちの造形遊びが実践できること。これこそが目指す保育とも思います。

教員名	金山和彦									
科目名	保育の造形実技A《対象:大2育支B後C》					履修者数	44	回答者数	37	
曜日	月	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

本演習では以下の目標を設定し、受講生の習熟度を高める。 ①素材加工の安全な技法を習得する。(DP3)
 ②造形表現の楽しさに気づき、子どもの多様な生活から生まれた表現欲求を受容した上で活動を構想することができる。(DP1)(DP2)(DP5) ③保育実践現場における多様な表現のあり方を受容し、連携活動を意欲的にこなすことができる。(DP8)(DP9)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.5	実施形態(すべて対面)		37人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.5	D-9	担当教員に質問したか	13.5%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.2	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

授業内容に関する満足度について9割の学生がおおよそポジティブな回答をしていることについては今後も継続していきたいです。予習復習については、教材準備、振り返り、作品図録作成の時間をあてはめてほしいです。
 「先生の否定的なコメントが少し多かったのが怖かったです」→造形保育における「遊び」と「指導」を問題としました。保育活動では皆が一律指導になりがちですので、その部分を強調しました。気を付けます。

教員名	塚本美起子／戸田雅美									
科目名	保育(遊び)指導論《対象:大2育支A》					履修者数	39	回答者数	39	
曜日	水	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 人間にとっての「遊び」についての基礎的知識を身に付ける。(DP3) (2) 乳幼児における「遊び」の教育的意義や重要性について理解し、説明できる。(DP7) (3) 幼稚園教育要領の全体構造における「遊び」の位置づけについて理解し、説明できる。(DP5・DP7) (4) 「遊び」を通しての総合的な指導の環境構成、教材の活用等についての指導方法や指導上の留意点について理解し、説明できる。(DP6) (5) 幼児の「遊び」の姿から「遊び」を通して学ぶ幼児を深く理解し、その深い幼児理解が具体的学びへの評価となることを理解した上で、幼児理解と評価を行うことができる。(DP7・DP8) (6) 「遊び」を通じた保育を、具体的な幼児の姿に即した指導の案を構想しそれを説明することができる。(DP5) (7) 「遊び」を通じた指導の指導案の書き方について理解し、活用できる。(DP3・DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.7	実施形態(すべて対面)		14人	実施形態(対面に一部メディア)		25人
A-2	復習をしたか	3.0	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	4.0%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	3.8
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.2
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	4.0%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	64.0%
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

教員名	塚本美起子／戸田雅美									
科目名	保育(遊び)指導論≪対象:大2育支B≫						履修者数	41	回答者数	35
曜日	火	時限	4限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 人間にとっての「遊び」についての基礎的知識を身に付ける。(DP3) (2) 乳幼児における「遊び」の教育的意義や重要性について理解し、説明できる。(DP7) (3) 幼稚園教育要領の全体構造における「遊び」の位置づけについて理解し、説明できる。(DP5・DP7) (4) 「遊び」を通しての総合的な指導の環境構成、教材の活用等についての指導方法や指導上の留意点について理解し、説明できる。(DP6) (5) 幼児の「遊び」の姿から「遊び」を通して学ぶ幼児を深く理解し、その深い幼児理解が具体的学びへの評価となることを理解した上で、幼児理解と評価を行うことができる。(DP7・DP8) (6) 「遊び」を通じた保育を、具体的な幼児の姿に即した指導の案を構想しそれを説明することができる。(DP5) (7) 「遊び」を通じた指導の指導案の書き方について理解し、活用できる。(DP3・DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.1	実施形態(すべて対面)		9人	実施形態(対面に一部メディア)		24人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	11.1%	F-15	担当教員に質問したか	4.2%
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	3.9
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		2人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	3.5	F-18	学修時間	2.9
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	3.5	F-19	教員への発言機会	20.8%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	50.0%	F-20	学生どうしの意見交換	45.8%
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	50.0%	F-21	学修の効果	3.8

教員コメント

教員名	塚本美起子／戸田雅美								
科目名	保育(遊び)指導論≪対象:大2育支C≫					履修者数	37	回答者数	33
曜日	水	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

(1) 人間にとっての「遊び」についての基礎的知識を身に付ける。(DP3) (2) 乳幼児における「遊び」の教育的意義や重要性について理解し、説明できる。(DP7) (3) 幼稚園教育要領の全体構造における「遊び」の位置づけについて理解し、説明できる。(DP5・DP7) (4) 「遊び」を通しての総合的な指導の環境構成、教材の活用等についての指導方法や指導上の留意点について理解し、説明できる。(DP6) (5) 幼児の「遊び」の姿から「遊び」を通して学ぶ幼児を深く理解し、その深い幼児理解が具体的学びへの評価となることを理解した上で、幼児理解と評価を行うことができる。(DP7・DP8) (6) 「遊び」を通じた保育を、具体的な幼児の姿に即した指導の案を構想しそれを説明することができる。(DP5) (7) 「遊び」を通じた指導の指導案の書き方について理解し、活用できる。(DP3・DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		16人	実施形態(対面に一部メディア)		17人
A-2	復習をしたか	2.9	D-9	担当教員に質問したか	6.3%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.1
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	29.4%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.8

教員コメント

教員名	八代陽子									
科目名	子ども理解と援助≪対象:大2育支A≫						履修者数	37	回答者数	35
曜日	火	時限	4限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)子ども理解における考え方について具体的に説明することができ、また、基礎的態度を実践することができる。1)子どもの遊びおよび生活の実態に即した幼児理解の意義を説明することができる。(DP2) 2)家庭、幼稚園・保育園・こども園・地域等の子どもを取り巻く環境の特質や関連性をとらえることの意義を説明することができる。(DP2) 3)子ども理解から発達及び学びをとらえる原理を説明することができる。(DP2) 4)子ども理解を深めるための教師の基本的な態度を実践することができる。(DP3) (2)子ども理解の方法を具体的に説明することができる。1)観察及び記録の意義並びに目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。(DP3) 2)個と集団の関係をとらえる意義及び方法を説明することができる。(DP2) 3)子どものつまづきを周りの幼児との関係及びその他の背景から説明することができる。(DP2) 4)保護者の心情及び基礎的な対応の方法を説明することができる。(DP2)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		35人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	5.7%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.4	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

全7回の授業と短い期間でしたがありがとうございました。

学生の取り組みと達成に関しては、「予習や事前学修にかけた時間」に関しては、平均2.09、「各回の授業後に、この授業に関連する学習」に関しては、平均2.24と低い現状がありました。一方、授業の到達目標の達成度は3.68と高くなっています。予習や事前学習の課題等を保障していきたいと思います。

授業に関しては、「教員の説明はわかりやすかったですか」は平均3.77、「授業内容に興味がわくように工夫されていたか」は平均3.82、「授業内容はシラバスと合致していましたか」は平均3.93、「この授業を全体的にみたとき、どの程度満足していますか」3.88とすべてにおいて高くなっていました。授業では保育現場の映像を活用しながらイメージがわくような工夫をいたしました。また、皆さんが、まだ実習を経験していないという状況を踏まえ、説明や教材内容について配慮いたしております。このような工夫がこの結果につながっているのではないかと思います。一方、「小テストやレポートその他の課題が出されましたか」は平均3.30と他の項目と比較して低くなっています。予習や事前学習の課題等を保障していきたいと思います。

自由記述に関しては、「現場のリアルな映像を毎回見ることが出来てとても勉強になりました。」「グループワークを通して自分の意見や感じたことと、他の学生の意見や感じたことを共有することで、自分にはなかった子ども理解に対する新しい考えを毎回の授業で見つけることが出来ました」など、事例や映像を取り入れた授業内容や、グループワークについての意見を多くいただきました。引き続き、事例や映像教材の工夫や、自分の見方だけではなく他者の視点からの気づきからの学びを深められる機会を大切にしていきたいと思います。

教員名	八代陽子									
科目名	子ども理解と援助≪対象:大2育支B≫						履修者数	36	回答者数	33
曜日	火	時限	5限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)子ども理解における考え方及について具体的に説明することができ、また、基礎的態度を実践することができる。1)子どもの遊びおよび生活の実態に即した幼児理解の意義を説明することができる。(DP2) 2)家庭、幼稚園・保育園・こども園・地域等の子どもを取り巻く環境の特質や関連性をとらえることの意義を説明することができる。(DP2) 3)子ども理解から発達及び学びをとらえる原理を説明することができる。(DP2) 4)子ども理解を深めるための教師の基本的な態度を実践することができる。(DP3) (2)子ども理解の方法を具体的に説明することができる。1)観察及び記録の意義並びに目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。(DP3) 2)個と集団の関係をとらえる意義及び方法を説明することができる。(DP2) 3)子どものつまづきを周りの幼児との関係及びその他の背景から説明することができる。(DP2) 4)保護者の心情及び基礎的な対応の方法を説明することができる。(DP2)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		33人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	6.1%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.1	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

全7回の授業と短い期間でしたがありがとうございました。

学生の取り組みと達成に関しては、「予習や事前学修にかけた時間」に関しては、平均2.09、「各回の授業後に、この授業に関連する学習」に関しては、平均2.24と低い現状がありました。一方、授業の到達目標の達成度は3.68と高くなっています。予習や事前学習の課題等を保障していきたいと思います。

授業に関しては、「教員の説明はわかりやすかったですか」は平均3.77、「授業内容に興味がわくように工夫されていたか」は平均3.82、「授業内容はシラバスと合致していましたか」は平均3.93、「この授業を全体的にみたとき、どの程度満足していますか」3.88とすべてにおいて高くなっていました。授業では保育現場の映像を活用しながらイメージがわくような工夫をいたしました。また、皆さんが、まだ実習を経験していないという状況を踏まえ、説明や教材内容について配慮いたしております。このような工夫がこの結果につながっているのではないかと思います。一方、「小テストやレポートその他の課題が出されましたか」は平均3.30と他の項目と比較して低くなっています。予習や事前学習の課題等を保障していきたいと思います。

自由記述に関しては、「現場のリアルな映像を毎回見ることが出来てとても勉強になりました。」「グループワークを通して自分の意見や感じたことと、他の学生の意見や感じたことを共有することで、自分にはなかった子ども理解に対する新しい考えを毎回の授業で見つけることが出来ました」など、事例や映像を取り入れた授業内容や、グループワークについての意見を多くいただきました。引き続き、事例や映像教材の工夫や、自分の見方だけではなく他者の視点からの気づきからの学びを深められる機会を大切にしていきたいと思います。

教員名	八代陽子									
科目名	子ども理解と援助≪対象:大2育支C≫						履修者数	36	回答者数	35
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)子ども理解における考え方について具体的に説明することができ、また、基礎的態度を実践することができる。(1)子どもの遊びおよび生活の実態に即した幼児理解の意義を説明することができる。(DP2) (2)家庭、幼稚園・保育園・こども園・地域等の子どもを取り巻く環境の特質や関連性をとらえることの意義を説明することができる。(DP2) (3)子ども理解から発達及び学びをとらえる原理を説明することができる。(DP2) (4)子ども理解を深めるための教師の基本的な態度を実践することができる。(DP3) (2)子ども理解の方法を具体的に説明することができる。(1)観察及び記録の意義並びに目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。(DP3) (2)個と集団の関係をとらえる意義及び方法を説明することができる。(DP2) (3)子どものつまづきを周りの幼児との関係及びその他の背景から説明することができる。(DP2) (4)保護者の心情及び基礎的な対応の方法を説明することができる。(DP2)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		34人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	14.7%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.4	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	2.0	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	-

教員コメント

全7回の授業と短い期間でしたがありがとうございました。

学生の取り組みと達成に関しては、「予習や事前学修にかけた時間」に関しては、平均2.09、「各回の授業後に、この授業に関連する学習」に関しては、平均2.24と低い現状がありました。一方、授業の到達目標の達成度は3.68と高くなっています。予習や事前学習の課題等を保障していきたいと思います。

授業に関しては、「教員の説明はわかりやすかったですか」は平均3.77、「授業内容に興味がわくように工夫されていたか」は平均3.82、「授業内容はシラバスと合致していましたか」は平均3.93、「この授業を全体的にみたとき、どの程度満足していますか」3.88とすべてにおいて高くなっていました。授業では保育現場の映像を活用しながらイメージがわくような工夫をいたしました。また、皆さんが、まだ実習を経験していないという状況を踏まえ、説明や教材内容について配慮いたしております。このような工夫がこの結果につながっているのではないかと思います。一方、「小テストやレポートその他の課題が出されましたか」は平均3.30と他の項目と比較して低くなっています。予習や事前学習の課題等を保障していきたいと思います。

自由記述に関しては、「現場のリアルな映像を毎回見ることが出来てとても勉強になりました。」「グループワークを通して自分の意見や感じたことと、他の学生の意見や感じたことを共有することで、自分にはなかった子ども理解に対する新しい考えを毎回の授業で見つけることが出来ました」など、事例や映像を取り入れた授業内容や、グループワークについての意見を多くいただきました。引き続き、事例や映像教材の工夫や、自分の見方だけではなく他者の視点からの気づきからの学びを深められる機会を大切にしていきたいと思います。

教員名	武田洋子									
科目名	子ども家庭支援論≪対象:大2育支AB前≫						履修者数	57	回答者数	50
曜日	月	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

1. 子育て家庭に対して保育士の行う支援の意義や役割について説明できる(DP4)。2. 保育士による子ども家庭支援の基本について説明できる(DP3, DP4)。3. 子育て家庭に対する支援体制について、歴史的経緯も含めて説明できる(DP4)。4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と、子ども家庭支援の現状、課題について説明できる(DP4, DP8)。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		34人	実施形態(対面に一部メディア)		15人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	6.7%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	3.4
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.5
B-5	課題	3.3	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	2.7
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	2.0	F-19	教員への発言機会	6.7%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	33.3%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.6

教員コメント

【学生の取り組み・達成について】

・予習復習とも1時間以内が5割前後で一番多く、1～2時間が4割強いた。一方で、ほとんどしなかった学生も多少おり、事前事後学修についてはばらつきがあった。授業の到達目標に対する各自の達成度については、「達成できた」「達成できた」と答えた学生で100%を占めた。

【教員の授業の仕方について】

・教員説明はわかりやすく、興味がわくように工夫されており、全体的に満足していると学生は捉えられていた。

【自由記述から読み取れること】

・調べ学習をしたり、動画を視聴したりした後、それをもとにグループで話し合うことで、理解が深まったようだ。教員の資料はわかりやすいと好評で、子ども家庭支援が包括する幅広い内容について興味深く学べたようだった。

【次年度に向けた課題・その改善案】

・今年度、調べ学習を前年より少し多く取り入れてみたが、学生から好評だった。次年度もより効果的な調べ学習の機会を提供できるよう工夫していきたい。

教員名	武田洋子									
科目名	子ども家庭支援論≪対象:大2育支B後C≫						履修者数	57	回答者数	22
曜日	月	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

1. 子育て家庭に対して保育士の行う支援の意義や役割について説明できる(DP4)。2. 保育士による子ども家庭支援の基本について説明できる(DP3, DP4)。3. 子育て家庭に対する支援体制について、歴史的経緯も含めて説明できる(DP4)。4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と、子ども家庭支援の現状、課題について説明できる(DP4, DP8)。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		2人	実施形態(対面に一部メディア)		19人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	5.3%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	3.7
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	3.4	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	2.4
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	10.5%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	31.6%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.8

教員コメント

・予習復習とも1時間以内が一番多く(6, 7割程度)、次いで多いのが1～2時間だった。一方で、ほとんどしなかった学生も多少おり、事前事後学修についてはばらつきがあった。授業の到達目標に対する各自の達成度については、「達成できた」「達成できた」と答えた学生で100%を占めた。

【教員の授業の仕方について】

・教員説明はわかりやすく、興味がわくように工夫されており、全体的に満足していると学生は捉えられていた。

【自由記述から読み取れること】

・調べ学習をしたり、動画を視聴したりした後、それをもとにグループで話し合うことで、理解が深まったようだ。教員の資料はわかりやすいと好評で、子ども家庭支援が包括する幅広い内容について興味深く学べたようだった。

【次年度に向けた課題・その改善案】

・今年度、調べ学習を前年より少し多く取り入れてみたが、学生から好評だった。次年度もより効果的な調べ学習の機会を提供できるよう工夫していきたい。

教員名	鈴木彬子									
科目名	子育て支援《対象:大2育支A》						履修者数	37	回答者数	35
曜日	月	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1)保育者による子育て支援の原則について説明することができる。(DP3) (2)保育と一体となった子育て支援の実践について、具体的な例を挙げ、説明することができる。(DP3・DP4) (3)保育中の出来事から子どもの成長を考察し、その内容を分かりやすい文章に表現できる。(DP3・DP6) (4)支援を必要とする家庭の現状から課題を整理し、解決策について議論することができる。(DP3・DP4・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.5	実施形態(すべて対面)		33人	実施形態(対面に一部メディア)		2人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	3.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	2.5
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.5
B-5	課題	3.6	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.5
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	0.0%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.0

教員コメント

本教科は、保育所・幼稚園・こども園等において保育者が実践する子育て支援について、演習課題を通して実践的に学ぶことを目的として展開している。

学生から各種演習課題について「日々の保育や日常のコミュニケーションからの保護者支援についてより実践的に学ぶことができた」との評価があり、授業の目的に応じた演習課題が設定できたものと思う。

今後も、実際に保育現場で行われている取り組みから演習課題を設定し、学生が子育て支援・保護者支援に対して具体的なイメージが持てるように授業内容を工夫したい。

オンデマンド教材を活用した第6回授業について好評を得たため、次年度から第6回授業内容はオンデマンド授業として展開し、教材を早めに公開することで学生が計画的かつ主体的に取り組むことができるように工夫して実施する。

事前学修・事後学修については、1～2時間程度の取り組みになるよう、引き続き課題の目的を明確に、十分な説明を行うように努めることで改善を図りたい。

教員名	鈴木彬子								
科目名	子育て支援《対象:大2育支B》					履修者数	38	回答者数	29
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

(1)保育者による子育て支援の原則について説明することができる。(DP3) (2)保育と一体となった子育て支援の実践について、具体的な例を挙げ、説明することができる。(DP3・DP4) (3)保育中の出来事から子どもの成長を考察し、その内容を分かりやすい文章に表現できる。(DP3・DP6) (4)支援を必要とする家庭の現状から課題を整理し、解決策について議論することができる。(DP3・DP4・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		23人	実施形態(対面に一部メディア)		6人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	8.7%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.3
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	16.7%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	66.7%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.3

教員コメント

本教科は、保育所・幼稚園・こども園等において保育者が実践する子育て支援について、演習課題を通して実践的に学ぶことを目的として展開している。

学生から「グループワークなどを行うことでより理解が深められた」との評価があり、今後も授業の目的に応じた演習課題を工夫し、グループワーク等を通して学生が自ら考える機会を保障することで知識の定着に取り組みたい。

オンデマンド教材を活用した第6回授業について好評を得たため、次年度から第6回授業内容はオンデマンド授業として展開し、教材を早めに公開することで学生が計画的かつ主体的に取り組むことができるように工夫して実施する。

事前学修・事後学修については、「ほとんどしなかった」の回答が散見された。実態として1～2時間程度の取り組みになるよう、引き続き課題の目的を明確に、十分な説明を行うように努めることで改善を図りたい。

教員名	鈴木彬子								
科目名	子育て支援《対象:大2育支C》					履修者数	36	回答者数	33
曜日	月	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

(1)保育者による子育て支援の原則について説明することができる。(DP3) (2)保育と一体となった子育て支援の実践について、具体的な例を挙げ、説明することができる。(DP3・DP4) (3)保育中の出来事から子どもの成長を考察し、その内容を分かりやすい文章に表現できる。(DP3・DP6) (4)支援を必要とする家庭の現状から課題を整理し、解決策について議論することができる。(DP3・DP4・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		16人	実施形態(対面に一部メディア)		16人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	6.3%	F-15	担当教員に質問したか	6.3%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	3.6
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.6	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.4
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	6.3%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	25.0%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

本教科は、保育所・幼稚園・こども園等において保育者が実践する子育て支援について、演習課題を通して実践的に学ぶことを目的として展開している。

学生から各種演習課題について「実践的な内容が多く、子育て支援の理解に繋がった」との評価があり、授業の目的に応じた演習課題が設定できたものと思う。

今後も、実際に保育現場で行われている取り組みから演習課題を設定し、学生が自ら考えることで知識が定着するように、グループワークも積極的に取り入れながら授業を展開したい。

オンデマンド教材を活用した第6回授業について好評を得たため、次年度から第6回授業内容はオンデマンド授業として展開し、教材を早めに公開することで学生が計画的かつ主体的に取り組むことができるように工夫して実施する。

事前学修・事後学修については、1～2時間程度の取り組みになるよう、引き続き課題の目的を明確に、十分な説明を行うように努めることで改善を図りたい。

教員名	堀科									
科目名	乳児保育Ⅱ《対象:大2育支A》						履修者数	38	回答者数	36
曜日	金	時限	4限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

3歳未満の子どもの発達について理解するとともに、保育者としての実践力を養う。そのための到達目標は以下の4つである。①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの重要性を述べることができる。(DP6 DP7) ②養護および教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法および環境について具体的に列挙することができる。(DP5 DP6) ③乳児保育における配慮の実際について、事例などを通して理解し、実践に結びつけることができる。(DP3) ④上記①から③を踏まえ、乳児保育における計画を作成し、指導案を立案することができる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		22人	実施形態(対面に一部メディア)		12人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	3.5
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		2人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	3.5	F-18	学修時間	2.8
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	8.3%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.6

教員コメント

概ね興味や関心をもって授業に臨んでおられた様子が窺えました。授業の内容についてわかりやすいという評価が最も多く、満足度も高い結果となりました。メディア授業についてもより理解を深められたとの意見がありました。その点については従来の取り組みをふまえた工夫が奏功したので良かったです。一方、事前学修・事後学修については取り組みを指示しており、また多くの学生が実際に取り組んでいましたが、授業に向ける授業準備の値が低く、このことから授業準備と事前事後学修の目的に齟齬があったように思っています。その点は改善したいと思います。

教員名	堀科									
科目名	乳児保育Ⅱ《対象:大2育支B》						履修者数	36	回答者数	32
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

3歳未満の子どもの発達について理解するとともに、保育者としての実践力を養う。そのための到達目標は以下の4つである。①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの重要性を述べることができる。(DP6 DP7) ②養護および教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法および環境について具体的に列挙することができる。(DP5 DP6) ③乳児保育における配慮の実際について、事例などを通して理解し、実践に結びつけることができる。(DP3) ④上記①から③を踏まえ、乳児保育における計画を作成し、指導案を立案することができる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.1	実施形態(すべて対面)		16人	実施形態(対面に一部メディア)		12人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	6.3%	F-15	担当教員に質問したか	16.7%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	3.6
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		4人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	2.5
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	25.0%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	33.3%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.4

教員コメント

概ね興味や関心をもって授業に臨んでおられた様子が窺えました。授業の内容についてわかりやすいという評価が最も多く、満足度も高い結果となりました。メディア授業についてもより理解を深められたとの意見がありました。その点については従来の取り組みをふまえた工夫が奏功したので良かったです。一方、事前学修・事後学修については取り組みを指示しており、また多くの学生が実際に取り組んでいましたが、授業に向ける授業準備の値が低く、このことから授業準備と事前事後学修の目的に齟齬があったように思っています。その点は改善したいと思います。

教員名	堀科									
科目名	乳児保育Ⅱ《対象:大2育支C》						履修者数	37	回答者数	33
曜日	木	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

3歳未満の子どもの発達について理解するとともに、保育者としての実践力を養う。そのための到達目標は以下の4つである。
 ①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの重要性を述べることができる。(DP6 DP7)
 ②養護および教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法および環境について具体的に列挙することができる。(DP5 DP6) ③乳児保育における配慮の実際について、事例などを通して理解し、実践に結びつけることができる。(DP3) ④上記①から③を踏まえ、乳児保育における計画を作成し、指導案を立案することができる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		5人	実施形態(対面に一部メディア)		27人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	20.0%	F-15	担当教員に質問したか	3.7%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.4	F-16	学生の参加	3.5
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	2.9
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	11.1%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	22.2%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	3.9

教員コメント

概ね興味や関心をもって授業に臨んでおられた様子が窺えました。授業の内容についてわかりやすいという評価が最も多く、満足度も高い結果となりました。メディア授業についてもより理解を深められたとの意見がありました。その点については従来の取り組みをふまえた工夫が奏功したので良かったです。一方、事前学修・事後学修については取り組みを指示しており、また多くの学生が実際に取り組んでいましたが、授業に向ける授業準備の値が低く、このことから授業準備と事前事後学修の目的に齟齬があったように思っています。その点は改善したいと思います。

教員名	野見山直子									
科目名	保育内容演習(言葉)《対象:大2育支A》					履修者数	37	回答者数	36	
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 人間にとっての言葉の意義や機能について説明することができる。(DP8) 2. 誕生から就学前までの子どもの言葉の発達過程について説明できる。(DP6・DP7) 3. 子どもの言葉の発達を促す援助の在り方について理論的に検討することができる。(DP5・DP6・DP7・DP8) 4. 保育内容の領域「言葉」のねらいと内容について具体的に説明できる。(DP5・DP6) 5. 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。(DP5・DP6) 6. 保育内容の領域「言葉」のねらいと内容を実践の場で応用するための議論をすることができる。(DP5・DP6・DP8) 7. 言葉や言葉に関する児童文化財に興味・関心をもち、自身の言葉の感覚をを豊かにしようとする。(DP5・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		35人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.2	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	0.0%
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

教員名	野見山直子									
科目名	保育内容演習(言葉)《対象:大2育支B》					履修者数	38	回答者数	30	
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 人間にとっての言葉の意義や機能について説明することができる。(DP8) 2. 誕生から就学前までの子どもの言葉の発達過程について説明できる。(DP6・DP7) 3. 子どもの言葉の発達を促す援助の在り方について理論的に検討することができる。(DP5・DP6・DP7・DP8) 4. 保育内容の領域「言葉」のねらいと内容について具体的に説明できる。(DP5・DP6) 5. 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。(DP5・DP6) 6. 保育内容の領域「言葉」のねらいと内容を実践の場で応用するための議論をすることができる。(DP5・DP6・DP8) 7. 言葉や言葉に関する児童文化財に興味・関心をもち、自身の言葉の感覚をを豊かにしようとする。(DP5・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		30人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	6.7%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.3	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	野見山直子									
科目名	保育内容演習(言葉)《対象:大2育支C》					履修者数	37	回答者数	32	
曜日	火	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 人間にとっての言葉の意義や機能について説明することができる。(DP8) 2. 誕生から就学前までの子どもの言葉の発達過程について説明できる。(DP6・DP7) 3. 子どもの言葉の発達を促す援助の在り方について理論的に検討することができる。(DP5・DP6・DP7・DP8) 4. 保育内容の領域「言葉」のねらいと内容について具体的に説明できる。(DP5・DP6) 5. 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。(DP5・DP6) 6. 保育内容の領域「言葉」のねらいと内容を実践の場で応用するための議論をすることができる。(DP5・DP6・DP8) 7. 言葉や言葉に関する児童文化財に興味・関心をもち、自身の言葉の感覚をを豊かにしようとする。(DP5・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.1	実施形態(すべて対面)		32人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	6.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.2	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	細田 淳子									
科目名	音楽表現《対象:大2育支A》						履修者数	38	回答者数	37
曜日	金	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

音楽表現にかかわる演習科目であるため、以下を到達目標とする。1. 乳幼児期の音楽表現について、新幼稚園教育要領、新保育所保育指針等を理解し、さまざまな音楽表現ができる。(DP5) 2. 幼児の音楽表現活動(幼児の歌唱・幼児の楽器を使った表現活動)について理解でき、表現できる。(DP3) 3. 子どもが音や動きや声、そして楽器を使って自由に楽しんで表現することの意味を考え、様々な方法を体験しつつ学び、子どもの前で表現できる。(DP5) (DP6) 4. 歌唱教材をはじめ、合奏曲などの教材を自ら探したり、作り出したりできる。また表現あそびを考えだしたり、アレンジしたりできる。(DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		36人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	13.9%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.3	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	2.0	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	-

教員コメント

最終授業の最後でみなさんにお伝えしましたように、私、細田 淳子は、この授業をもって35年間の東京家政大学での授業を終えます。定年退職という日が目の前に来ても授業は毎回楽しく、それまでと同様に全力でやってきました。今回はみんな暖かなコメントばかりで、嬉しく思いました。

例えば

- ・オスティナートや指揮法など保育に活かせる方法を学ぶことができた。
- ・最後のわらべ歌の合奏がとても楽しかったです。中学以来の合奏で、みんなで合わせる楽しさを実感できました。
- ・怒鳴らせない歌い方、幼児の発声法、オスティナートをつかった合奏方法、や、わらべうたなど、初めて知ることも多く、とても楽しい授業でした。来年も先生に教えて頂きたかったです…。短い間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございました！」

等といろいろ書いて下さっていましたが、私が35年間ずっと大事にしてきた内容は2つあります。1つは「怒鳴らせない歌い方の幼児の発声法」です。

2つ目は、「オスティナートを重ねて行う合奏の作り方と指導法、つまり指揮法」です。すくってどうぞ、と回してキュー ですね！

保育者となったときに音楽表現の授業、特に上記二つの授業を思い出し、子どもたちと楽しい音楽の時間を過ごしてほしいと願っています。

教員最後のあなたたちのクラスが、明るく活気に満ちていて「うた・合奏」の中の新曲の振り付けと歌の発表も見えてとても楽しいものでした。私からも「ありがとう！」

素敵な保育者になってください。 細田 淳子

教員名	細田 淳子								
科目名	音楽表現《対象:大2育支B》					履修者数	36	回答者数	33
曜日	金	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

音楽表現にかかわる演習科目であるため、以下を到達目標とする。1. 乳幼児期の音楽表現について、新幼稚園教育要領、新保育所保育指針等を理解し、さまざまな音楽表現ができる。(DP5) 2. 幼児の音楽表現活動(幼児の歌唱・幼児の楽器を使った表現活動)について理解でき、表現できる。(DP3) 3. 子どもが音や動きや声、そして楽器を使って自由に楽しんで表現することの意味を考え、様々な方法を体験しつつ学び、子どもの前で表現できる。(DP5) (DP6) 4. 歌唱教材をはじめ、合奏曲などの教材を自ら探したり、作り出したりできる。また表現あそびを考えだしたり、アレンジしたりできる。(DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		33人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	27.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

最終授業の最後でみなさんにお伝えしましたように、私、細田 淳子は、この授業をもって35年間の東京家政大学での授業を終えます。定年退職という日が目の前に来ても授業は毎回楽しく、それまでと同様に全力でやってきました。今回はみんな暖かなコメントばかりで、嬉しく思いました。

例えば

- ・オスティナートや指揮法など保育に活かせる方法を学ぶことができた。
- ・最後のわらべ歌の合奏がとても楽しかったです。中学以来の合奏で、みんなで合わせる楽しさを実感できました。
- ・怒鳴らせない歌い方、幼児の発声法、オスティナートをつかった合奏方法、や、わらべうたなど、初めて知ることも多く、とても楽しい授業でした。来年も先生に教えて頂きたかったです…。短い間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございました！」

等といろいろ書いて下さっていましたが、私が35年間ずっと大事にしてきた内容は2つあります。1つは「怒鳴らせない歌い方の幼児の発声法」です。

2つ目は、「オスティナートを重ねて行う合奏の作り方と指導法、つまり指揮法」です。すくってどうぞ、と回してキュー ですね！

保育者となったときに音楽表現の授業、特に上記二つの授業を思い出し、子どもたちと楽しい音楽の時間を過ごしてほしいと願っています。

教員最後のあなたたちのクラスが、明るく活気に満ちていて「うた・合奏」の中の新曲の振り付けと歌の発表も見えてとても楽しいものでした。私からも「ありがとう！」

素敵な保育者になってください。 細田 淳子

教員名	細田 淳子								
科目名	音楽表現《対象:大2育支C》					履修者数	37	回答者数	35
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	児童学科		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

音楽表現にかかわる演習科目であるため、以下を到達目標とする。1. 乳幼児期の音楽表現について、新幼稚園教育要領、新保育所保育指針等を理解し、さまざまな音楽表現ができる。(DP5) 2. 幼児の音楽表現活動(幼児の歌唱・幼児の楽器を使った表現活動)について理解でき、表現できる。(DP3) 3. 子どもが音や動きや声、そして楽器を使って自由に楽しんで表現することの意味を考え、様々な方法を体験しつつ学び、子どもの前で表現できる。(DP5) (DP6) 4. 歌唱教材をはじめ、合奏曲などの教材を自ら探したり、作り出したりできる。また表現あそびを考えだしたり、アレンジしたりできる。(DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		35人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	20.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

最終授業の最後でみなさんにお伝えしましたように、私、細田 淳子は、この授業をもって35年間の東京家政大学での授業を終えます。定年退職という日が目の前に来ても授業は毎回楽しく、それまでと同様に全力でやってきました。今回はみんな暖かなコメントばかりで、嬉しく思いました。

例えば

- ・オスティナートや指揮法など保育に活かせる方法を学ぶことができた。
- ・最後のわらべ歌の合奏がとても楽しかったです。中学以来の合奏で、みんなで合わせる楽しさを実感できました。
- ・怒鳴らせない歌い方、幼児の発声法、オスティナートをつかった合奏方法、や、わらべうたなど、初めて知ることも多く、とても楽しい授業でした。来年も先生に教えて頂きたかったです…。短い間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございました！」

等といろいろ書いて下さっていましたが、私が35年間ずっと大事にしてきた内容は2つあります。1つは「怒鳴らせない歌い方の幼児の発声法」です。

2つ目は、「オスティナートを重ねて行う合奏の作り方と指導法、つまり指揮法」です。すくってどうぞ、と回してキュー ですね！

保育者となったときに音楽表現の授業、特に上記二つの授業を思い出し、子どもたちと楽しい音楽の時間を過ごしてほしいと願っています。

教員最後のあなたたちのクラスが、明るく活気に満ちていて「うた・合奏」の中の新曲の振り付けと歌の発表も見えてとても楽しいものでした。私からも「ありがとう！」

素敵な保育者になってください。 細田 淳子